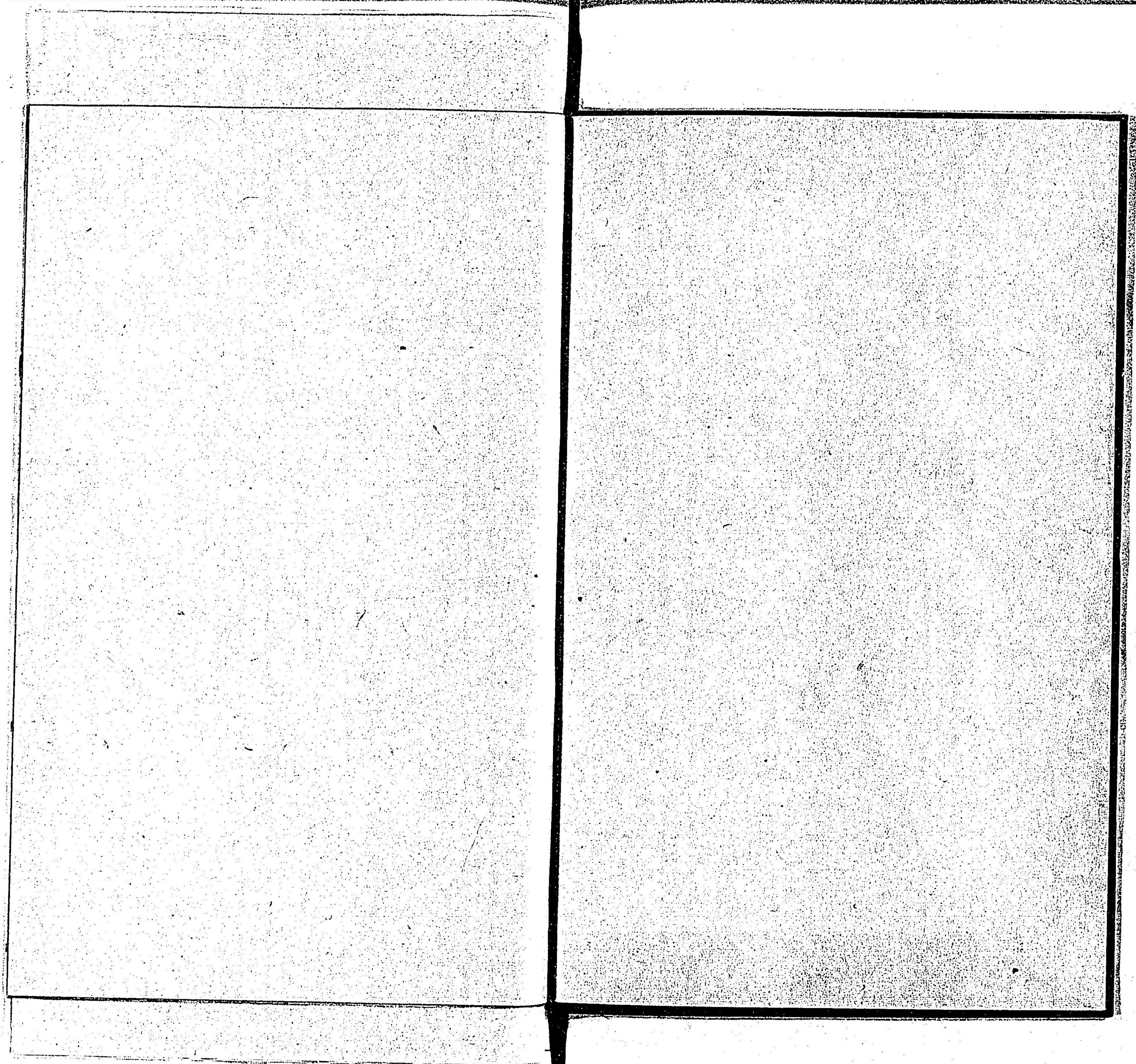


九州鐵道旅客便覽

15

219

Ⓜ





六花菴編纂

# 九州鐵道旅客便覽

福岡市須尋

六花翁主藏版

此書多端起  
區名境可追隨  
事逢人向一部新  
第是導師

空之浦月 拜

既讀多端起古思

通境可遠隨石須

事逢人向一部新

第是導師

空人蒲月拜



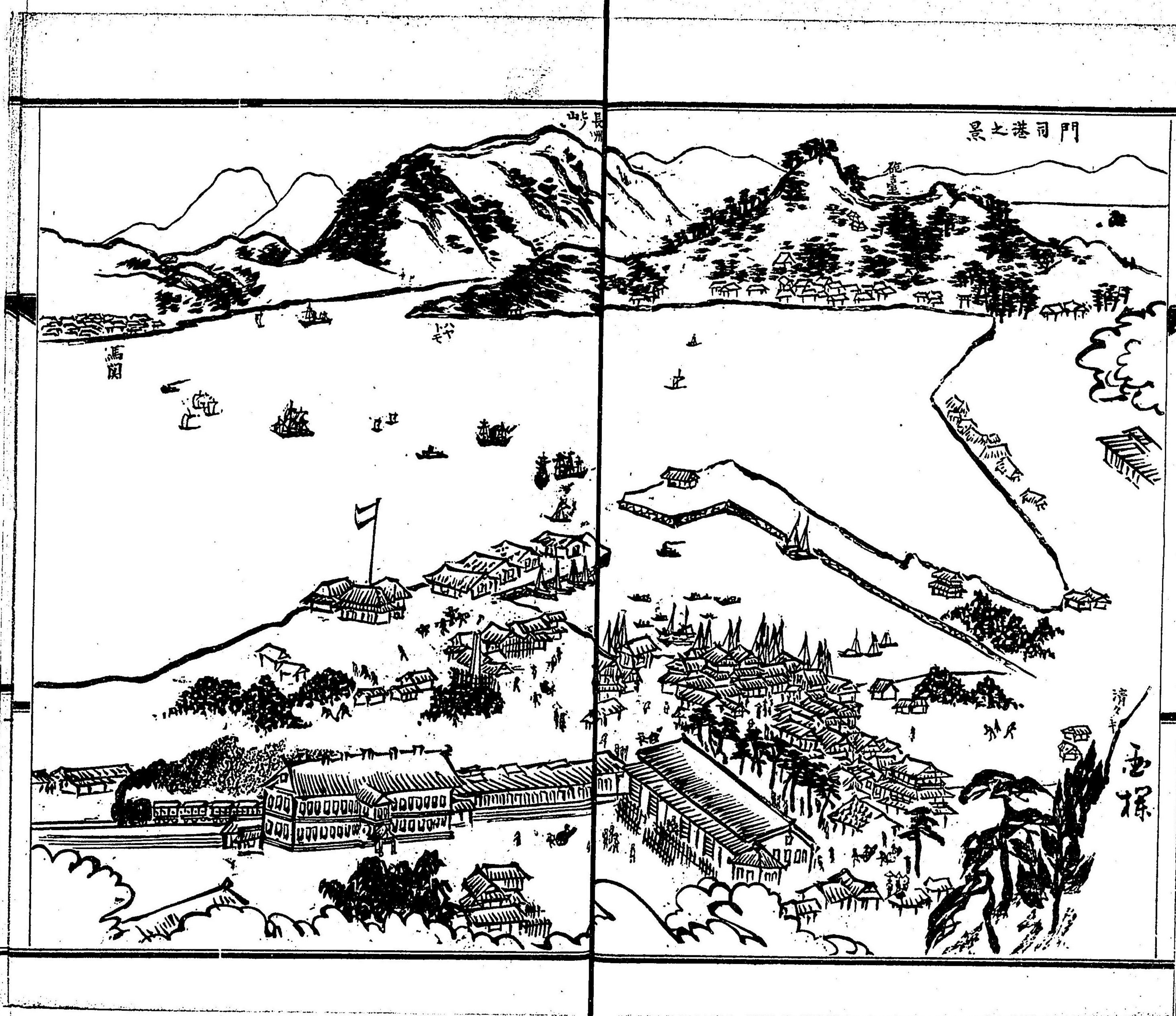
古遠志一矣  
 夕露沾我衣時  
 建上三三書曰  
 歲久多矣書  
 林



自序

訪名邑。探勝地。行旅之樂。莫是過也。鎮西鐵  
 道之布設也。貫一豐二。筑雙肥。而沿道頗多  
 可過訪者。素抱桑弧志。而未果者。陸續舛車。  
 其往訪名勝。甚便焉。而車勢電速。徒過不能  
 訪者有之。雖訪而不暇細閱者有之。余乃考  
 舊誌。問故老。且挿以圖繪。塗鴉累牘。行囊頗  
 膨脹。嘗在停車場。示之旅客。旅客甚便之。遂  
 冠以便覽之名。以付剞劂云。

六花庵誌



門司港之景

長門山

花臺山

馬関

清見  
玉標

凡例

此編九州鐵道旅客の便に供するを以て要旨と故に其線路の東端なる門司港より筆を起し熊本市佐賀市に至り畢る編中甲乙停車場の間距離を畫き軌道に擬し其近傍勝區の記載す可き者は○印を附えて其概略或は其名のみを記し其中記事の詳細を要する者ハ又其側ら△印を添へ別項に記載せる分とす編中考子節女傳記の若し行文の繁雜に涉る者あり此等ハ殊に本文の傍ら假名ヲ附一兒童にも讀易らしむ聊善行と奨勵する編者の婆心なり編中鐵道の貫通せる市邑の會社及ひ舖名の開へ在る諸商と列載すと雖も各地市坊の廣き商舖の多き誤謬脱漏無き能わす幸に教示あらば訂正或は増補すべし行文の體例雅馴を要すと雖も方語俗言の入口に膾炙する者之亦之を用ゆ其眞を失ん事懼ればあり本文及側ら附添せる假名の聲音用字の若し外訛無き能わす印刷に急迫なるを以て一々校正せず讀者幸に諒せよ

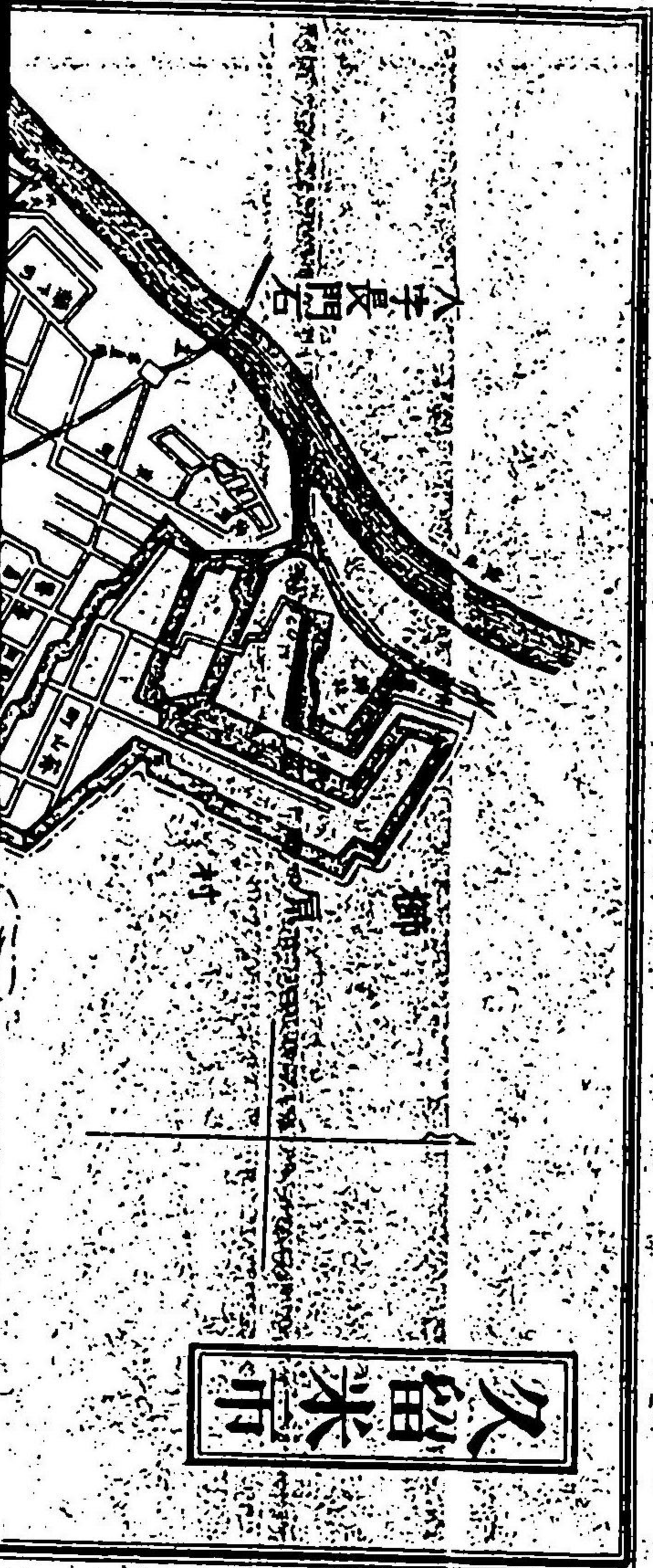
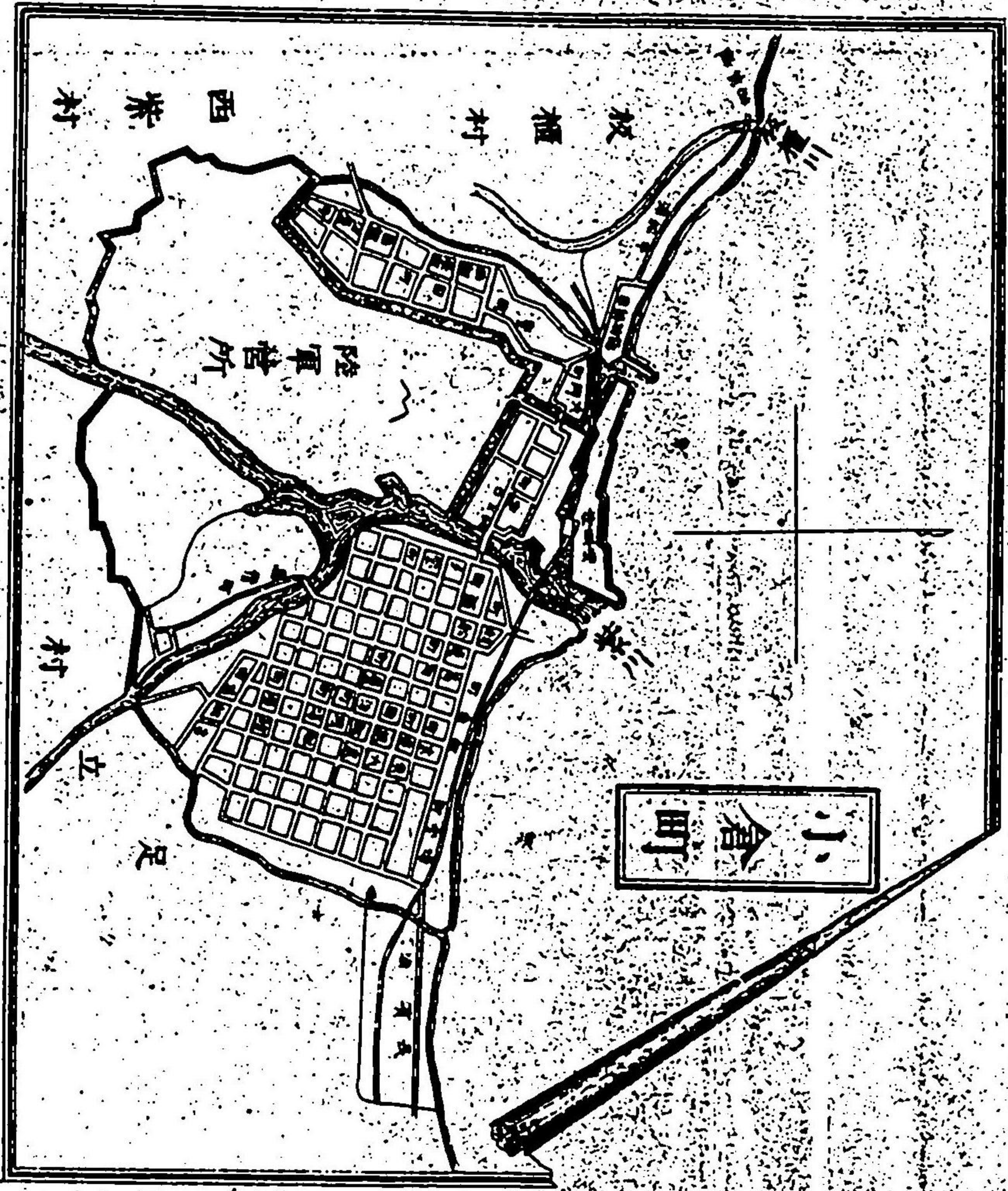
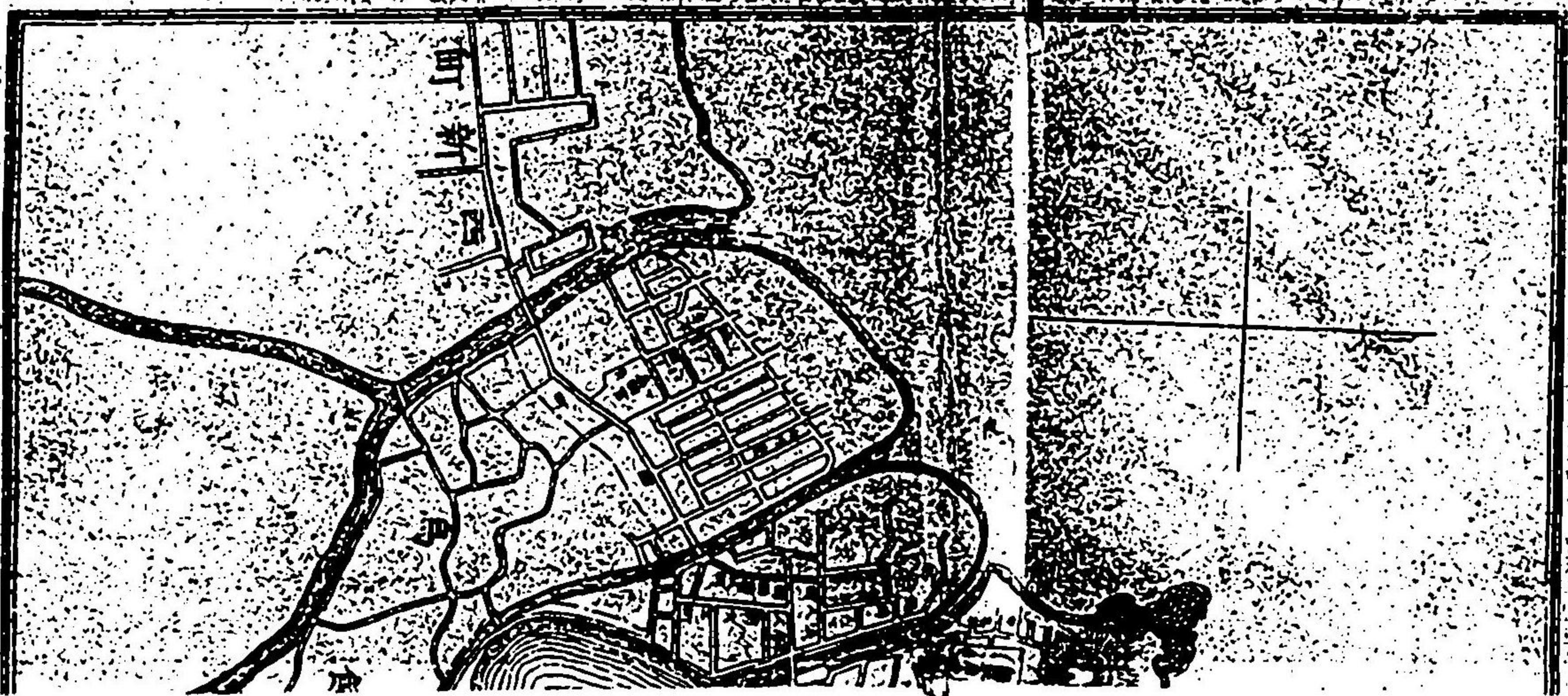
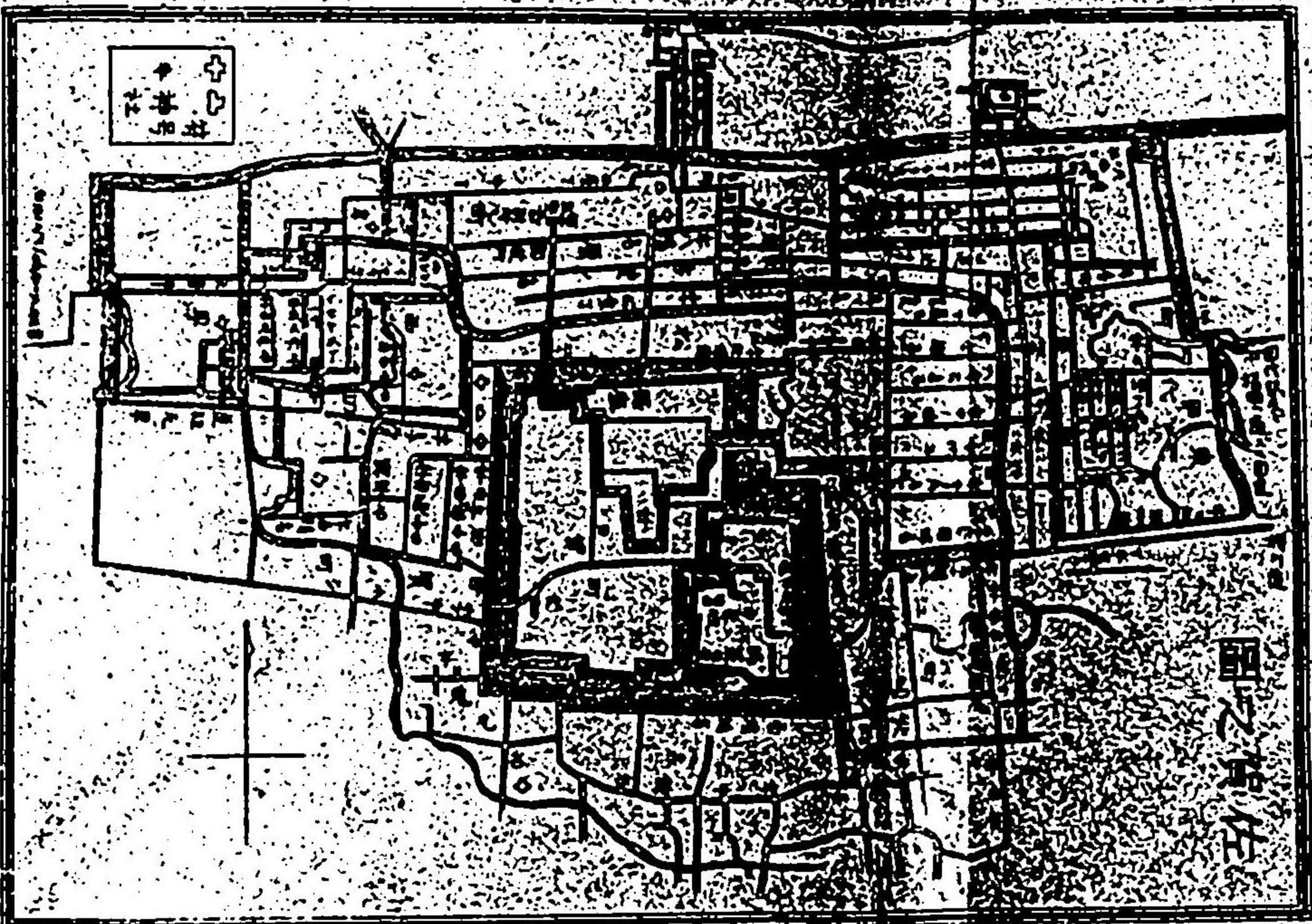
編者識

目次

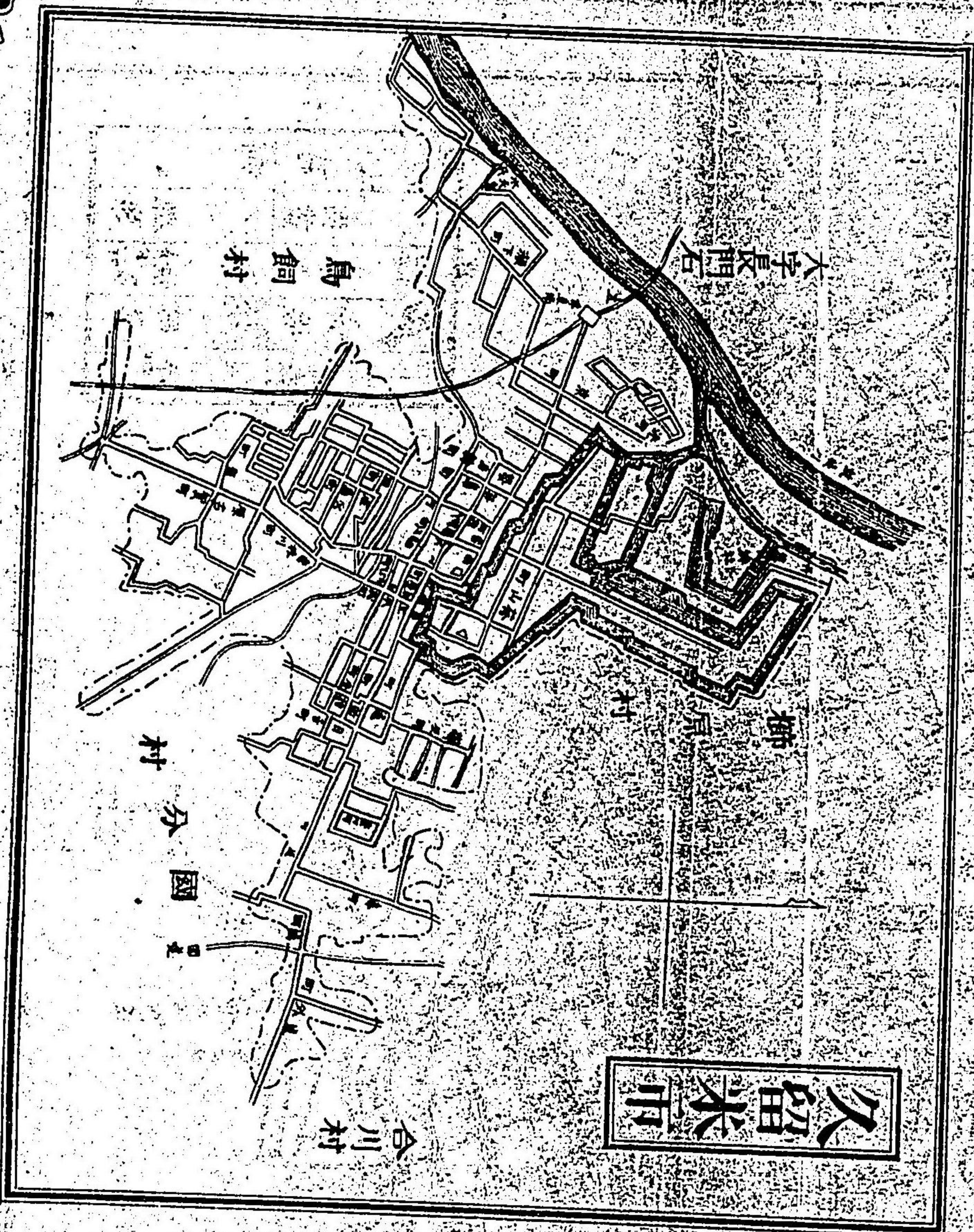
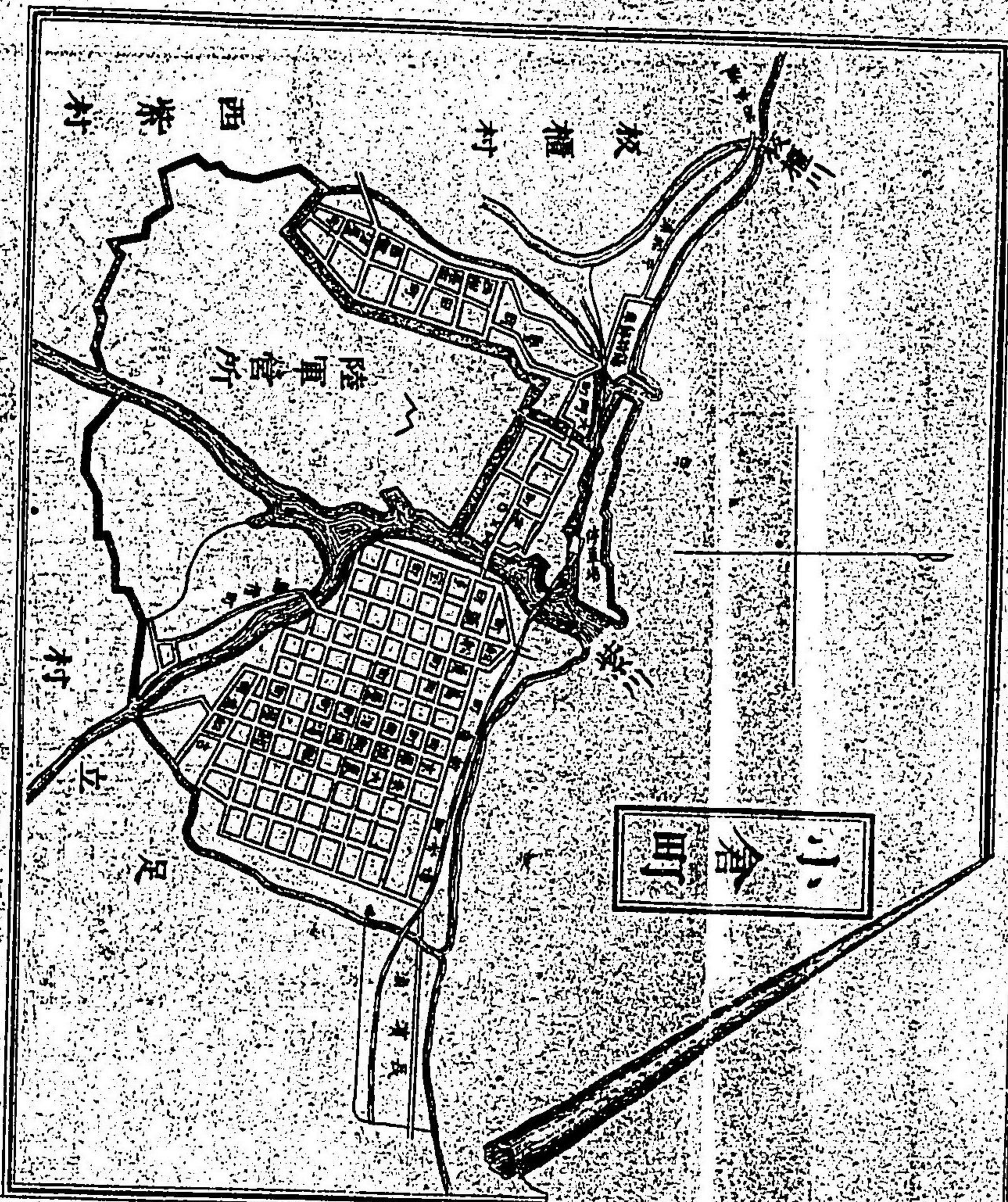
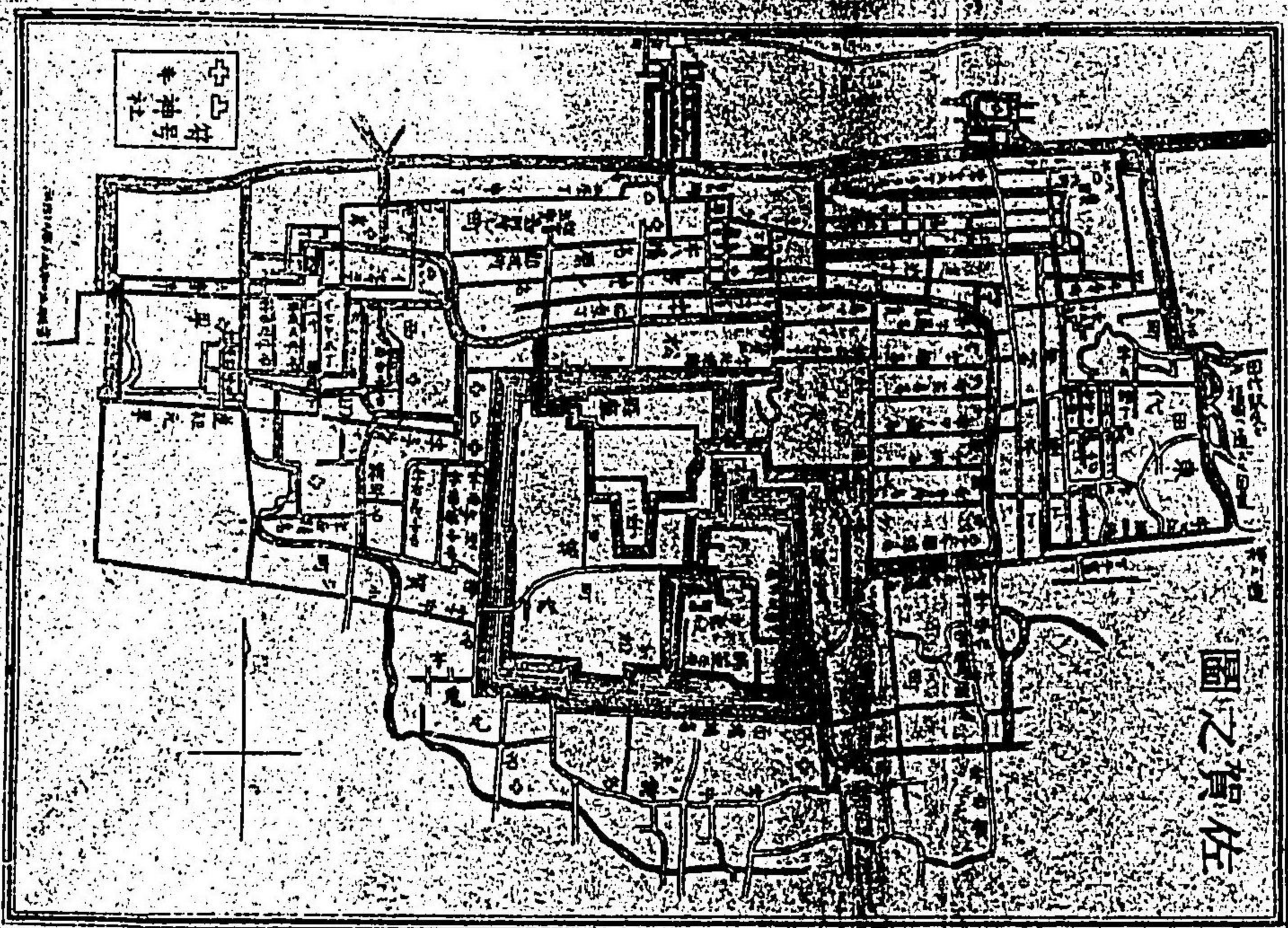
○門司港雜記	壹丁	○太宰府神社雜記	三拾四丁
○小倉町雜記	三丁	○都府樓及觀世音寺	三拾八丁
○若松町雜記	六丁	○久留米雜記	四拾壹丁
○折尾停車場及吉田堀川	七丁	○水天宮	四拾貳丁
○武九村正助傳	八丁	○上妻探勝記	四拾六丁
○赤馬驛於政傳	拾一丁	○郡大牟田雜記	四拾八丁
○節女	拾一丁	○高瀬	四拾八丁
○宮地岳神社	拾五丁	○坂原劇戰記	五拾丁
○香椎神社	拾六丁	○熊本市雜記	五拾二丁
○名嶋帆檣石	拾七丁	○熊本籠城記	五拾四丁
○箱崎八幡社	拾八丁	○水善成越國寺	五拾七丁
○福岡市雜記	拾九丁	○佐賀市雜記	六拾壹丁
○芥屋大門	三拾二丁	以上諸方勝地の大事を掲げ搜尋披閱の便に供す	
○二日市停車場	三拾三丁		
○武藏温泉	三拾三丁		

# 五市街之圖

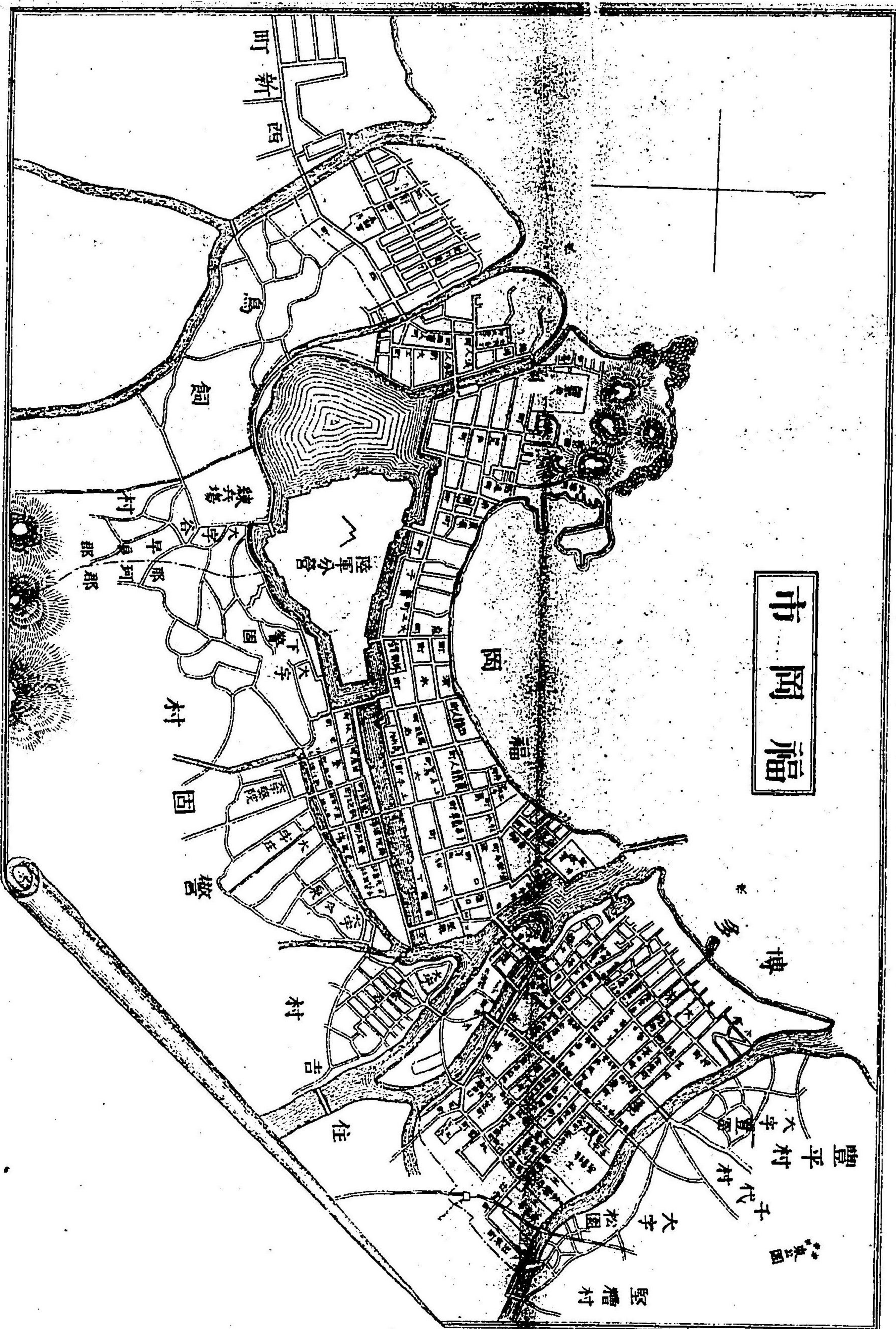
- ※ 符號
- ／ 國道
- ／ 鐵道
- 山
- 海川堀
- 郡事務所
- △ 裁判所
- 郵便局
- × 警察署
- ⊥ 寺
- ⊗ 銀行
- ※ 監獄
- △ 停車場

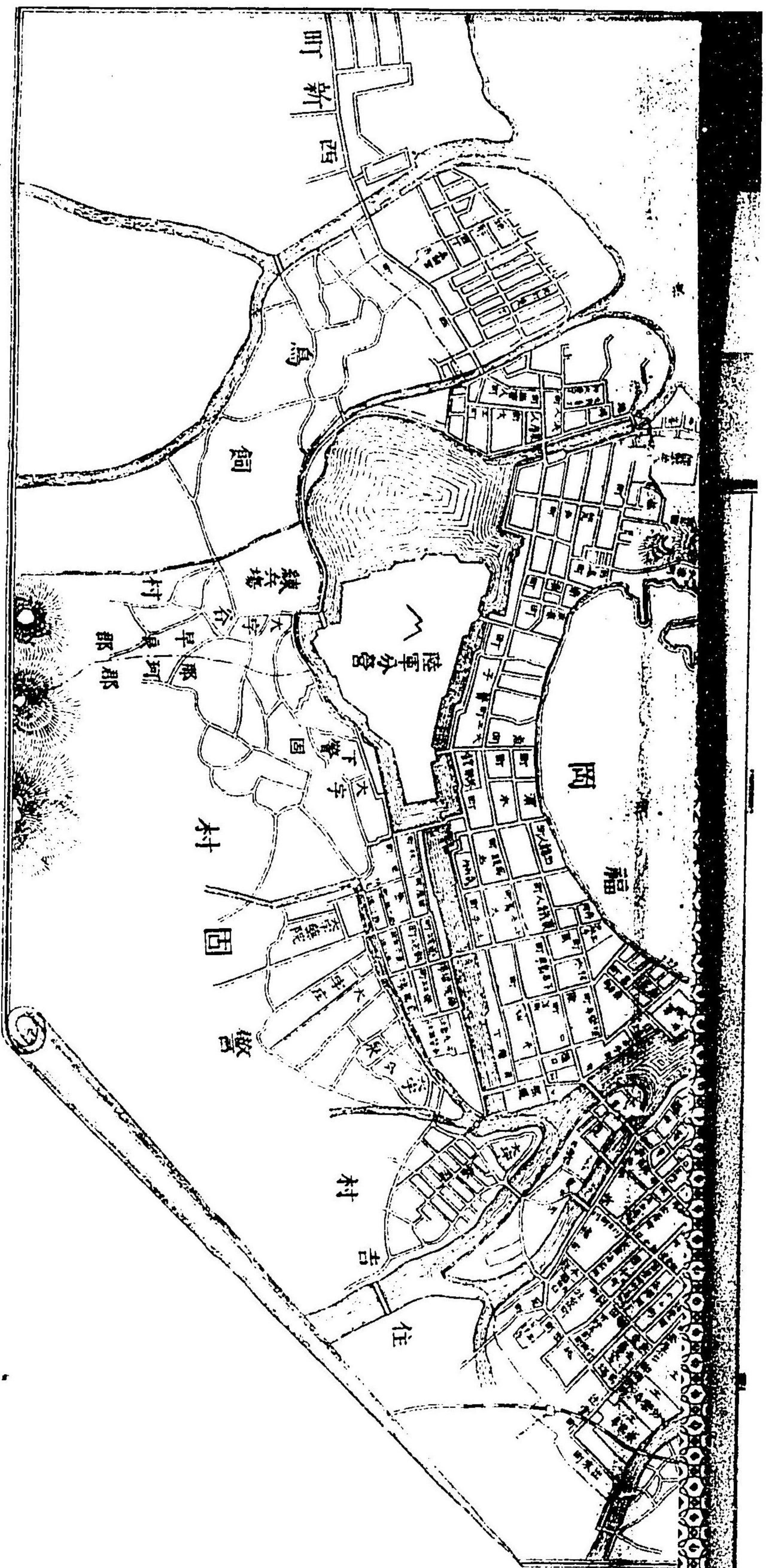




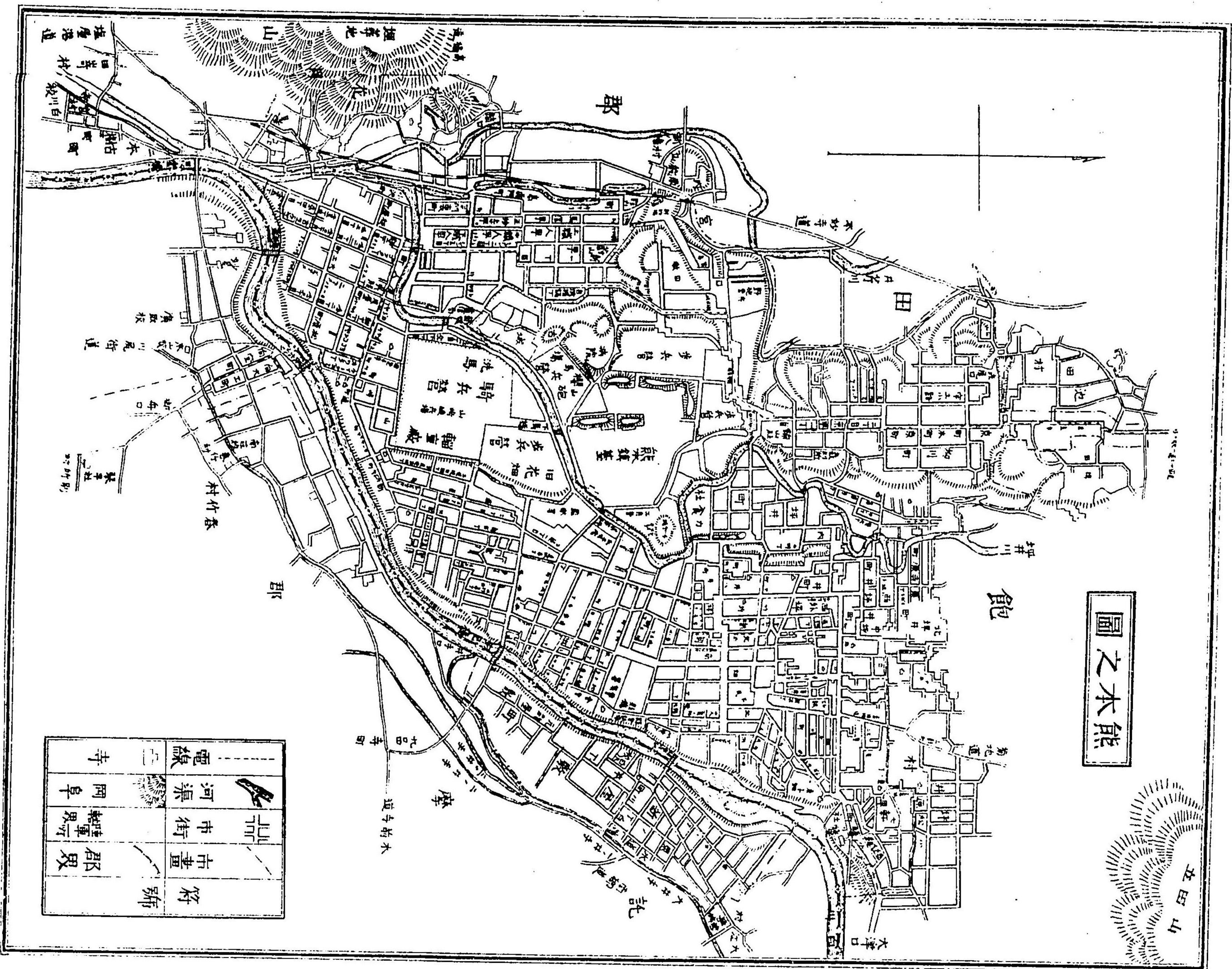


# 九州鐵道貫通市街之





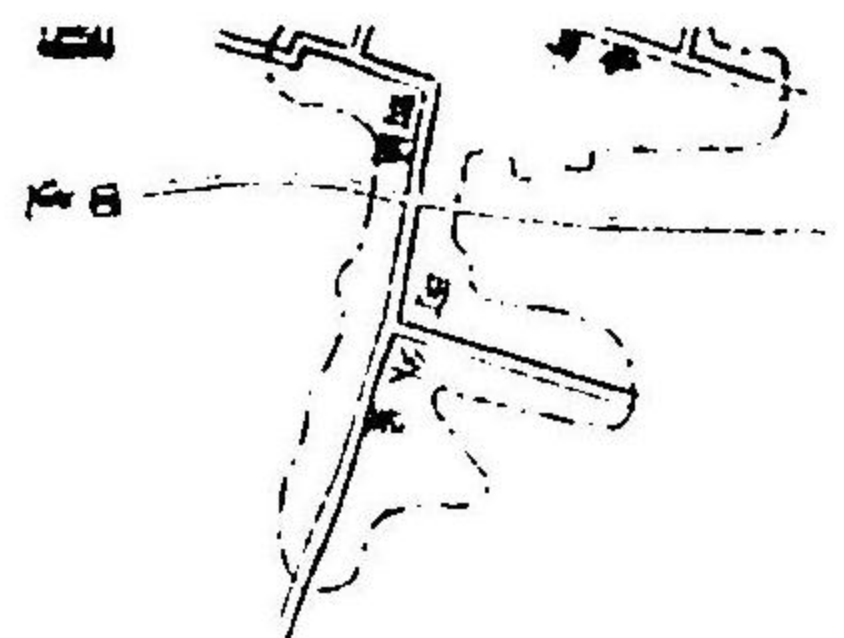
熊木之圖



符	市畫	市街	電線	寺
郡界	市畫	市街	電線	寺
郡界	市畫	市街	電線	寺
郡界	市畫	市街	電線	寺

久留米市

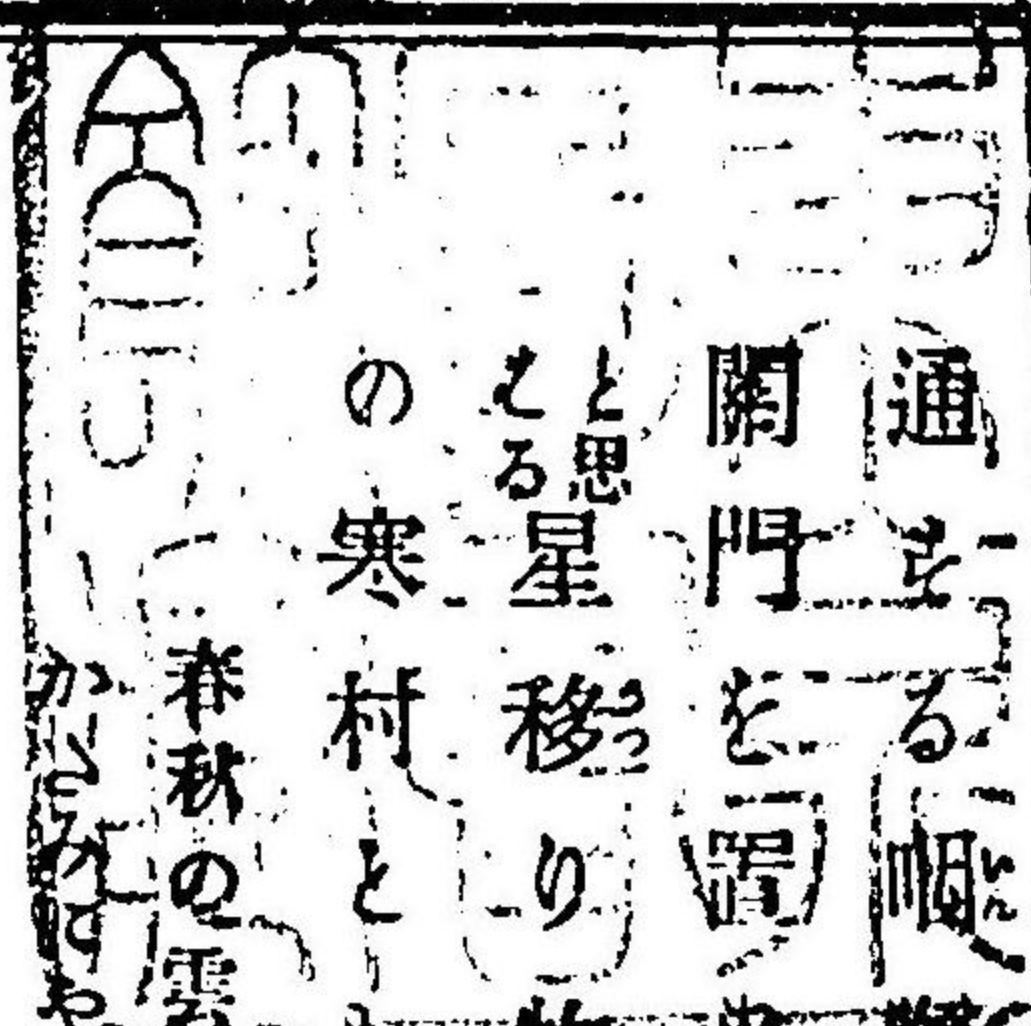
合川村



九州鐵道旅客便覽

門司

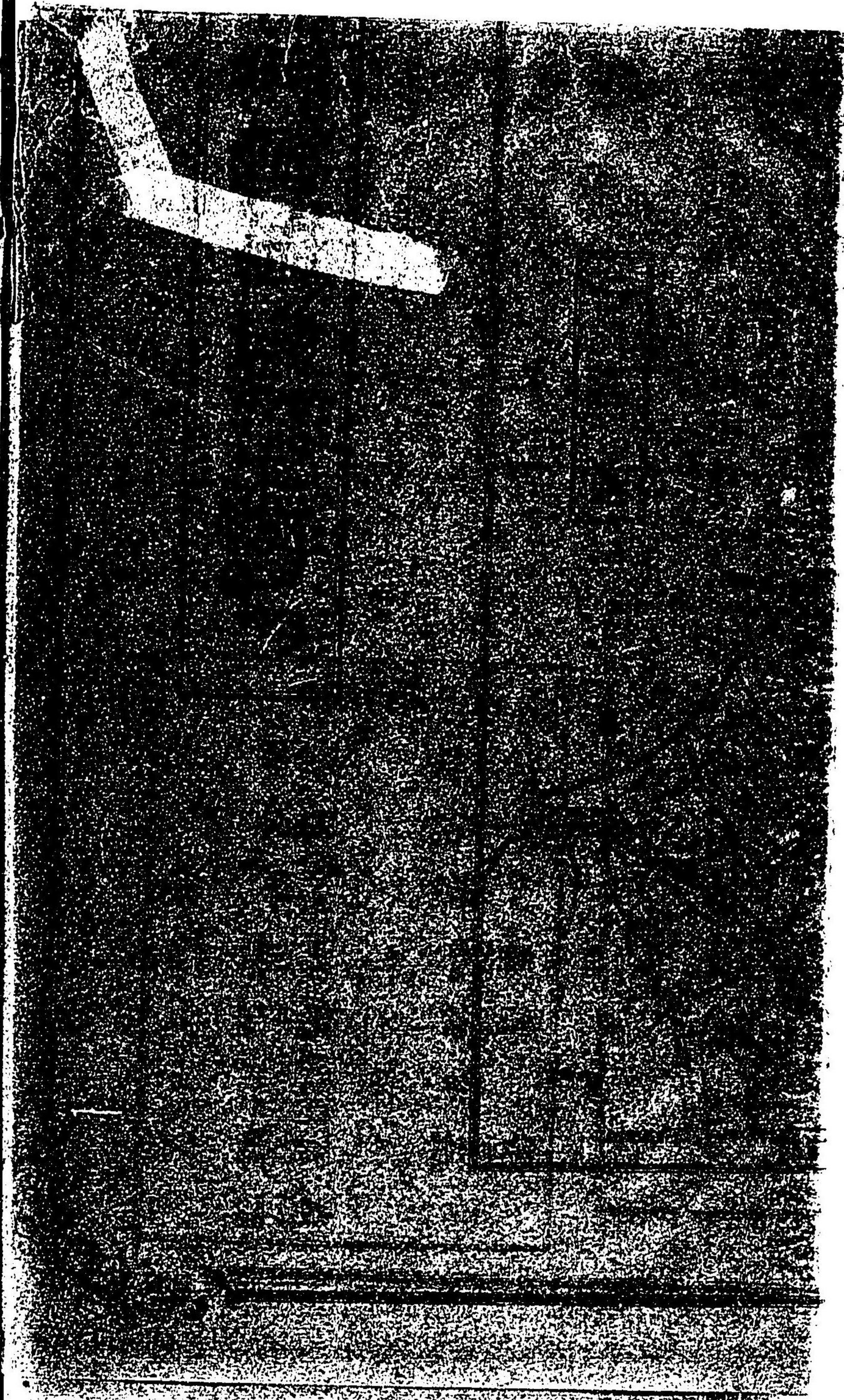
○門司もぎ文字もぎとて九州東北の隅に位し山陽の地と僅に一葦海水を隔るのみ港灣を峽峙ち水深を内外の船舶風浪を避け碇泊に便あり且つ門司を九州の頭部にして上國の通る要地たり故に海陸の往來常に稠を上古を關門を置き非常を警戒せし見ゆればとあり案るに堀川帝嘉保の頃まで存せしとる星移り物換り何頃とら關門も名のみ存して巖煙蟹舎の寒村とされし門司の前なる海を視海と稱す



春秋の雲井の鴈もとまらし誰玉章の文字の關守

入道前關白 鍋島綱周

近歲築港の偉業成り崇樓厦屋建列ね翠瓦鱗次帆牆林立漁船漁車常に往來し水陸の運輸絶間なく煤煙空を蔽る瀛笛山の響き熱鬧繁榮の地となれし觀風の士一望誰れか槍桑の感無らん



○清瀧公園 停車場の南三丁許山腹にあり上段の分と大坂の人廣岡氏の創設あり中段の分は小倉の舊藩主小笠原氏の創設にして今又俱樂部建築の計畫成れりと云

○溪間細路を躋る一二町にして林中清泉あり文字形を成して巖隙を下る甚趣有り又坂を登る數歩にして小池あり水中假山を粧ふ池畔亦泉あり湖々響を成し巖縫を趨り池中に落つ其側二三の亭子を置き橋梁を架す池畔奇石嘉樹多く位置安排宜しきを覺ゆ山腰と遊り西峽に到れば亦二三の亭子を置けり亭中眺望快絶門司港の全景之脚底に收覽し北の對岸なる馬關の人煙よりして西之海中の島嶼點々指掌に歸し東の速戸の峽間より茫渺たる周洋の帆影をも遠望し其快奇謂可らず殊に雪辰月夕に之騷客の遊に適すと云山上祠あり高游閑遊の二柱の神と祭れり

○甲宗八幡社 港の東なる山麓にあり祭神 品田別命玉依命氣長足姫命 例祭 八月十五日 往古此地神庫あり神功皇后の甲を藏せ今殿内に納め神體に換へ崇むと云 往昔ハ小倉府内五社の一に居れり

○速戸神社 港の東北なる海峽にあり祭神 比賣大神 例祭 九月十五日 此地磯石磊々西ハ長州楢浦に對し其間縫に入丁余舟行甚危峻あり往年の例に依り除夜に神官着冠帶劍して鎌を携へ炬を照らし祠前の波底なる和布を藉て神に備へ翌元日に國主に獻すと云他州に希なる神事なり此地に遊ふもの壽永の昔平氏亡滅の事を回想し誰も感懐に堪すと云

文字關頭澹夕輝彌陀寺畔雨霏々水濱欲問前朝事。唯有輕圓青我飛一 賴山陽  
空洋風疾四無聲。鬼哭啾々出水行。飛火一星何處所。阿彌陀寺曉鐘鳴。 菅茶山

○神理分教會社 停車場の南三丁許山原にあり海上の眺望に富む 同所西田親吉の墓あり氏ハ巫門部の人にして由緒あり 參詣人多し

○九州鐵道會社 門司市の南端なる楠原村に設置し停車場の側にあり 本土を九州鐵道線東端の樞要地たるを以て本社的位置とし社長其他重役之は居住を緊要の事務を執れり 九州鐵道ハ明治廿一年十二月十五日博多に於て起工式を行ひ博多久留米間の工事落成し同廿二年十二月十一日開業式を行へり是より博多筑賀川間の工事を肇め同廿三年十一月十五日開業せり門司熊本佐賀の工事續て落成し其延長百三十六哩八十一鎖内門司熊本間百廿一哩三十一鎖鳥栖佐賀の間拾五哩三十鎖（一哩ハ日本ノ十四丁四十間なり）にして三拾箇所の停車場を置けり實に絶世の偉業にして我國文明の先導者たり富強の神藥たり豈唯旅客の便のみを語らんや

- 郵便電信局本町 ○長崎稅關出張所 ○豐陽銀行門司支店 湊 ○門司築港會社 停車場の東民家 ○本郵船會社出張所本町 ○大坂商船會社出張所 海岸 ○久留運輸會社本町 ○八坂會社 湊 ○源船問屋松延組商店上全 ○全問屋古賀文支店 ○全問屋讚井商店上全 ○全川卯支店上全 ○全問屋石田商店本町 ○全柳邊回漕店 ○全問屋肥後又支店 湊 ○全肥東回漕店上全 ○全八尋回漕店 ○全問屋武重商店上全 ○源問屋西門會社上全 ○石炭三井物産出張所 湊 ○全安川出張店 湊 ○全西門會社上全 ○全石橋商店本町 ○全淺野會社 海岸 ○全堤組商店 湊 ○全倉地商店 崎町 ○全新手本洞出張所 湊 ○全新門司新報社 湊 ○書籍店本町 中村爲弘 ○諸新聞取次所 湊前 久野春次郎 ○洋酒卸商長尾虎熊 ○料理 福壽亭 湊 ○全金龍亭本町 ○全日本亭 湊

○瀛船 問屋常盤商店町 ○全前田商店上 ○全高宮商店上

○劇場 停車場を距る 東北八丁許

○馬關先帝法會

陰曆三月廿四日阿彌陀寺にて安徳帝の佛事あり馬關の娼婦の帝檀浦に入水し玉ひし頃供奉せし妃嬪の裔ありと云皆花燈に粧ひ参詣す市中大に賑し

○叫司馬關 へ小蒸瀛船 幾回となく 通へり渡賃 僅に三錢許

○早瀬文字港 門司停 大里の三拾一哩 清澗公園

硯切山の門司の東山中と云處にあり紫石又鹿子石散木に硯切まへの細道はのくれうすくかさす 文字のせき守 俊頼

○此あたり風師山あり嶺上巨巖隆せり故まかさし山と云 夫木集に 春の日のあさしの山の櫻花 散のふ毎に面影またつ 俊頼

△小森江の七里の東ある海濱なり 往古瀛國の貢船泊せしより高麗入江と号けしを誤て小森江と云軌道今同村の橋下を過く ○船寮松同所の東岸にあり神功皇后の御船をつなかし松と云 △此地安徳天皇行宮の在し所御所の跡として柳村の内に入り今柳神社の地なり 依て古の内裏と云しを享保の頃より大里の文字に改め今と柳浦と云柳船の名物也源平盛衰記に

○巖流島 道邊此 汀海軌 小森江 大里驛

都なる九重のうち懸しける 柳御所を立よりて見よ薩摩守忠度 大里の維新前後瀛船も稀成る頃 迄の馬關より九州への津口にて 市中も賑としとを頼山陽の詩に 隔湖津市古行宮。九國遠程自比瀛。 一簇蟬蟻呼可接。等閑虧得半帆風。

長州の内 柳浦停 小倉へ四十二哩

○此邊戸の上山なり山上權現神社あり ○貴船社停車場を距る東方三丁許柳村にあり 社内安徳天皇及平宗盛の神像あり當時由緒ある人祀りしものにて世を憚り貴船社と唱へしに今之柳神社と云

海中與治 兵衛磯

△文錄年間征韓の役に船奉行明石與治兵衛なるもの誤て豊太閤の船を此磯に乗り据へ與治兵衛と海濱にて屠腹せり今小森江の東にあり明石松と其屠腹の地にして後人の墓標とせし者なり海中の磯に之細川侯より塔を建て磯標とせり維新以降赤色の磯標に改む ○企救濱長濱之古き名所にして海上の眺望宜し漁家多し古歌に 豊國の間長濱もさ暮し日の暮

長濱 企救濱

小倉停 黒崎へ 七拾一哩 諸方里程

○東南中津路 今井八幡社へ 六里 中津へ拾三里 宇佐八幡社へ 拾八里 耶馬溪へ拾七里

行の妹をしる思ふ  
豊國の菊長濱ならへて心つ  
くしにこひ見たるふん

○小倉港の長州引島に對  
し六連船之其西にあり  
眺望絶佳

○若松へ  
西方一里  
餘停車場  
より馬車  
絶へず往  
來せり

○南方河原道  
○徳力驛へ二里  
○香春へ六里  
○彦山へ十三里  
西南福岡へ  
拾八里廿八丁

### 小倉

○小倉市街ハ北方海に瀕し紫川其中央を貫注して  
鐵橋之に架し常盤橋水陸運輸便を占たり人口壹万  
四千餘戸數貳千四百餘

○舊城南四丁許の往昔文永年間始て之を築き爾後水原黑崎  
長野杉仁保等の諸豪爭戰互に之を據る嘉吉二年太宰少  
貳頼冬城主たり原田種虎之を抜く續て菊地日杵冷泉長  
野高森の諸氏之を守る慶長五年黒田孝高之に代り同年  
十二月細川氏亦之に代る寛永九年小笠原忠政累世城主  
たり領邑拾慶應二年の役に牙城を自燒して田川郡に徙れ

り今第六師團十四聯隊の兵營となれり

○八坂神社鐘物師町祭神素盞鳴尊祭例六月一日三日なり維新前ハ小倉全市  
より笠鉾及び踊舞臺かと數多と曳き  
神輿を奉して城内に入り其祭況甚た賑なり今之笠鉾等の廢して往時に及ぶと雖も仍は賑あり

○福聚禪寺小倉の東立廣壽山と稱す舊藩主小笠原氏香花の巨刹にして七堂伽  
藍あり寛文年間唐僧即非を開基とす慶應  
二年の兵燹に罹り今の僅に釋伽堂及び扇樓門と存せり○寺房に即非及び其師隱元の眞蹟數多藏せり○境  
内櫻樹多し花候に之遊客群を成と云

○嵐山停車場より南山中天在諸神の祠あり慶長の頃小倉城主細川氏此山の  
形容容は京師の嵐山に似たるを  
以て同所の櫻樹を移植故に此名あり山中今櫻樹多し其名に恥と云山下に櫻川流る亦螢火を以て名あり

○到津八幡社停車場の西祭神品田別命例祭九月十四日十五日神輿遊行  
式及び神樂流鏑等あり

○愛宕山全上西方同所明待寺と稱する古刹に元龜三年の經  
塚あり

○清水觀音全上荒田村寺閣を小笠原氏の再建にして風景に  
富む

○神理教會本院小倉より一里三拾丁講堂莊嚴間方拾に在り天在諸神  
を祭れり救法の諸派神道に殊あり饒速命の神傳にして諸神の巫祖豊國巫部にして祈禱祭願神卜  
言靈學神字皇書活花等の古意を傳へたる家なり二百餘部の著書を遺す其他古鏡古鈴等

の什資頗る多し近歲神道總裁有栖川親王より大教主の號及び神理無敵の令旨を賜り且親王親裁の松に倭歌をも賜りしと現職大政正佐野經彦

十のへりの松も見るへき行末を今より松の立榮ふへき 有栖川親王

○毛谷村六助古宅址 高槻村の南にあり今仍ほ葦打石と稱し残れり

○神道蓮門教院 小倉市街の東端 堺町に在り 大厦廣壯門牆に至る迄覆ふに緒色瓦を以てせり土人本院を指ちて單に赤瓦と喚へり 現職大政正島村美津女なり教旨の其師柳田萬吉の他に類似なき悟道より成れるものありと云方今信徒東國に多く頗る繁榮し宅前記念碑を建假山泉池を粧む公園とせり

小倉市街官衙銀行各社類

○裁判所 室町 ○警察署 上 ○郡役所 上 ○郵便局 上 ○病院 私立 ○電信局 京町 ○第八國立銀行 資金廿五 頭 清水可正 ○豐陽銀行 資金三拾 頭 中村五平 ○東京製紙會社 西條字 長 小室信夫 ○博愛社精米所 馬借 事務 荒木元吉 ○妹尾精米所 馬借 持 尾萬治郎 ○住野鐵工場 支配 人 久保田虎之助

各町商店

京町

○正 吳服 和洋 反物商 二丁 守長久吉 ○吳服 和洋 反物商 神崎恒三郎 ○古着商及質商 三丁 永田喜平 ○全上商 西洋左太郎 ○古着太物商 宇土治八郎 支店 ○和 小間物商 井澤元兵衛 ○全商 一丁 明珍徳松 ○清酒醸造 全 守永勝助 ○全上商 五丁 吉永甚造 ○銘酢白玉製造 六丁 井澤彌吉 ○砂糖諸紙煙草商 一丁 安部九郎兵衛 ○治茶商 一丁 櫛木伊右衛門 ○書籍商 兼小倉 織物 上三浦吉藏 ○藥種商 并洋酒繪具 六丁 井澤彌兵衛 ○藥種商 并買藥販次 販賣一丁目 佐野勝兵衛 ○和 小間物商 一丁 長澤覺兵衛 ○全上并荒物商 一丁 重任文造

大坂町

○材木商 并洋釘類 則松宗助 ○清酒醸造 井上秀吉

米屋町

○吳服 和洋 反物商 神崎徳藏 ○古 太物并吳服商 池田久助 ○荒物 洋物商 福間市兵衛 ○紙筆墨商 櫛木治七 ○和 砂糖煙草商 小畑茂吉 ○陶器商 中郷元助 ○醬油醸造 兼質商 三丁目 宇土治八郎 ○醬油醸造 全 米澤治兵衛

魚町

○和 吳服 反物商 四丁 藤本治三郎 ○全上商 丁 山賀松治郎 ○全上商 丁 神田安兵衛



○全上商<sub>丁全</sub>吉田利助 ○全上商<sub>丁全</sub>米谷安治郎 ○<sub>煤附商<sub>丁全</sub></sub>須田<sub>すけ</sub> ○古着商  
坂本治三郎支店 ○清酒釀造<sub>名國銘<sub>酒商</sub></sub>山内藤兵衛 ○醬油釀造<sub>四<sub>丁</sub></sub>神崎岩藏 ○諸油  
製造<sub>并石<sub>油商</sub></sub>坂本治三郎 ○紡績綿糸<sub>并荒<sub>物商</sub></sub>關文右衛門 ○砂糖商<sub>并賣<sub>商</sub></sub>久松定兵衛 ○<sub>治<sub>字</sub></sub>  
茶商<sub>并茶器<sub>目</sub></sub>三<sub>丁</sub>築山喜兵衛 ○書籍商<sub>并文具<sub>目</sub></sub>辛嶋倉吉 ○藥種繪具商<sub>并各國<sub>取次<sub>二<sub>丁</sub></sub></sub>松山  
儀兵衛 ○陶器商<sub>目</sub>曾根重太郎 ○<sub>魚問屋<sub>目</sub></sub>一<sub>丁</sub>永野長治郎 ○<sub>内外<sub>二<sub>丁</sub></sub></sub>藥種商<sub>目</sub>山  
田勝太郎 ○<sub>魚問屋<sub>目</sub></sub>一<sub>丁</sub>木戸半右衛門</sub>

鳥 町

○<sub>生</sub>製造卸商坂本治助 ○荒物商波多野祥助 ○全上商喜久野卯助 ○砂糖乾物  
商岩崎利兵衛

船頭 町

○回漕問屋<sub>兼旅<sub>人宿</sub></sub>藤井昇吾 ○旅人宿廣田久太郎

寶 町

○醬油釀造松島喜右衛門 ○荒物商<sub>目</sub>一<sub>丁</sub>長澤覺兵衛 ○回漕問屋<sub>兼旅<sub>人宿</sub></sub>一<sub>丁</sub>目 中村周二  
○<sub>和</sub>小間物<sub>并洋酒<sub>小</sub></sub>大塚才兵衛

大門 町

○砂糖菓子商<sub>物</sub>安部傳兵衛 ○醬油釀造<sub>并鉄類<sub>荒</sub></sub>高橋市五郎

田 町

○<sub>和</sub>反物荒物商森本庄九郎 ○全小間物商高橋德兵衛 ○生臘製造<sub>并油<sub>卸</sub></sub>岸本  
周助

古船場 町

○生臘油製造卸商<sub>并荒<sub>物</sub></sub>鉄尾類助 ○生臘製造卸商<sub>并荒<sub>物</sub></sub>久國助治郎 ○材木商<sub>并建<sub>具類</sub></sub>  
關芳治郎

各 町

○<sub>和</sub>金物器械商<sub>并屋<sub>目</sub></sub>武内鶴藏 ○<sub>鑄<sub>物</sub></sub>諸器械製造<sub>全上<sub>丁</sub></sub>住野市松  
○清酒釀造<sub>各國銘<sub>酒卸</sub></sub>町早水利兵衛 ○醬油釀造<sub>兼米<sub>馬借</sub></sub>妹尾萬治郎 ○生臘製造卸  
<sub>丁全</sub>吉田儀右衛門 ○旅人宿<sub>室</sub>達見善七

○劇場<sub>船頭</sub> ○全上朝日 ○料理店住吉館<sub>米町二<sub>丁</sub></sub> ○三壽亭<sub>西洋料理京<sub>町四<sub>丁</sub></sub></sub> ○貸紫水樓<sub>舟</sub>  
○旭樓<sub>上全</sub> ○此他大小拾六斬あり

小倉停車場のつゞき

△若松蛭子社の港の東海に瀕せり祭事の舊曆十一月三日あり本日宴會の盛況古來其名遠邇に著し最も商人の福を祈て驗ありと云宴會と祠前の堂舎にて催を離にても金廿錢許と寄附すれと鯛引皿饅餅酒飯等を饗すと云春祭之舊三月十一日より十五日迄又宴會を催す

若松停車場

○戸畑村 渡船あり 若松へ 小倉より一里馬車 往返せり

○此邊軌道 道嶋郷石 峯小岳等の麓あり

○是邊 軌道洞 海に沿ふ

○此邊海 洞の海と云 廣さ半里許 長さ二里許

黒崎停車場 折尾間 三十二哩

○黒崎驛

○浮蓮寺内紅梅地蔵縁起あり ○櫻屋と云能き旅舎あり

△道伯山城址の黒田長政の老臣井上周防之に居れり

○此邊豊筑界官路崎嶇多し早巖の詩に 路入鎮西ニ多二險巖ニ興心搖兀馬蹄危、 隔溪古刹登々響、知有遊逸人打斷碑、 今や軌道平砥の如し一喫煙間此地と過く亦盛世の賜あり ○此邊帆柱山の麓を過く

△吉田堀川 里人吉田切 遠賀郡の地勢たる低卑にして大川を帯び霖雨に之水害尤も多し福岡藩祖黒田長政深く之を憂ひ遠賀川の水勢を分け支溝を設たり其源之底非野村よりして吉田折尾を過き陣の原を経て洞海に注かし土人水害を免るのみならず大に舟楫の便を得たり今若松港の繁榮なるも此溝石炭運漕の便に依ると云今其土功の跡を視るに吉田村の中高さ數丈の岩石を鑿開せし處數十町あり其工事人をして驚歎せしむ

興業鐵道線

○岩瀬社此地往古の驛亭なりと云 ○吉田村切堀川

○停車場 州興業の二線交際の地旅客の便より乗替となり

折尾停車場

遠賀川 へ廿四哩

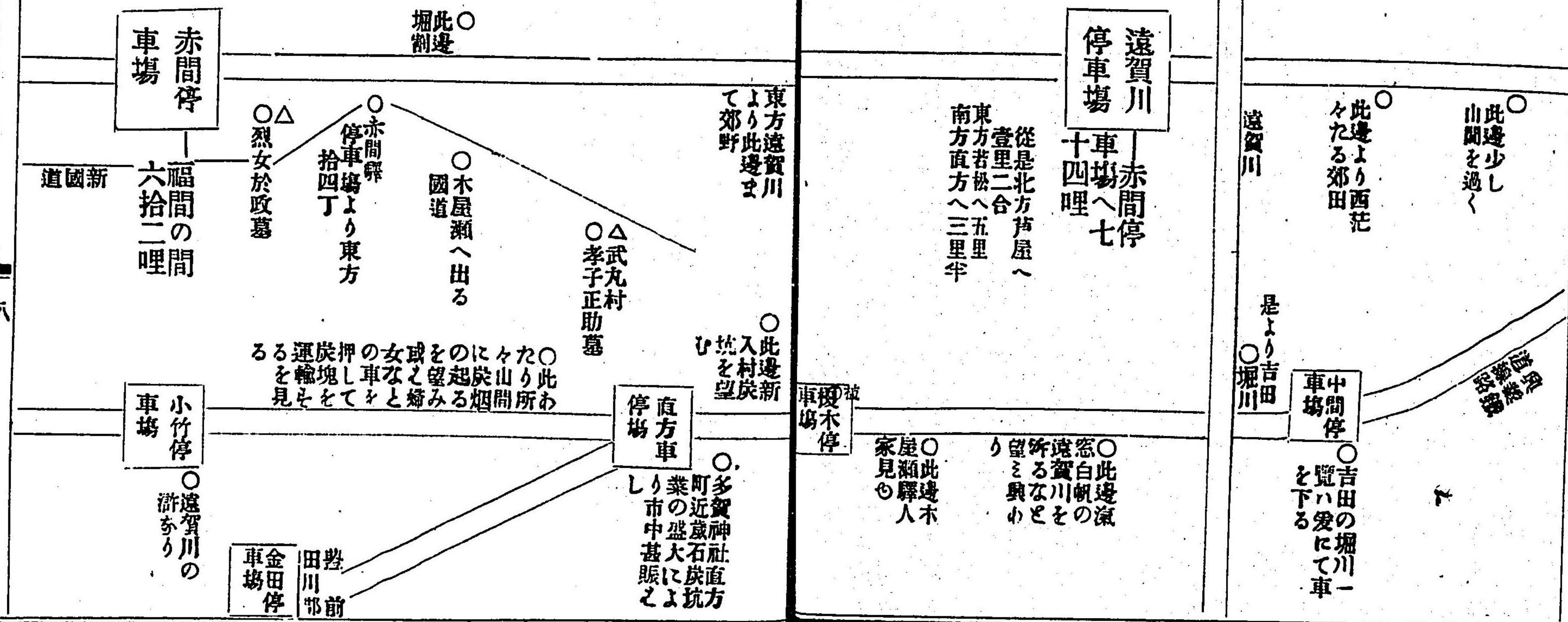
△若松港の筑前 東北の隅に位し其港水深五仞 碇泊に適し筑前石炭運輸の要衝たり 其輸出額の多き此地を第一とす港内帆柱 葦の如く近歲非常の繁榮を占たり人口四千三百七十〇戸敷八百十三福岡市を距る十七里四丁 ○築港會社 ○成商會社 ○筑紫物産會社 ○福岡第十七國立銀行支店 ○三井物産會社支店等あり ○旅人宿櫻屋層樓あり ○流船荷客取扱井旅人宿波多野鈴木其他あり ○興業鐵道本社爰に置けり

○此邊海汀 離丘陵の切削を過るあり ○興業鐵道線

○山鹿村の芦屋と一川を隔つ山鹿の北海濱に柏原波懸洞山等の名園あり  
 ○芦屋古の岡の漆とも稱し繁華の地たり  
 ○高倉社市内にあり  
 ○全上の宮  
 高倉村にあり  
 唐土の空もひとつにみるまで  
 阿し屋の里に定める月のけ  
 慈鎮

○宗像神社 官幣中社  
 二里例祭陰曆九月一日  
 宗像郡有名の大社にて古き寶物多し就中隋の陳仁稜り筆ある阿彌陀經を鑄せし石經と字畫清婉人多く愛玩と

○此邊軌道城山の麓を過る山容峻嶮青の如し山中杉楓櫻の類多く涼窓一望襟懷を快と



飯塚驛と穂波郡第一般賑の市街なり  
道路平夷遠賀川の上流を帯び運輪の便を占たり  
飯塚驛  
車場  
福岡市を距る七里拾八丁

○孝子正助墓 赤間驛を距る東方一里許吉武村大字武丸の南丘墓に在り正助の舊宅と墓所より一丁許南方丘墓の下にあり宅前に廟を建て正助の木像を安置し祀り古來諸家より寄贈の詩歌等を數多藏せり當代戸主と武丸正吉にて農を業とし正助より六世なりと云

○烈女於政墓 赤間驛を距る西方五丁許佐屋時と稱する小丘にあり

方今赤間驛の村長石松氏及び有志相謀り孝子正助烈女於政の紀念碑建設の企あり蓋し其至孝特操を普く世に知らしめ且靈魂を弔慰するの美舉に出づ世の風教に裨益ある大かりと謂ふる者亦此意に出つ讀者幸に諒せよ

○孝子武丸村正助の小傳 原本福岡藩士竹田正庵の著作なり今其要を記載す

正助父之正三郎と稱し身貧しを田宅も亦く他家を借居し些の商ふを以て世を渡りぬ子二人あり兄之乃ち正助にして妹之村内某に嫁せり當時正助の母は他家の婢とあり正助も亦他家の奴とあり其餘力を以て父を養ひしが身節儉と勉勵との功勞にて遂に少許の宅地を購ひたる正助の母も尋常の者よ非能く主家に仕へ夫病ある時主人より暇を請て看病に力を盡し正助亦能く主家に仕へ勞苦を厭はれ勉勵を少しの暇ある時山野を開墾して父母を養ふの便とせし正助二十餘歳の頃母子俱に家に歸るに此時田地二反歩を買得て耕作し家仍貧乏しされども親の好む物ある時之路の遠近を問て索て養ふ事惰らば或時村内酒肆の主人其孝心を感じ價錢を受ずして酒を與ふ些許の事なれば以後之價に及ばず酒と與ふべしと云りれば正助深々其厚情と謝して復再ひ其酒肆に往り酒肆の主人不審しく思ひ或日正助に遊近し時何とて久しを來らせ哉と問れば酒の價と受給ひざるにより親を養ふの志に悖りし故なりと答へり正助宅地に井水無きも毎朝早く起二丁餘阻りたる川邊に往き盥嗽を拜して水と汲み湯と沸して父母の盥嗽に供し其身之耕作などよ歸り脚を濯ふに必らず川邊に行き水よて濯むける冬日に至り或日母湯を沸して冬日だけ之

れにて脚を濯ぐよと云々れば親の御手と觸られしと勿躰なしとて辭  
 り終に濯わざりしと又漬物などの硬きもの父母の前にて食せ老父母  
 歳老ひ齒弱り羨み給はん事を恐てあり外出して家に歸るに之必ず  
 戸外より履を届て入りけるを人怪みて其故を問へば家にて貴き父母  
 在すなと我家素より賤なれば我れ敬ふより外に之誰も敬ふものあ  
 りればあり家の尊替となすにも自身屋上に上らせ下に父母在すを以  
 て心に忍びひざるなりと或時暗夜談て父の杖を踏み悲泣し御杖之御脚  
 も同様ありと甚だ恐縮たる正助年貢米を官に納るに毎年他人よりも  
 早々皆納し些も余米あれば酒に換へ納米の餘れる祝ひなりとて  
 父母に羞先父母の心を慰るを以て此上もなき樂みとせり父正三郎六  
 十歳にて中風と病々れば正助萬般心を用る力を竭し看病しける父歩  
 行する能はざれば厠に行にも正助負て行き妹の家に行にも正助負て  
 行き迎に行にも時刻を違はす負て歸れ或時父を負て妹の家に行き  
 頻に湯と流しりれば妹不審り其由を問るる父老衰し玉ひ軀輕を成  
 玉ひし故なりと正助山野を往き薪を采るに先山野を拜て後又樹木を  
 伐り牛馬を仕役する人も人よ語るが如く今日之田を鋤らせ候へ今日  
 と重荷を負せ候間苦勞たるべくと其由と言ひ貢米其他重荷と駄して

いたつ尻に酬いて

うまね

情とは肩に

かけたるくらに

見る哉

重任



七十七

標

印

遠方に行に村人率ね歸路馬に跨りて脚を休けると正助は養笠の云に及  
ばす鞍までも自身負て歸りける同行の者何とて馬にの乗らぬぞと問  
ければ若し人に向て逃の路に重荷を持せ歸路亦重荷を持せ候の誰  
か快く承諾せん哉如何と畜類なればとて天の恐れもあり左様も無情  
なる事は致さぬかよしと其後の同行の者も歸路馬に乗ると止けると  
なり正助天性律義よて途上人に逢て能く禮敬し非人乞巧に逢ても疎  
略ならざれば村人其行状の尋常に異なるを見て始の皆嘲笑して痴愚  
ものと思せしも漸次其微に感化し能き風俗と成れりと云正助壯年の  
頃妻と娶り夫婦の間も和順なり一に村人の概ね正助を嘲笑しける  
五月蠅思ひ暇と乞ひければかくて到底父母の奉養覺束なく思ひ止  
むと得す自身外舅の家に伴る行き程能返しける爾後父母孝養疎略を  
らんことと恐れ再び娶らず正徳二年父正三郎七十七歳にて没しぬ正  
助重哀に丁度痛哭はさらなり是れより常に老母の傍に在て問慰し常  
に父の墓を拜し家も事あれば生るに事るか如く告げ語りぬ享保七年  
正助嗣子無きもへ妹の子惣市を養子にせん事を郡令に出願せしむ郡  
令之と許し且正助の孝道と感し當時惣市が他家の奴となり一を倉米  
と貸與る惣市が身を購ひ正助か宅に喚取らせける正助の孝道彌遠近  
と稱高けれり藩侯も大に感賞あり正助を城下に召喚し田地三反八畝  
と賜り歳々貢米公役を免し其孝を旌表せらる外に老母當時養育と  
て米拾俵を給ひれけると

節女於政の畧傳

吉田良春のものせる節婦小傳畧事頗る  
精確今茲に其要と摭り登載

今と距る九十年赤間驛に政といふ貞操の女あり父は松尾七兵衛と云  
ひ家産豊よして世を渡りぬ七兵衛の本家の養子七左衛門は七兵衛の再度妻と  
娶り不幸にも各一女を産みて死しける七兵衛の悲歎の中にも二人の  
娘を育てしかいつしか病つきて世に頼み少く見ゆる時叔父ある  
多左右衛門及び本家七左右衛門を統近く招き我病日に重く且夕に逼  
れ我亡き跡の後妻の弟嘉右衛門を迎て長女千代に娶わせ次女政に  
い本家七左衛門の息子長次郎の妻となし給ひれかしと懇ろに頼み殘  
して身まかりぬ時に政四歳の秋なり兩人の遺言に隨ひ嘉右衛門を相  
續養子とし長女に娶せ政は猶幼少ありしかば嘉右衛門夫婦の娘分  
と定先ける斯くて年月を経る内本家七左衛門も故人となり幼子長三  
郎の代とされ政が言号の夫長次郎の義兄なりこの頃不幸打續き世々家の業なりし酒造  
もあし得す微かなる活計となりぬ長次郎は兄と俱に睦しく正直を旨

とし兎角に世を渡り既に年長けたれども政と迎へとるべき手術もな  
く空しく月日を送りける政か姉嘉右衛門の家を先代に引かへ貢し  
く成ぬ政ハ十一歳の頃福岡に出て納戸頭役を勤先し明石家に禿奉公

節女阿政齡十一歳時

為福岡藩名士明石氏

侍女明石氏有三烈婦傳

著節女早憤其事所以立

節也

頭是了鬢心是真挿花

時自樂經營管存貞節

千尋在不似瓶花斜且

横

竹墩散人



なしける素より才色俱に勝れ其質婉順にして能く主家に仕へければ  
一方あらぬ寵愛とつけ其奉公の透間には讀書裁縫活花等の業をも  
授りければ追々に行儀作法も人よ勝れ雖も譽ぬものいなき淑女とな  
りぬ茲に同郡勝浦といへる村に半五郎とて豪富の大庄屋あり其子源  
五郎齡二十歳になりければ政がみ先形のうるわしく讀書にも長しけ  
ると聞き迎へまほましく思ひ赤間驛の馬醫萬助に談まけるに萬助心に喜  
ひ此縁整るなば幸福我身に及ぶべしと早速嘉右衛門夫婦に語りけれ  
ば嘉右衛門も大に喜ひ人を福岡に遣まて政か暇を乞ひて引取ける此  
事早くも多左右衛門及び長三郎の耳に入り嘉右衛門の家に至り亡夫  
の遺言に違ひ富貴に迷ひし事を色々と詰問に及ひける此時政ハ齡十  
八歳になり福岡より引取まは定先て本家へ婚姻の事ならんと思ひ歸  
りまに勝浦の縁組の事と聞き打驚き更に聞入るへき心あら糸は嘉右  
衛門も大に困惑し只管勝浦の縁を望む心の切あるより或ハ恐嚇す  
かして之をすし先又媒妁の者とも頻りに往來して言を巧みに説き勸  
先ける政云けるやう人々の數あるぬ我身を慈しみて言給ふ事いかで  
承引さらんされと過に父のくれぐれ言ひかき言に背かんも心苦  
しく本家の衰るを見て云号けある夫を省みす富有の人に身を寄んこ

と世の嘲りも口惜ければ此儀は狂けて御許容給されど涙と共に詫ひけるよそ媒灼の者も怒りたる面さにて我々斯くすも御身筋りの爲ならせ嘉右衛門殿の仕合といひ事に與る我々迄の面目と申者あり其幸ぬを打捨て零落の長治郎を懸るゝころ無分別とのゝりける嘉右衛門も言葉を添へかゝる長縁をうけひかざるの定先て子細あらん察するに長治郎と不義せしならん此の上の二人共又追出腹いせんと云ひけれとも政の唯涙よくるゝのみて何のいふへもせさりしかば終には人々其志の毒ひ難きを知りて暫し此事やみよけり斯くて其年の夏も過ぎて秋の頃よも及びいかば大庄屋半五郎いよく政の人となりを受て是を得んと思ひ其邊の大庄屋並ひよ方面よて重き人々又媒灼を頼みける是より近隣の庄屋或は勝浦に縁ある者共入り替り立替り之を誘ひ或は役威を以て恐嚇する事も屢あせければ今は心あらずも此上は力あし妹を謝免勝浦の遺すへしと承諾ひ幸ひ本月十二日は吉日あれば結納の取組然るべしと定りける此時政は姉夫婦にさまく説きすかされて勝浦へ行かんとすれば執り去探立たす進退の如何なる難義の出来へさか往かんとすれば執り去探立たす進退のに谷り消へも失せなん心地して衣引かつきて打臥ける翌日又至

れども尙は髪も梳らず飲食も絶ちて臥しければ夫婦もかゝる若しつさつ先し心よとして不慮の事もあらんかと痛く心づかひて政か起居よ注意しける斯て三日も過つるころ政は枕かろげに起上りて顔付常よども歴々しく打笑て姉に向ひ我れ故にか程迄御心を惱し給ふ事罪深くこそ覺へ候今より心を取直し御心に随ひ申すべしと言ひければ姉の喜ひ一方ならず隣家の人々をも招き縁談の濟しを祝ふ酒もりすべしとて其用意をぞ成しける政は納戸に入り髪結る沐していつよりも清らかに結ひ色をき新らしき衣物も着粧の招き人々とこしかたの事や物語りける其後招き人々も家よ歸りぬれば政は隙を見すまし出行ぬ姉は政の長久しく歸る来らざるゝ氣付裏も出てあたしを見回せども見へずまゝかして尋るうち納戸の庭よ座し膝よ手を置きうつ伏し死し側らゝる庭よ座し血は淋漓とまてあたりには溢れたる姉は大に驚き聲と眼に泣き叫びまかば近隣の者共馳集り立騒ぎけれども早事切れて其甲斐なま時と享和元年十一月九日未刻なま此時嘉右衛門は他に行まが歸り来り打驚き先つ大庄屋に届け一同の罪の露れん事を恐れ郡奉行に賄賂まて狂死の跡に執成去届書を出ま事濟ける時に政か手箱の中に遺書二通あり其嘉



右衛門夫婦に宛る文に曰く

一私事いどけなきよりど、様かゝさままわかれ参らせ只今のと  
様かゝさまの御いつくまみ人となまいらせ御恩は海山申  
盡しがたく候えかるゝ此度の縁談と、さまの御為よも成よま  
又一族衆乃ためよもと早速御請申上はづ候へども御存の通わ  
もじいどけなきと、いひなづけの長次郎殿近き年はわけて世渡  
もかばつかなく成行申され候其はふれを見すて今さら變がへ勝  
浦へまゐり我身ひと榮花をきは先候ては長次郎殿へたち不申  
又長次郎殿顔も立かやくの遺言を守り候へば只今のど、様へ  
不孝も成行参らせ候まゝ我身ひとつをうらみ覺悟を極め参らせ  
候先たの不孝は御ゆるし願上参らせ候  
また長次郎へ宛て

一筆申殘参らせ候我身もじ様へ言なつけの事申もくど、候得  
共此頃かして勝浦へ参れどの事にてすでに日柄もきはまり今更  
かなしさをやるかたなく昨日も人をしてと、様かゝ様へことわけ  
申上候得共一回御さゝ入なく却て頼む人まで勝浦へ参るを本意  
とすゝめられもしさまへ添へどの事は申入これなく候夫に付

烈女政碑

烈女於正の墓碑  
碑文の井土周盤  
の撰かり

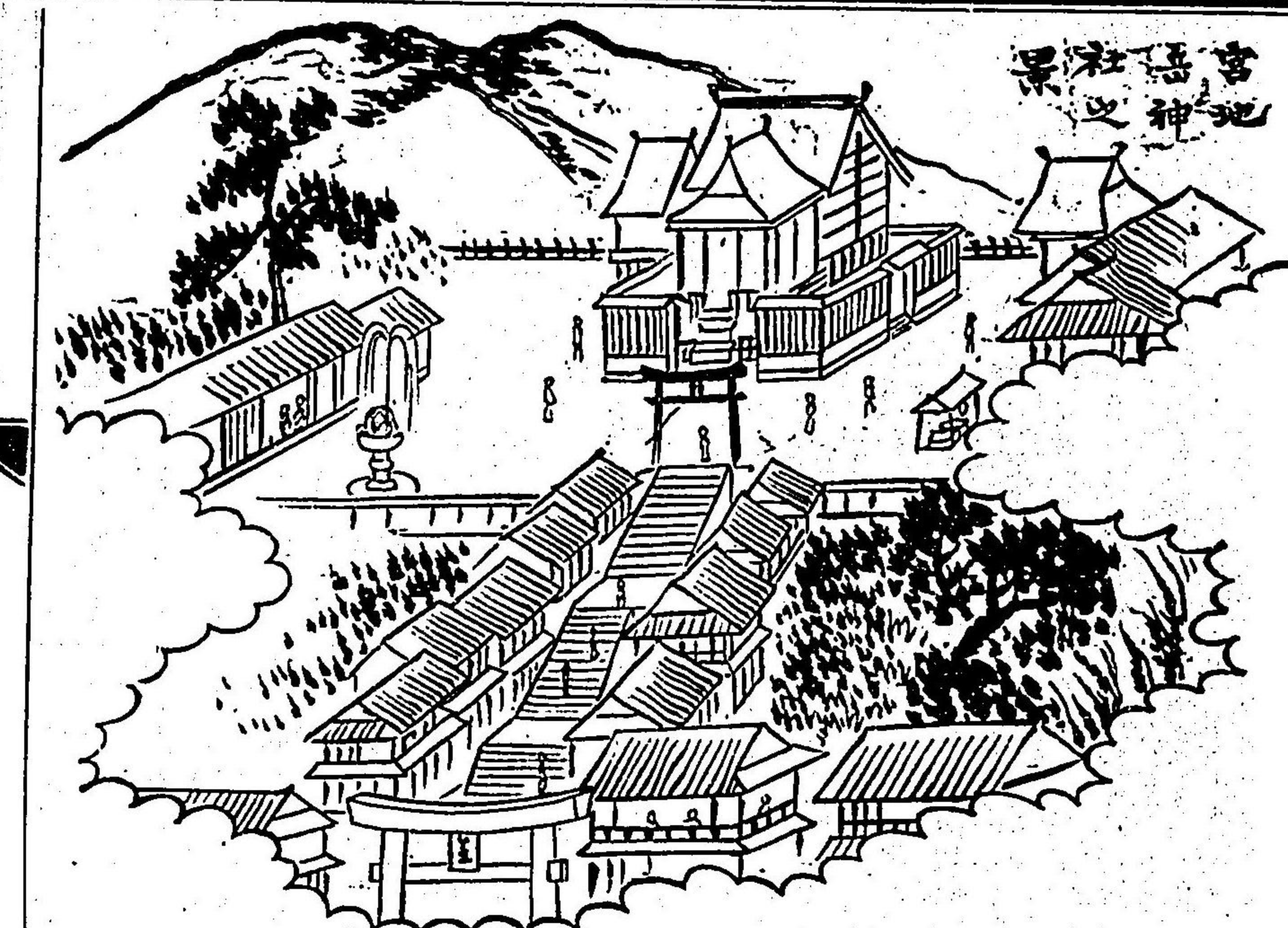
銘に曰く  
寧死不屈、荷賣  
其倫、天之未定、  
燒夫呼辱、既克有  
定、靡不勝人、恩  
被枯骨、宿冤以伸、  
於衆洒掃、墓間無  
塵、凛々遺烈、刻  
文貞碑

凝香潔操信女

二十和元年十一月九日  
行年十八歳

一まはるもし様御身の上御痛はしくわが身ひと道ならぬ縁を  
 結び身に錦とよそはひ候之世の人はさぞかし我身を義理しらす  
 どうぞんじ申べく候又此うちと様のもじ様と不義せしとの  
 御しかり御尤ある御うたがひながら御情に預りし事は無御座只  
 々いひあづけの義理にひかれ又先立給ふたがひの親々へ申譯か  
 れといひ是といひ一方ならぬかなしさに自害を遂せ候かしく  
 文化十四年福岡藩主脩猷館師員諸生の詩を徴す竹田定琮節女詩と賦  
 して政の事を咏じ進めける其詩曰く

兒身不足惜。兒名固可惜。兒心不可轉。比彼南山石。鄙哉媒人語。勢利敢恐  
 嚇。貧賤與多難。從良計未得。情義異桑濮。婚媾非爲色。寄語謝媒人。良緣廣  
 可覓。阿兄兼阿姉。親戚同逼迫。薄命一到此。寸心空脉々。大義便相許。催粧  
 在旦夕。呼喚會鄰曲。茶菓聊侑客。兒心私自期。以探見松柏。慈愍惜長別。此  
 意難。自白慷慨伏。白刃。腥血滴淋漓。悲風吹慘憺。愁雲暗山澤。閩史無記載。  
 荒山埋靈魄。誰某采風者。愴々復惻惻  
 之により藩主之吏を遣して廉問せしめ其實を得て同年十一月政か養  
 父嘉右衛門を召出し政か探節を賞し白銀十五枚と賜ひて其祭祀と修  
 めしむと云於政の傳と載て山陽遺稿に在り惜哉誤謄抄からずと



○宮地岳神社

福岡停車場より北方十九丁祭神多紀屋  
 賣命狹依比賣命多紀都比賣命例祭陰曆  
 正月十一日全四月五日全九月廿二日全每月小祭五日十一  
 日廿二日なり祠前石階を夾み旅舎酒店數多あり此神連氣  
 守護の神なりとて參詣人の多きこと他の大社に勝れり

○荒地琴平社

津屋崎浦の東なる山上にあり海上の眺  
 望絶佳賽詣人常に多し

○鐘の御崎

福岡より四里村内鐘神社の地を出崎と云往古  
 三韓より大なる鐘を舶載せしに此祠前東北五丁許の海  
 に沈めり故に此名あり好晴風波穩なる時之髮鬢として見  
 るを得ると云古書云文明五年宗像大宮司與氏此鐘を擧ん  
 と群卒と率る船と浮へ輻輳器械にて曳揚をなしけれ其其  
 間風波起り不果して止め慶長九年邦侯黒田長政地の嶋築  
 工の途次又此擧われ共果せして止む此地北海の衝に當り  
 動もすれば洪濤起りて久敷舟を浮る能わす土俗海神の崇  
 るまど、成し曳揚を忌嫌ふなり

新古今

まら波の岩打たとやひくらん鐘の岬の曉の空

海の中道



新宮浦 奈田浦 香椎 古賀 香椎 古賀 香椎 古賀

○新宮浦を海洋に對し一市街を成せり

○磯崎宮同浦にあり懐妊せざる婦人祈て  
驗あざとて賽詣人絶へせと云

○海の中道ハ、奈田浦 香椎 一里半 志賀嶋へ斗出せ

る三里の間青松白沙の海汀なり其状恰も一條の帯を  
展たる如し横り大抵二三丁或は四五町に過れば定  
に希有の佳境にして丹州の橋立に勝ること既に古人  
の詩にも詠せり

松林横截大江湖。萬疊波間碧一條。此景縁何在西僻、  
直須「奴僕」命天橋、頼山陽

世に箱崎の景と絶勝とすれども此中道わつて然るな  
り漢土の書にも白砂と書けり宗祇紀行細川幽齋記  
にも載たり古歌よ

秋風に沙千の月乃か陸ら瀨山にもつく海の中道

○宮地岳へ  
十九丁

○福岡町停  
車場より十  
二丁

福岡  
停車場

古賀へ  
廿三哩

福岡へ  
五里二十丁

○此邊  
海に程に近  
し程に松  
茂れ松  
林は  
廻く

○委詳上段餘白  
に託す古賀停車場  
場より西方新宮  
浦より奈多  
の里奈多  
より海の中  
道と經志賀  
嶋へ三里絶  
景の地あり

古賀  
停車場

香椎へ  
五十七哩

○古賀松原  
松露茸の名物

此邊  
松林

○皆打濱

立花山中鏡泉  
浴場あり

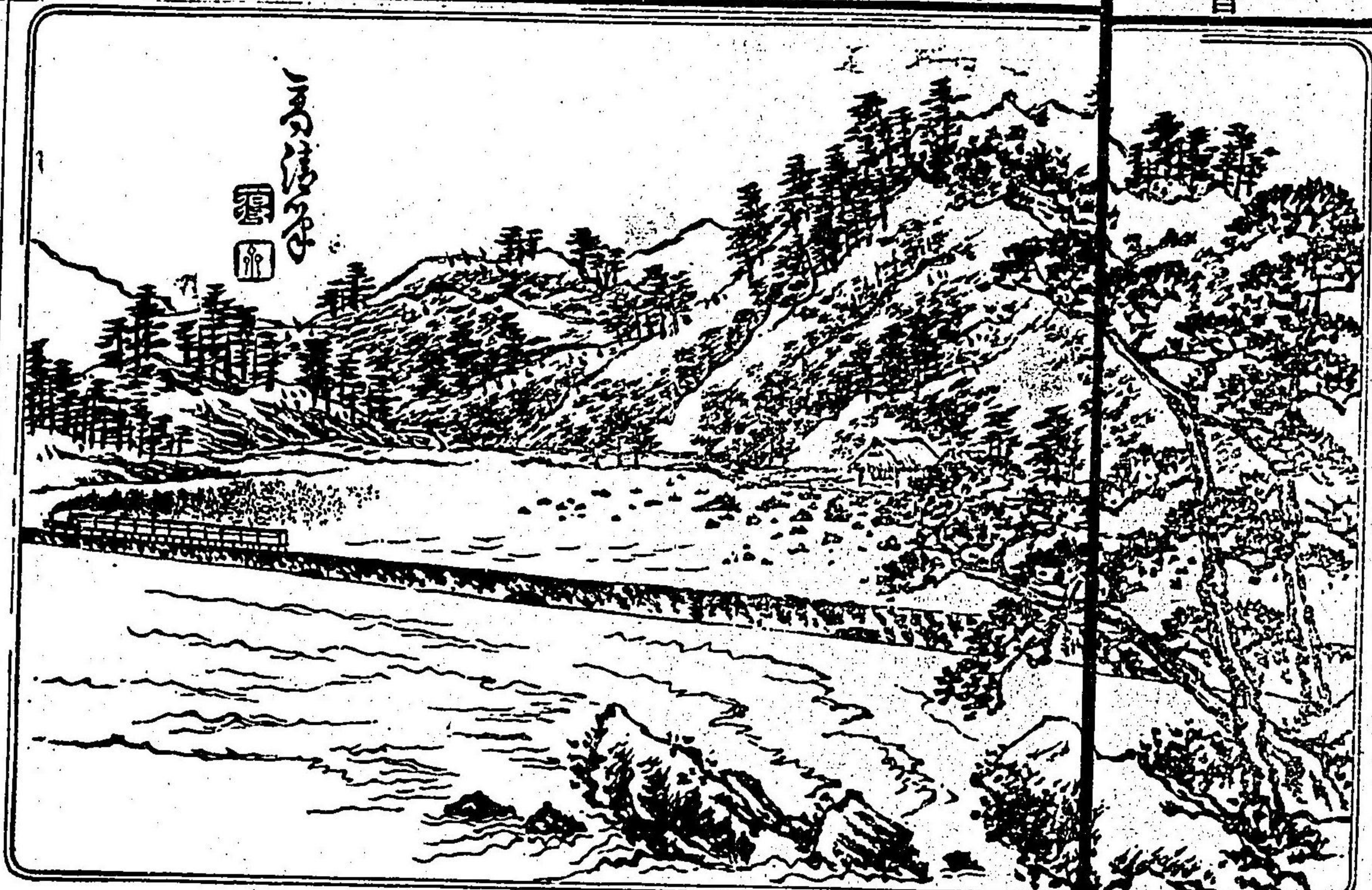
○立花山  
古城址山腹に  
あり山下梅岳  
寺に戸次道雲  
墓あり  
又武器類と藏  
す

○鏡坂○甲塚皆神后  
征韓乃時の遺跡なり

香椎  
停車場

箱崎へ  
三哩八分ノ三

四五丁  
○香椎神社



○立花山古城址大友貞載より鑑載まで七世在城し元  
 錄十二年毛利家の大軍の爲めに陥る元龜三年大友の大軍  
 之を攻て城を回復す後大友家より戸次鑑連として之を守  
 らしむ天正十三年薩州島津の大軍太宰府の前なる岩屋の  
 城を拔き破竹の勢にて此城を攻ると雖も鑑連の義子統虎  
 先守して降らす時に豊太閤西征の先鋒來れり陸軍退く豊  
 公統虎の勇略を賞し筑後柳川に封す乃ち立花氏の祖なり  
 万葉六

行へり常に我見し香椎湯すより後とミひよしもかき

同 典前守宇野首勇人

同 師 大 伴 郷

同 時津東ふくへくありぬ香椎湯しはひのさひに玉藻かりてな

大貳小野老朝臣

新古十九  
 千早振る香椎の宮  
 の紋杉と神のみこ  
 けにふてるなりけ  
 り此歌檜垣の詠あり  
 と世に傳へたり近

里人有栖川親王  
 の親筆と請ひ此  
 詠と石に彫し綾  
 杉の側に建たり

○名島古城  
 △帆柱

地蔵松林

△米塔一

△箱崎神  
 社二丁許

△掛松

○千代  
 松原一  
 名十里松

此處の海築軌海  
 道のり道のり  
 中海なり  
 も見近道  
 段の上の  
 岡のな

○香椎神社 祭神三座中殿  
 神功皇后左殿八幡神右殿住吉  
 大神なり本社之日本四所宗廟  
 の一にして古來朝廷より重じ  
 王人社なり此地と仲哀天皇神  
 功皇后行宮の地にして仲哀崩  
 御の後神后爰に留り逆徒を伐  
 ら服從せしめ又兵を聚め三韓  
 を討平し凱旋の聲と爰に駐め  
 玉ふ斯く武威を異域迄も輝し  
 皇國の守護神なれば朝廷より  
 屢勅使を遣し官幣と捧給ふ  
 境内本社之四圍老樹蔭茂り幽  
 透清淨なり本社之側神官の出  
 張所あり老藤數架蔓延し花侯  
 に之杖と曳くもの多し  
 ○茲杉本社瑞籬の前にあり

神功皇后征韓の後兵器  
 と爰に埋り杉苗と栽給  
 ひしものと云

○多々良川 此地  
 建武三年足利尊氏京都乃軍  
 に敗北し此地に下り菊池武  
 俊と大に戦し事太平記にあ  
 り又元錄十二年五月豊後大  
 友の臣戸次曰村吉弘の三將  
 と中國毛利家の將吉川小早  
 川の二將と激戦の地かり故  
 に處々遺墳多し

○内橋村停車場よ  
 り三十丁有名なる  
 眼醫中村正宅之に  
 住と

箱崎 博多へ  
 停車場 一哩四分ノ三

○箱崎  
 野菜畑

名 嶋 帆 柱 石 之 景



遠征功績萬年  
垂親使韓奴仰  
玉姿君去試看  
名島浦波間橋  
石是碑崇  
宮本重任

へ實に奇と謂ふへし香椎宮古記に神功皇后三韓より凱旋の時御船の帆柱を此海濱に捨置れしもの、石に化せりなりと云

○米一塔

箱崎驛の東邊地蔵松原に在り往昔元暦の頃西京一條家の家人木島某なるもの、子米一丸か妻と容色殊に勝れれば同下一條家の家人一條某あるもの假想米一と欺きて博多を下し博多の惡徒數多々頼み米一を殺し其妻と奪ひんとす惡徒等之を請し米一が博多滞留の間様々酒肴を以て米一を慰し其透間を窺ひ殺さんとす米一強勇にして容易く殺す能はず米一歸京よのぞみ惡徒等衆を率ひて此にて接戦し米一主従四十四人皆討死す  
此時米一が妻と十六歳なるが此事を聞き悲歎に堪へず密に家を出て遙々此に來りて自害せり米一が博多滞留の頃宛びし村雲と云美女も米一を戀ひ亦愛にて自害せしとぞかゝる由緒ある地なれば昔時と磨高かりしからん今の梵塔四五基を存し苔草に埋れ荒涼たるさまなり委詳風土記にあり又近著の小説に面白く假色せしものあり

○箱崎八幡社

博多の東一里餘十里松林中國道の傍なり 祭神三座 右八幡大神中座神功 上世穗波郡大分村に在り中世今の地に徙り祀れりと云宮を西北に向ひ巍然たる傑閣にして樓門を殊に雄壯にして敵國降伏と彫題せる四大字の額を掲げたる 帝の宸翰なり境の内外共青松白沙清淨の地たり石華表と海汀と在り 風景佳絶

博多  
停車場

東公園

○名嶋

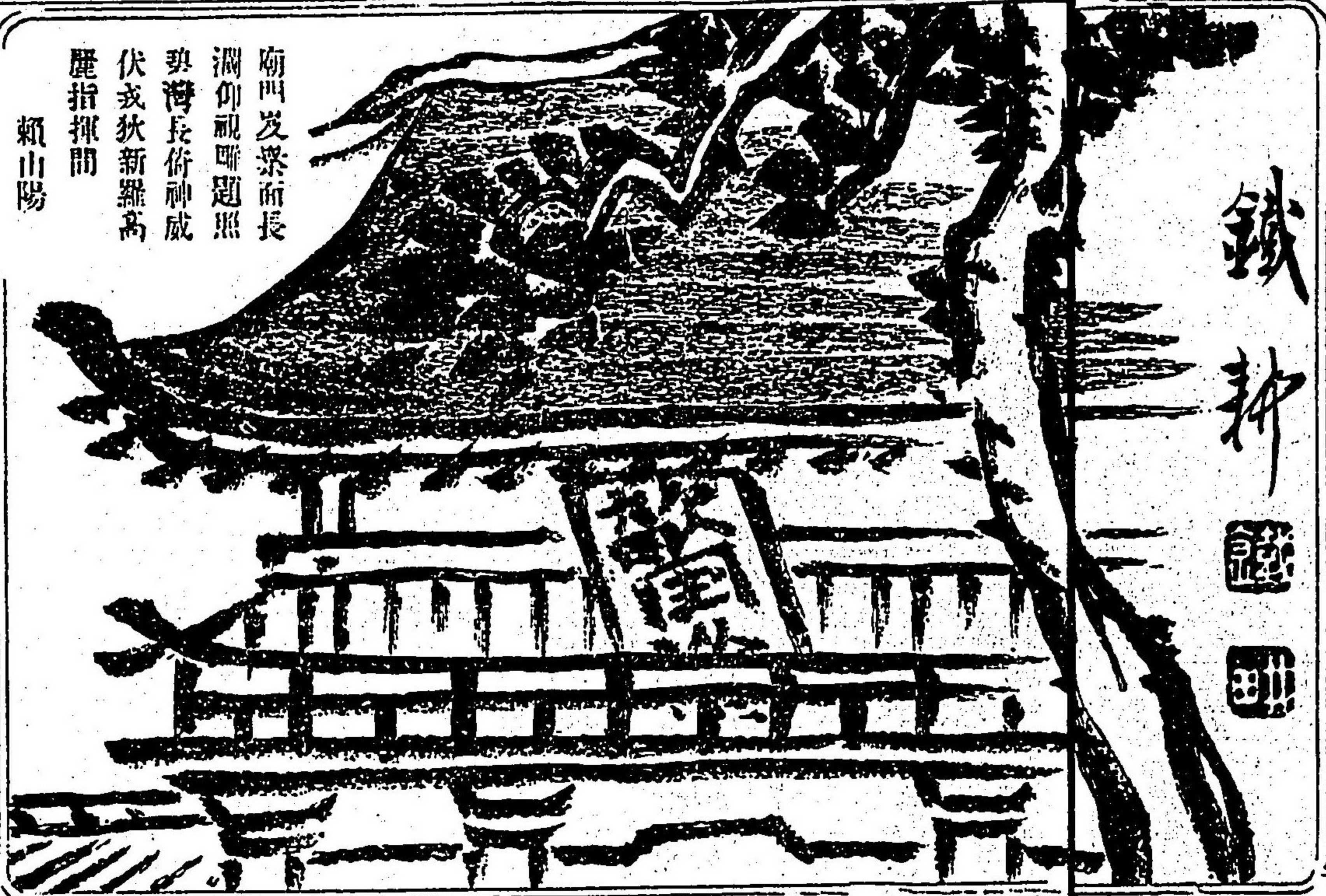
箱崎より廿町許多々良川口海に臨める一村落なり

○古城址

同所海に向ひて山上に辨天社あり乃ち古城址なり天正十五年小早川隆景爰に築き其養子金吾中納言秀秋の代に廢城となる此地海上の眺望殊に麗しく遊放に適す暖和の候にハ孤を帯び杖と良くもの多し

○帆柱石

城址の麓なる海岸にあり經二三尺許ある圓き石を長さ四尺或ハ五尺許に截斷せしもの七八個鐵輪の廻りし跡も著しく見



廟門炭業而長  
淵仰視唯題照  
興博長俯神威  
伏我狄新羅高  
麗指揮間  
賴山陽

鐵神

靈風旗影閃爍。巫女衣涼露未晞。忽憶蛟翁詩句好。青松高處一鳩飛。 星 巖

青螺透海望中重。七里清灘十里鐘。華表千年鶴何在。仙宮無恙夕陽鐘。 仙 厓

再度と仇浪よせぬ箱崎の松は千代よふ盛計りして 船曳鉄門

○印の松 祠前の神木と松なり應神帝の誕生に當り胞衣を爰に埋め一株の松を栽て標とせしものな

生初て千代を重ねし箱崎の標の松と神さびよけり 末永茂世

祠前酒肆茶店あり市中と拾物職工多し海濱は漁家多し

○祭事 曆正月三日玉競 八幡社の市始と稱し惠比須社の所より

民數百人群聚し皆裸体よて之と争ひ奪取て神前より納るを例とせり其

狀甚勇壯にして喧囂鼎沸の沸ぐ如し其奪得たる村は其年田穀豐饒云々

○放生會 陰曆八月十五日放生式を行ふ流鏑猿樂角抵等の催しあり

神幸は十三日の曉神輿三基海邊の仮殿より出御あり十四日の夕還御を

例とせり是とより十日の間祭祝の市  
の賑ひしと種々の飲食もの及び小間  
物を諸方より來り商ひ其他揚弓玉  
突觀劇輕業等各樣旗を翻し鉦を鳴

らし鼓を撃の類枚舉に遑わらず參  
詣人も毎日群集して堵の如し松林  
に博多商家とり所々に遊宴と開  
き彩幕を張り廻し婦女も錦衣と若  
飾り華麗に誇る風習なり

○釜掛の松 箱崎祠の西南 茶人千

利休の遺跡あり 天正十五年の夏豐太閤討

餘瀝陣此時箱崎市街は兵火にて荒野となりしゆへ  
神殿と以て牙齧とす時に茶人千宗易利休上方より  
下り來りうづば日々茶齋と催し同月の十八日は利  
休此松林にて催し松の垂枝に雲龍の小釜と懸け松  
葉と焚て豊公に茶と捧ぎ此時詠歌の催もありたり

あつさ日に此水のもとに立寄れば

波の音する松風とよく

千と世ともたゝみ入たる箱崎の

松に花さく折に折はとや

博多 棧橋 對



博多曉望  
 落日迎波宿  
 雲懸高棟一聲  
 柔暢來遊破千  
 家夢  
 後窓

右二首は短冊の下に標字あり傳々云豊公の詠なり

幾代よもうらさぬのとし波の 頼隆

かゝる折をやまつの箱崎

ちさりをいよの松原に残し置 小寺全休夢

歸るさまらぬ神のいろく

細川幽齋は太閤の跡を慕ひ丹後より北海へ船にて筑紫と指し五月廿五日箱崎に若てとめる

そのかみにたさめ置たる箱崎は 松久千代のためし成り

福岡市

博多を上古太宰府に九國二嶋を統治する官廳を置れし其頃より其名世に聞ゆ殊に太宰府に程近き三韓唐土の渡口なれし外國船も時々

來船して繁榮の港灣ありと云 古へり今の陸地の東西に通袖湊と号し又此邊の海濱に外寇防禦のため石壘長く連り東に箱崎多々長に至り西に今の福岡より今津に及びり文明弘安の頃、蒙古の兵屢入寇せし故石壘嚴重に修補せしこと古書に見ゆ故に當時より博多を石城府と稱し唐土の書には霸家壘とも記せり元龜天正の頃は天下大に乱れ干戈絶無く博多も兵火のた光焦土と成しを天正十五年六月豊臣秀吉討薩凱陣の途次箱崎滯留の時博多の衰微を歎ト市街再興を計り親ら侍臣に指揮して坊橋縱横の圖と作しむ此時より博多漸次復興へ賑へりといふ石壘は慶長十五年藩侯黒田長政入國の時に採り除き福岡城新築の用に充て今の石垣是なり

ちとりなくそての漆をとひこかし唐船のよるのねさめに 定家

戀ふる袖のみ那との波まくら幾世浮ねの數つももらん 忠良

近歲福岡と博多の両市を併せ福岡市と唱ふ今猶市街の名稱等両市に分ち之を記す博多灣は商船の碇泊場を定期の派船常に往來し特別輸出港の一に居る市況殷賑九州北部の一都會あり市坊百五拾五就中博多は橋口町中島町越屋町掛町綱場町等通筋と唱へ百貨を辨するの處なり福岡は上名島町下名島町吳服町本町大工町寶子町を六町筋と唱

へ舊藩の頃は郭内の市坊にて福岡より唐津長崎への通路を以て福岡人口五万一千八百餘戸數九千四百餘

○福岡舊城

慶長五年藩侯黒田長政筑前全州五拾二万石余を領し東は今の西中嶋橋際及び西は通町黒門に至る此城を福岡と唱へしは黒田氏の祖先黒田高政は備前國邑久郡福岡の住居たるを以て其本と重んじ其地名と用ゐたるものなり今は陸軍第六師團第十二旅團第二十四聯隊の營所となれり

○櫛田神社

左殿天照大神 天平元年  
右殿素戔鳴尊 寶字元年  
櫛田は大若子命

祭神三座中殿大若子命

河内國櫛田神社を勸請す故に此名ありなり天慶四年藤原純友討伐の時小野好古神助と祈るが爲め勸請せりと外二神合祭は年代詳ならず○元弘三年菊池寂阿官軍に屬し少貳英時と戦ひ此祠前と過る時寂阿か馬に前す寂阿曰何物の牛鬼ぞ敢て義兵と沮むと願て其意を射る馬輒前むと舊史に記せり

例祭

陰曆六月十五日 本社は博多市街の氏神にして本日は社内に六本の山笠と昇入れ賑へり櫛田祇園祭の山笠は永享四年六月十五日に

始れり山の數拾二本なり防州の大内義隆博多を領せし頃其居城なる

山口の祇園祭に六本を分ちて用ひしより爾後博多は六本を造るまとなれりと云山笠の製は臺に六本の棒を附けて擔ひ押歩行なり臺の上には四本の高き柱を建之に岩石花卉鳥獸其他旗幟等を建て大抵三國誌太閤記等の戦史より趣向を取りて造れり毎歲各町巡番にて造り六月初旬より時々町内を昇廻り十三日は流れ昇と唱へ一と流れの市街を昇廻れ十五日逐山と稱し殊に祭日あれば六本共ニ社内揃ひ看査官の指揮を待ち一本宛道の距離を定めて一番山が巡次に昇出し速を競ふあり數百の昇夫聲を屬し汗を流して競争する其狀戰鬪の如く迅雷乃轟如く大地も震動して太甚勇壯なり遠近より來を觀るもの群集して山の邊は立錐の地も無き程なり

○警固神社

福岡藥院小 祭神神直日命外二神例祭陰曆九月十九日 福岡市中大半 氏神なり

○光雲神社

全上北 維新以降の經營に於て黒田侯の始祖

如水長政の靈を祭れり春秋二回陰曆三月十九日より一週間八月八日より一週間

○聖福寺

博多御供所 建久二年千光國師宋朝より歸朝し始

て日本に禪法を傳へし古刹なり故に後鳥羽院より扶



桑最初禪窟と震翰よて賜り以來本寺の重寶と云て山門の額となせり。此額と箱崎八幡社の額と以て古人の著書も北筑三十八區あり今僅く存す今の寺中町西門などと當時の境内なりと云

○高僧仙厓禪師墓 寺内ニ在リ禪師諱ハ義梵字仙厓瀧州武儀郡谷口村の人にして禪理ニ精しく和漢の學ニ長そ中年本寺ニ來り住職となれり性機敏灑落常ニ寺内盧白院に居れり弊衣垢衲書畫を作り以て娛とせり其揮毫目に觸れ意の嚮ふものと雅俗を問わす一掃糊塗毫も巧思を費さず故に其書其畫天真爛漫一種の高韻を具へ世間大家の及ざるものあり依て其蹟後人の甚貴重する所となれり天保八年十月齡八十有八にて逝と寺内長松林を成し清沙地に滿ち殆ど塵外の趣あり

松碧沙明趣淡如。入門頓覺世塵虛。石城名利知多少。先訪扶桑禪窟初。 淡窓

○承天寺 聖福寺の南御供所町に在り禪宗 仁治三年聖一國師此開基と云て境内廣潤堂院數多あり石城一二の巨刹あり寺内往古より傳畫には巨勢金岡兆殿司古法眼の佛畫及び經山無準の達磨其他諸祖師の像あり廣瀬淡窓曾て此に遊ひ古畫を一覽し詩あり

幽庭古木結蒼藤。移榻清陰待月升。偶對丹青心莫逆。前身疑是六朝僧。

○崇福寺 十里松林にあり 仁治三年聖一國師此開基に云て太宰府横岳に創達せり故に横岳山と稱す慶長五年藩祖黒田長政入國の時爰に移し菩提所に定らる如城と黒田家の祖先及ヒ歴世侯主の墓あり此地廣漠たる十里松林にて白沙翠松相映清閑と占ひ山門之博多より箱崎へ通する街道に向へり

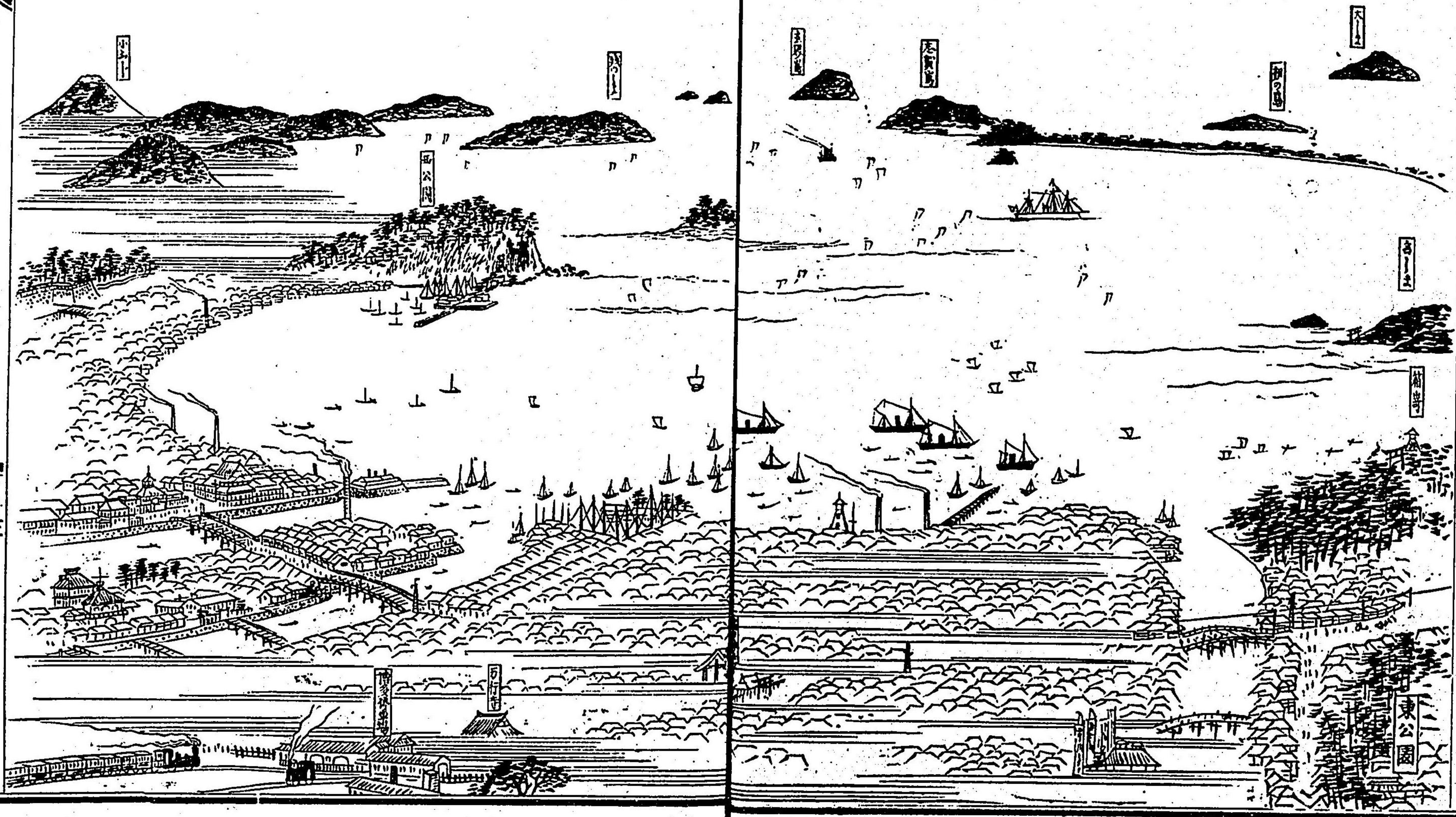
○萬行寺 祇園町に在り 往昔筑前全國の觸頭とて其末寺七拾餘ありと云當今は住僧七里恒順博學佛理ニ精し其高名遠邇ニ傳しく信徒の參詣常ニ絶えず又遠邦より笈を負ひ學ニ就く生徒甚た多し依て境内ニ藝舎と設け其便ニ供せり

○東公園 博多の東邊十里松林中に在り ○公園の區域甚闊く蒼々たる松林皓々たる白沙風景清閑にして處々に茶店あり皆揚弓壺弓玉突等の戲場を兼ね有せり又東邊ニ競馬場あり平素借馬を以て業とする者あり料理屋ニ之一方亭あり貸席ニハ青松館あり常ニ放遊の客絶えず殊ニ春花之展秋月夕三々五々袂を聯ひ車を輾らせ茶店の樓上ニ宴を開き繁絃鼓の豪客あり林中に鹿と敷き松篋を拾ひ茶を羨吟咏以て娛とする雅客あり

博 多 灣 之 景

伏敵門頭浪拍天  
 當時築石自依然  
 元兵沒海蹤猶在  
 神后征韓事久傳  
 城郭影浮春浦月  
 絃歌聲隱暮洲煙  
 昇平有象君看取  
 處々垂楊繫釣船  
 廣瀨淡窓

博多灣之景



○招魂祠 松園の東  
林中に在 ○維新前後殉難勤王の士奥羽討薩の役に戦死の靈  
を祀り春秋祭事賑かなき各所共碑石累々石欄を廻らせり

○元寇紀念碑建設地 松園の北  
公園の北 ○弘安四年蒙古の兵拾万餘人壹岐  
對馬の諸島を侵襲し倭艦を蔽ふて博多に來寇す天下騷擾人心恟々  
畏る龜山帝亮を以て掃攘し伊勢の大廟に祈玉ふ此時鎌府の執權北條  
時宗西國の諸將をして奮戰之を防がしむ一夕大風起り敵艦破壊逆浪  
に漂ふ諸將機に乗し追撃之と殲す此時蒙古の兵生て還るもの僅に三  
人と彼地の史書にも記せり此一舉帝國の武威と外域を輝し永く邊海  
の患を絶たり實に絶世の偉勳と謂ふへし近歲湯地丈雄其遺蹟を探討  
し永く紀念の爲め崇碑建設の事と謀畫し此地を以て建碑の敷地とす  
るの官詔を得明治廿三年四月既に盛大なる起工式を行へり今其崇碑  
構造は豫定する左の如しと云碑は花崗石を以て外徑拾五尺内徑五尺  
の圓筒に疊みあけ中銅又鐵造の螺旋梯と設け頂上に登覽するを得せ  
しむ其高さ地上を抜くこと二百廿壹尺とす脚部の出入口四方造り  
其中に餘地を設け外寇に關する書類物品等を保存し縦覽に供す云々  
又碑の石臺は古來外防の石臺たりしものを採集し舊形の儘之を用ひ  
石臺の巾七拾六尺奥行七拾二尺高二尺其費額拾萬圓と定め之を

日本全州に募集するものとし方今湯地氏山河を跋渉し専ら鞠躬從事  
せり苟も愛國の志有るもの之を贊翼して其成功の速なるを期し雲に登  
ゆる百尺崇碑の頂に登り當時と感懐し朝鮮鞞鞞蒙古の州をも睥睨す  
る亦樂まからずや

○日蓮上人銅像建築敷地 十里松林公園  
の東北あり ○其建築の發起は日蓮宗  
家にして其規模亦偉大なり其構造計畫は銅製上人の立像にして高さ  
三拾尺臺石七拾尺合せて百尺なり其費額と金三万圓と定め方今専ら  
募集中なりと云

同宗家の説に日蓮上人弘長元年伊豆へ配流の頃邊海に外寇のある  
を未前に察し邊防を嚴にせんことを鎌府に獻言す北條氏用ゐるに依  
て其後の甲州身延山に閉居し立正安國論を著す果して弘安に至り  
蒙古の寇あり此時鎌府より宇都宮公綱と使とし掃攘を祈らしむ上  
人其祈禱に供したる二流の旛と公綱に渡し西國に下らしむ大風起  
り掃攘の大勳を全せし上人の功德亦多き居る云々

○西公園 福岡藩城の西荒戸の海  
に臨める一孤山なり 山上荒津の神祠あり其左右群松  
の際二三の茶店あり常に松下に榻を置き遊客れ休憩  
に供す又鍾美亭と唱へる瀾き亭舎あり

○園内頗る眺望に富む登臨するもの一望快と稱せざる無し北之茫  
森たる立海洋にして眼底と福博市坊翠瓦粉壁鱗次縹緗として海に枕  
み瀾を成し十里松林に接す續て箱崎名嶋の浦嶽皆指掌の間に在り是  
より北に折れて海の中道と稱する一條の松林汀沙と立洋の蒼波を截  
ちて志賀嶋に通す實に天下希有の奇景なり洋中立海殘帆などの大小  
嶋も目睫の中に集り白帆の遠近に來往し流船の煙と曳きて入港する  
其狀と殆ど活畫景なり獨り海望の好きのみならず陸望亦佳絶西の百  
道松林姪濱より南の眼前近く福岡舊城の雄傑松間に隠見し時々衛成  
の喇叭銃砲の響も聞きて勇壯なり城背と遠嶽參差として雄を争ふ中  
に高く聳むたる之雷山背振山あり東に轉じて天拜窺門若杉立花の  
諸山各姿容を殊にして時たてり福博近郊と廣漠たる郊畦基局の如や  
暮春の頃と翠麥黃花の色を分ちて麗妍なる亦一段の奇觀あり況んや  
源車の博多と發し指點の間忽ち遙隔の中に没する其狀など人をし  
て嗟賞に堪ぬざらしむ是に依り春秋和喧の頃ハ登臨の客殊に多く松  
下に酒を煖め梅を開きて句を敲くの騷客もあり亭舎に妓を携は歌舞  
以て興を遣るの豪客もあり東公園ハ其景閑雅清酒にして西公園ハ快  
瀾壯麗あり各長短あり優劣し易からず

○愛宕社 福岡元標より二里 福岡より西方唐津及長崎街道の傍にあ  
り祭神瓊々杵尊例祭曆正月廿四日 祠廟は海に突出たる山上に在り眺望佳絶祠畔一二  
の茶店あり此神常々參詣人多し故に山下華表の前にも酒肆茶店多し  
○諸見川は此麓に流れ海に入る此川水晶魚の名産あり水晶魚は其  
質玲瓏潔白其味淡減尤も會席などの料理に適す陸曆彼岸の頃より  
川水を堰留先梁を構はて漁するなり此魚古來多々長那珂諸見の三  
川にて漁す近來他の二川の諸見の多く漁するに及ざるなり其項は  
日々福博より遊客絶えず川邊の茶店或は汀沙に毘と敷き水晶魚を  
肴に代は宴を開くもの多し

紅裙浴後出街園。政是遊春試歩初。酒旆招々馳江濶。新梁爭落水晶魚。 竹塙

○貝原益軒墓 西町金龍寺の壘域に在り先生の碩儒たる皆人の知  
る處なり碑文は高弟竹田春菴の撰なり  
○菊池寂阿墓 福岡舊城の南六本松に在り正慶の亂に肥後菊池の  
住菊池武時官軍に屬し賊少貳貞經大友貞宗と戦ひ  
爰に死す古來久しく里人菊池地藏と唱へ祭りしを維新の際本土の有  
志相謀り石碑を建て祀れり

諸官衙

○縣廳天神 ○警察部縣廳前 ○未決監獄署縣廳南隣 ○已決監獄署須崎海岸 ○市役所天神  
○遞信省橋口 ○電信局全上 ○裁判所大名 ○大林區署因幡 ○福岡勸業試驗場東中  
南の邊にあり萬種の卉草等を試養せし植物園あり衆庶の縦覽を許す ○測候所全上場内 ○直間稅分署縣廳南隣 ○收稅部全上

學校及病院

○公尋常中學修猷館大名 ○立尋常師範學校并女子部荒戸町 ○英和女學校基督教派より設立天神町  
○病院 東中洲に在り本院治術の聲譽高く西州第一なり近歲遠近病客の診と請ふ者益多く病室狹隘容る能わず且其構造病室に適せざるを以て市の東なる十里松林中に巨費を以て完全なる病院を新築するの計畫成り本年より三年を期し竣功の豫定なりと云院長兼外科部長博士大森治豊内科學士熊谷元旦婦人科學士池田陽一眼科學士榎本與七郎小兒科學士戸田成年調劑部長倉田孝貞幹事大河内於免松外科副部長心得古川俊

諸集會所

○縣會議事堂縣廳西隣 ○共進館東中洲にあり崇樓にして萬般の公會及演說會等に貸與す并商業會議所  
○米商會所 共進館の北隣なり煉瓦造の傑閣にして中買人の店宅數十軒其左右に建列ね定期米の賣買盛なり資金三万圓頭取森信夫  
○劇場教樂社御供所町に在り構造壯麗と以て名あり ○全上永樂社東中洲に在り ○寄席安樂社土居

西町

○吳服反物卸商監獄製木綿倉敷紡績糸賣捌 上西町 渡邊與三郎 ○和紡績糸商并煙草製造所全町 渡邊綱三郎 ○生糸商并練糸類兼履物漆器卸商全町 渡邊治平 ○萬金物商并諸器械製造鍋釜鑄造全町下厨子支店 渡邊藤吉 ○和砂糖卸商并掛物 栗原龜治郎 ○醬油釀造全町 奧村治七 ○清酒釀造下西 山本豊吉 ○古着商全町 井上與助 ○諸金物商諸建築用諸物 松隈辰治郎

網場町

○吳服反物卸商吉田又吉支店 ○吳服和反物商篠原由治郎 ○和小間物卸商吉田又吉支店 ○吳服反物商三苦朝次郎 ○諸陶器卸商及盃印燒付 安川源治

麴屋町

○吳服反物卸商與村利助 ○上商岩田屋 中幸田嘉兵衛 ○文房具卸商復古堂製造筆 河原田平助 ○國帶地製造鶴田宗助 ○吳服反物商小川小七第六 ○和紡績糸金巾卸商與村利助 ○和小間物商小川小七第一 ○洋小間物卸商小川小七第二 ○諸金物卸商小川小七第五 ○外書籍商高田芳太郎 ○吳服和反物卸商小川小七第三 ○文房具卸商小川小七第四 商店

掛町

○吳服反物卸商伊藤長兵衛支店 ○吳服反物商中尾卯兵衛支店 ○和小間物卸商井

上卯三郎 ○諸國陶磁器卸商飯野定平 ○煙草製造卸商相部幸兵衛 ○吳服反物商石藏利平支店

仲間町

○吳服反物卸商野村久七郎 ○吳服反物商野村久吉 ○古着商野村久一郎 ○全商野村久左衛門 ○全商野村久藏 ○和小間物卸商八尋孫三郎 ○文房具卸商下澤善四郎 ○和小間物卸商下澤善四郎本店 ○吳服反物卸商並足秋枝正四郎 ○藥種醫療器械商并有名賣藥繪川口屋波多江嘉兵衛 具染料洋酒類

土居町

○國鍋釜鋤鑄造各地販買土土磯野七平 ○全上全商深見平次郎 ○全上商并消防用賣全磯野孫次郎 ○和洋諸金物商全上深見平治郎第一支店 ○全上商并銷釜鋤同人第二支店 ○國帶地其他織物製丁林德兵衛 ○吳服反物商下土兒島長治郎 ○吳服反物商全古井新左右衛門

濱口町

○吳服反物卸商上濱藤井五平 ○煙草製造卸商全上并仲買安永儀平

市小路町

○吳服反物商上市具嶋勒右衛門 ○線綿卸商并和洋毛糸類石村卯三郎 ○埴商下市田嶋大平 ○國帶地其他織物製造白水長左右衛門

石堂町

○醬油釀造中石奧村治吉 ○諸國陶磁器卸商下澤善五郎 ○萬荒物紙商中石奧村治兵衛

官内町

○諸革靴製造萬金物原田善助 ○魚類乾物埴卸商安浦儀平本店

箔屋町

○醬油釀造るみみ中村清三 ○生糸商并絹古着類及生糸買入中村清次郎

奥堂町

○砂糖卸商萬屋堺宗一郎 ○清酒釀造商加野熊太郎

古小路町

○和萬金物商并保險金庫便利油久松下久吾 ○全上商并建築用諸金油久松下榮治郎 ○清酒釀造兼權衛大山篤三郎 ○萬荒物紙履物商山崎芳兵衛

川端町

○和砂糖印商萬屋深澤伊平 ○砂糖掛物製造卸商深澤芳松 ○萬荒物和紙商川下新  
たところ八尋伊平 ○砂糖萬掛物製造小原傳治郎 ○紙商并荒物類各種八尋伊三郎 ○小  
間物海川魚釣針類船木佐平 ○洋服及地質商河内幸七 ○旅人宿大黒屋濱植治郎 ○旅  
人宿紅勘大森勘助 ○各賣藥大取次所新川二苦啓治郎

吳服町

○藥種醫療器械商并有名賣藥繪具染料毒物類及洋酒硝子器販買 吳服町角くらや 内海善兵衛

橋口町

○國帶地其他織物製都築源兵衛 ○洋毛雜貨商富永源右衛門 ○瀛船問屋及旅人宿  
石田平吉

中嶋町

○外書籍商并東京大坂新開雜誌類取次及學校用器械ヲルカンノ元東京博開分社森岡書店 ○外書籍商森落林斧助 ○外書  
籍商大坂積善館 ○洋繪具染料各國紙并漆商香具屋兒島善三郎 ○洋織物雜貨商  
香具屋兒島善次郎 ○洋船具荒物商幸田治平 ○小間物卸商幸田新平 ○時計商  
幸田新平支店 ○諸國陶磁器商武内卯平 ○瀛船問屋并旅人宿古賀文吾 ○醬油釀造與村  
利助支店 ○旅人宿松島屋矢野善右衛門 ○活版業共文社 ○外賣藥商病院曲角酒井  
峯太郎 ○諸國漆器商熊谷才吉 ○旅人宿服部常吉

中洲

○國帶地及織物製造商江州支店松井元右衛門 ○全上商永田喜助 ○時計商永野  
甚次郎

洲崎

○諸國漆器商猶崎次郎吉 ○醬油釀造上洲與村利平 ○旅人宿并庭作小植津崎伊平

對馬小路

○旅人宿今任亮太郎 ○和砂糖卸商中對馬淵上惣右衛門 ○蠟製造卸商并油淵上  
榮造 ○魚類問屋下對馬石藏利平出張 ○乾物類海產問屋中對馬立石善平 ○清酒讓  
造商上石橋半平 ○藍及米穀問屋上川上藤三郎

藏本町

○醬油釀造太田與三郎 ○蠟油製造卸商太田清藏 ○蠟油問屋太田嘉藏 ○蠟米  
問屋柴田忠治

鯛町

○清酒釀造商石藏利平 ○蠟油製造卸商齋藤善助

下東町

○蠟油製造卸商渡邊五平 ○米穀卸商白水嘉七 ○古着商長野嘉兵衛

大濱町

○材木商大漢太原嘉藏 ○清酒釀造商丁石藏利八

各町の分

○鬢附匂油石油商上濱井上久右衛門 ○米穀卸商社家梅崎源吉 ○米穀卸商井紙類北船町社家間善次郎 ○諸乾物商海産問屋並雜貨八百治内田治兵衛 ○藥種醫療器械商井有名賣藥器具染料煮物類洋酒硝子器販賣吳服町角較屋 内海善兵衛

福岡各商橋口町

○吳服反物卸商あるみや中尾卯兵衛 ○清酒釀造商あるみや中尾伊作 ○洋小間物雜貨商并フランソア山本與一郎 ○和紙商中村朔八郎 ○洋服及地質商并仕立洋服販賣櫻木權右衛門 ○種鉄砲及火藥商西村正平 ○國帶地其他織物製造商岡松與八 ○旅人宿海容館木原喜藏 ○諸油商岡松太七 ○旅人宿濱田屋小川久太郎 ○旅人宿酒井屋倉成運吉

下名島町

○椅子テール其他製造平賀牛次郎 ○旅人宿吉見屋吉村小七 ○諸官廳御用達活版并石版印刷所大隈壯太郎 ○硝子卸商上名嶋町小川鐵磨

福岡各町

○内書籍商和漢古書販賣并非賣品の古物万種を藏し古物室賣子町江藤正澄 ○和紙商大工佐藤久七 ○醬油釀造上名奥村利吉 ○醬油釀造南漆有吉吉五郎 ○全上商大工樋口伊三郎 ○清酒釀造商南漆荻尾太吉 ○全上商本佐藤篤太郎 ○石卸醬油釀造并賣商藥院紺屋山下圓造 町山賣屋

○寫眞師

○古門三吉利三郎 ○東中渡邊震治郎 ○中嶋新道服部政太郎 州光玉館

福岡銀行及會社

○第七國立銀行資本三拾万圓頭取小河久四郎 ○無限筑紫銀行資本拾五万圓頭取磯野七平 ○筑陽社生糸製造蒸氣器械社長野村祐雄 ○有限筑前米穀會社下對馬頭取梅崎源吉 ○有限福岡製革會社資本壹万圓業諸皮社長中尾卯兵衛 ○有限九州運輸會社資本壹万圓業物貨運送



受貨馬場社長梅崎源吉 ○大商船會社代理店下須支配人齊藤千五郎 ○成産會社出張  
新町 業荷爲替支配人松尾三憲 ○日運輸會社管理店上辻主任山崎清五郎 ○熊精米所中嶋  
店下馬場町 ○福岡日々新聞社中島 ○福陵新報社中島 ○國風社和歌風雅を以て組織す集會  
地持主熊谷才吉 所藥院光雲神  
社内 和暢亭

○福岡集産場福岡橋口町 ○博多集産場博多麴屋町 ○全勸工場博多橋口町 ○以上各商より出店して  
萬種の小間物正札付にて商ふ

料理店

○福村樓東中 ○氣儘亭大濱 ○大壽樓釜屋 ○山海樓釜屋

○集成館巨大の層樓にて樓上數百 ○常盤樓 ○翠月樓 ○玄海樓

○新茶屋料理店博多の東邊千代の松原に在り近歲電娼と禁せり

柳町娼家

風土記に 往古と洲崎の海岸にあり慶長の頃今の地に徙れりと云凡日本に  
て播州室津を以て遊廓の始なりと唱ゆれども博多之猶久しき事  
なり明の茅元儀武備志に博多に女鬪ありと記せり依て考ふる  
に就れ明代より前に在し事と知らる又里傳に博多に唐船の來舶

しける頃異船も其間に來りて日本を窺ふ事ありしに小女郎  
と云へる娼妓彼船に到り船將を欺きて官吏に捕縛せし光たり此  
功により小女郎の衆妓の長と成れり云近歲遊客の多きに依り  
此地日々繁昌し客室の景狀美を説ひ昔日の比に非らそ又一昨  
年其西方の海濱を埋新廓を開けり

○三吉屋 ○惠比須屋 ○一國屋 ○粹多樓 ○三浦屋 ○成田屋 ○君の  
都 ○山井屋 ○高嶋屋 ○一樂樓 ○福本樓 ○桐岡樓 ○明月樓 ○新玉  
樓等なり ○新地に之 ○金波樓 ○海月樓 ○一藤亭 ○相摸屋 ○新明  
月樓其他三吉屋惠比須屋の支店わり遊廓本支店共廿八軒現今娼  
妓二百四拾二人藝妓九十八人舞兒四十七人仲居六十九人

潮湯浴場

○晴心館博多大濱 ○衛生庵福岡賀子 ○枕濤舍福岡須崎  
近歲福岡市街潮湯浴場流行し諸病に効驗多きを以て浴客日に多く孰れも繁昌せり今爰に諸症  
効用の著しき分と録す ○胃弱 ○消化不良 ○貧血病 ○黃膽 ○心下痞硬 ○虛瘦 ○肺病初期 ○喘息  
○胸肋痛 ○氣管支加答爾 ○久下痢風邪 ○咽喉加答爾 ○子宮病 ○レナーマナス其他疥癬の類

福博看花及納涼地

博多松囃子之圖  
 君ヶ代ハ千代や  
 八千代の松とやし  
 松のとかこの  
 祝ふ初春  
 厩

照々春日寅賓郊東  
 十里松風以謠以舞  
 聖壽無窮  
 仙厩



博多松囃子

州一

○住吉堤新櫻 博多瓦町東邊より那珂川に沿ひ住吉神社より其間の堤上に本年市中の有志相謀り千餘の櫻樹を栽たり追年錦雲紅雪の別界を幻出を可し

○小田部藤花園 福岡荒戸四番丁に在り例年初夏八十八夜を以て花候とせり観客頗る多く園内酒肆茶店等を設け大に賑はし

○福岡橋口町橋畔 例年炎暑の候橋畔氷店を設け川中接船など淨へ客を延き毎夕賑之し○同所の北二三丁須崎海濱と白沙清湖第一の地にて攝生を兼ね海水浴を爲すもの歳を逐ふて多し眺望亦佳絶なり

### 博多松囃子の由来并景状

○博多古へより松囃子と唱へ他に類似無き祝事あり其濫觴を尋るに保元の頃平氏盛なりし時博多と小松内府重盛の領邑に屬して深く恩惠と蒙りし事ありければ其報恩の爲先正月に小松囃子と云事を始めけり是より毎年恒例とあり其謡曲に松どのや〜小松どのやと謡ひ祝へり今誤りて松やね〜小松やねと云へりと其項松囃子と正月七日に催し箱崎八幡社に打連れ參詣しける慶長四年正月名嶋中納言より肥後國主加藤家の歳賀の使節を遣まけるに行遣ひ口論に及び騷動を成しけるより松囃子も一時中絶せしとなり黒田侯入國の後寛永十八年國侯より再興を促されたり依て博多の古老伊藤宗巴古例を考へ松囃子を再興す是より因り正月十五日の一番に城内に入り國侯の遊覽に供し兒舞と伊藤家に到り祝する例と成れり方今松囃子の景状

其趣向一ならず種々の造り物を臺に載せ曳き又人々異様の扮装を爲し少女かどと羅綾錦織と若飾り並と彈じ鼓と鞞ち又各町巡番にて惠比須大黒福祿壽を扮装し馬に乗せて曳たり此他兒と稱し十歳許の童男も玉冠錦衣を粧わせ車上仮開中に載せ所々にて舞曲を爲しける此等は古例の通り今も行われ古風を存して興あり明治維新後ハ大抵紀元節に催す事となり福岡光雲神社より顯官宅或ハ市役所等より各々福岡市坊を囃し廻る事となれり此日早晨より遊觀の者街巷到處に群集し雜沓を爲せり又福岡萬戸の市人假令陋巷僑居の者と雖も皆休業して酒肴を整ひ祝意と表せざるを無し松囃子に伴ひ行くもの誰彼とち々祝ふたりと一聲叫んで戸に入れば酔を勸めて興じたる殊に市坊の巨商の如きと店頭に華毼を敷き錦屏を廻らし幕かと張りて粧へり此等と店頭にて手踊なども催し一段の賑ひなり此日晨より夜に入り街巷到處系竹の聲鉦鼓の響絶間無き人皆笑歡醉謔狂顛に任せ快樂を極せざるを無し誠に他に類似なき賑ひにて調然たる和氣太平の象鼓腹の民もかく哉と思はれり

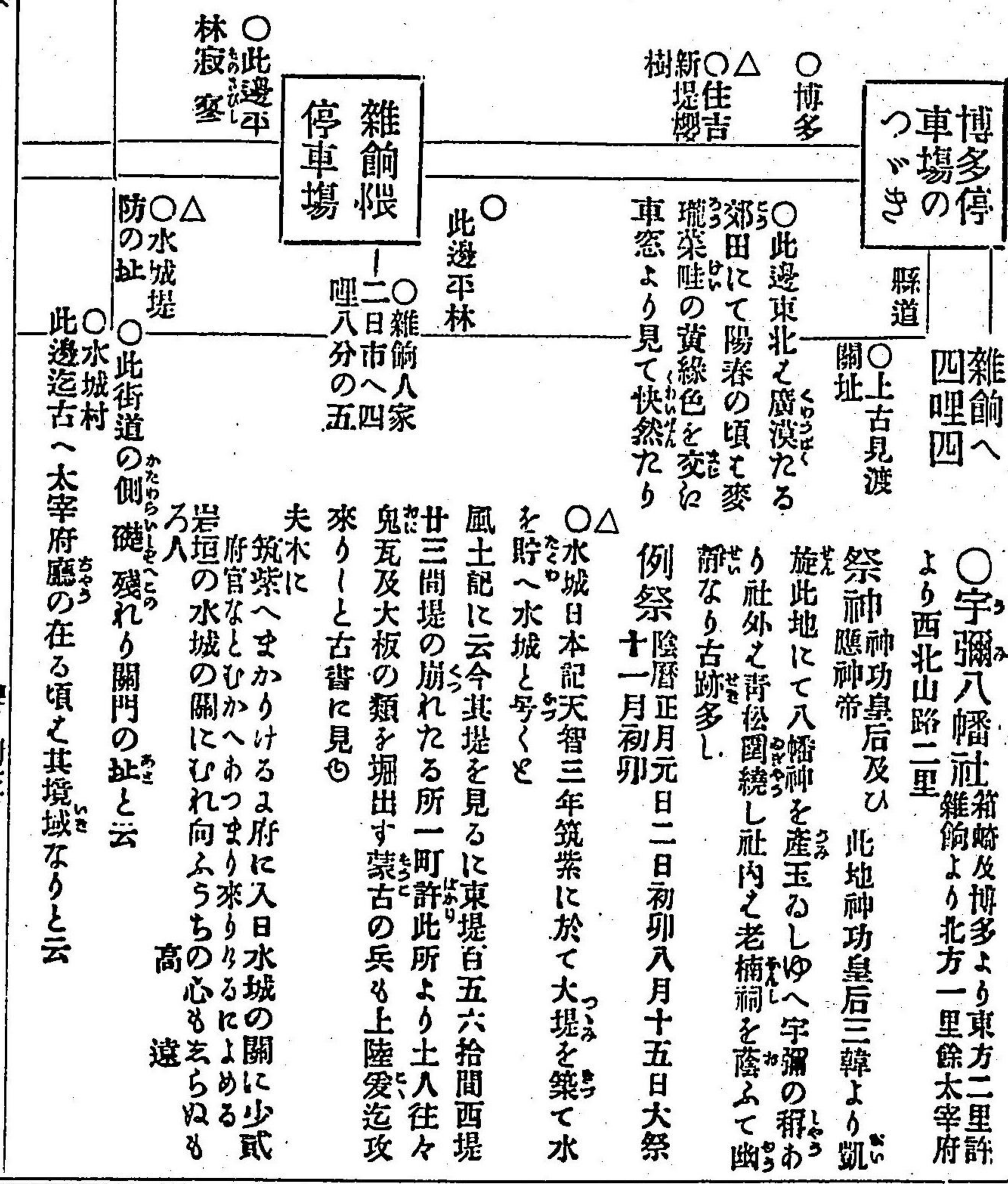
### ○芥屋大門

此地筑前の西端志摩郡芥屋村の北方海岸にあり一奇巖洞なるを以て其名高し然れ共玄海洋に對し風浪常に荒き僻陋の地なれば詣り

観るもの稀なり方今夏月に涼船の往還するあり故に爰に其巖洞の景状を略記す

○大門の芥屋村を距る北方五丁許にして海中に突出せる大巖なり其  
状恰も龜の頭を延る如し其近傍より之を觀れば其巖状ハ丈餘の石  
柱を堆積せるもの如し或ハ四角六角八角あるものあり良工の數  
百萬の柱を削成して之を束ね海中に峙たるか如し其勢峻秀巖頂を俯  
して下を蔭へり巖下の海水甚深くして色藍の如し觀者魂悸す一の洞  
窟あり北に向へり窟口甚調くして潮水を吞吐す小舟を置し窟中に入  
れば濶五間許猶進行百間許にして左に廻り仰き視れば悉く角柱と東  
ねて上を覆ひたる如き其柱長短齊しからず墜んと欲して墜ず人とし  
て畏懼せしむ是とて窟中次第に狭く朦朧として舟進行する能はず  
に乗り行けば水濶て沙汀あり歩を拾ふて猶進めば彌々暗黒にして  
飛翔顔を撲つ是より皆棹を回すと云曾て奇を好むの士あり燭を点し  
て尙は深く入ること數十歩に及ふ頃窟中俄に鳴動し海波湧き起る神  
脚惶然蒼皇退歩し舟に上り歸しと云又此窟口を距る四五間にして奇  
巖あり海面を抜出ること三四間にして五六寸の柱を横に堆疊せるが  
如し是にも洞穴あり北風烈しき時巨浪洞口を鼓せば其響迅雷の如き  
數里に聞ゆと福岡より陸行七六里唐津街道前原驛にて右折し邊田村

と過き芥屋あり村内二三の客舎あり



博多停車場

雜餉隈

宇彌八幡社

祭神 應神帝

祭日 陰曆正月元日 二月初卯 八月十五日 大祭

例祭 陰曆正月元日 二月初卯 八月十五日 大祭

○博多

○此邊東北之廣漠たる

○水城日本記天智三年筑紫に於て大堤を築て水

を貯へ水城と号くと

風土記に云今其堤を見るに東堤百五六拾間西堤

廿三間堤の崩れたる所一町許此所より土人往々

鬼瓦及大板の類を掘出す蒙古の兵も上陸爰迄攻

來りいと古書に見ゆ

○此邊平林

○雜餉人家

筑紫へまかりけるよ府に入日水城の關に少貳

府官なとむかへあつまり來りたるによめる

岩垣の水城の關にむれ向ふうち心の心もあらぬも

高遠

雜餉隈

○此邊平林

○此街道の側礎残り關門の址と云

○水城村

此邊迄古へ大宰府廳の在る頃之其境域なりと云

○此邊平林

○水城堤

○此街道の側礎残り關門の址と云

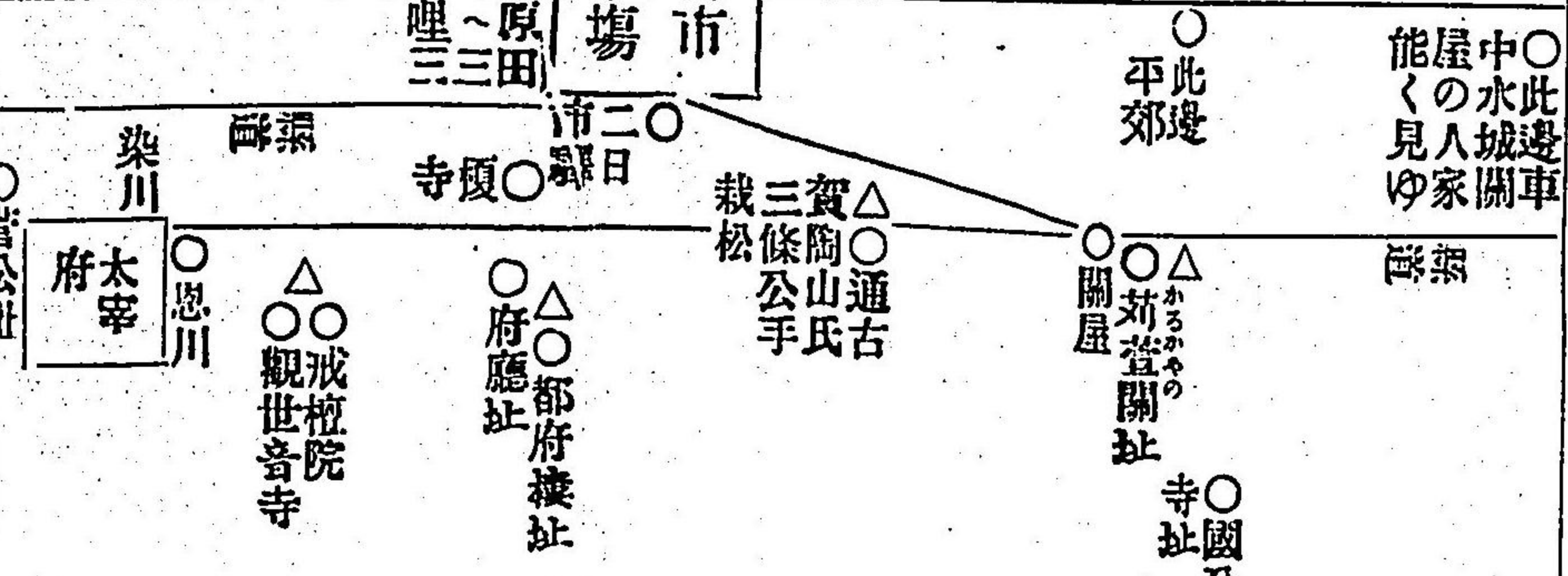
○水城村

此邊迄古へ大宰府廳の在る頃之其境域なりと云

○武藏温泉湧出の始り白風年間と云旅舎の一俵の小川を夾みて並立し近歳温泉の改良を謀り大抵舎内に湯壺を設たり舎外ハ川湯薬師湯あり浴客甚多し

○延壽館○紺屋○旧代屋○こまじ屋  
○木屋外に十軒許あり  
○天拜山山上に天神社あり麓に新天神社及天拜石あり其北に武藏寺あり菅公天を拜し玉のしとり此名あり  
三町許

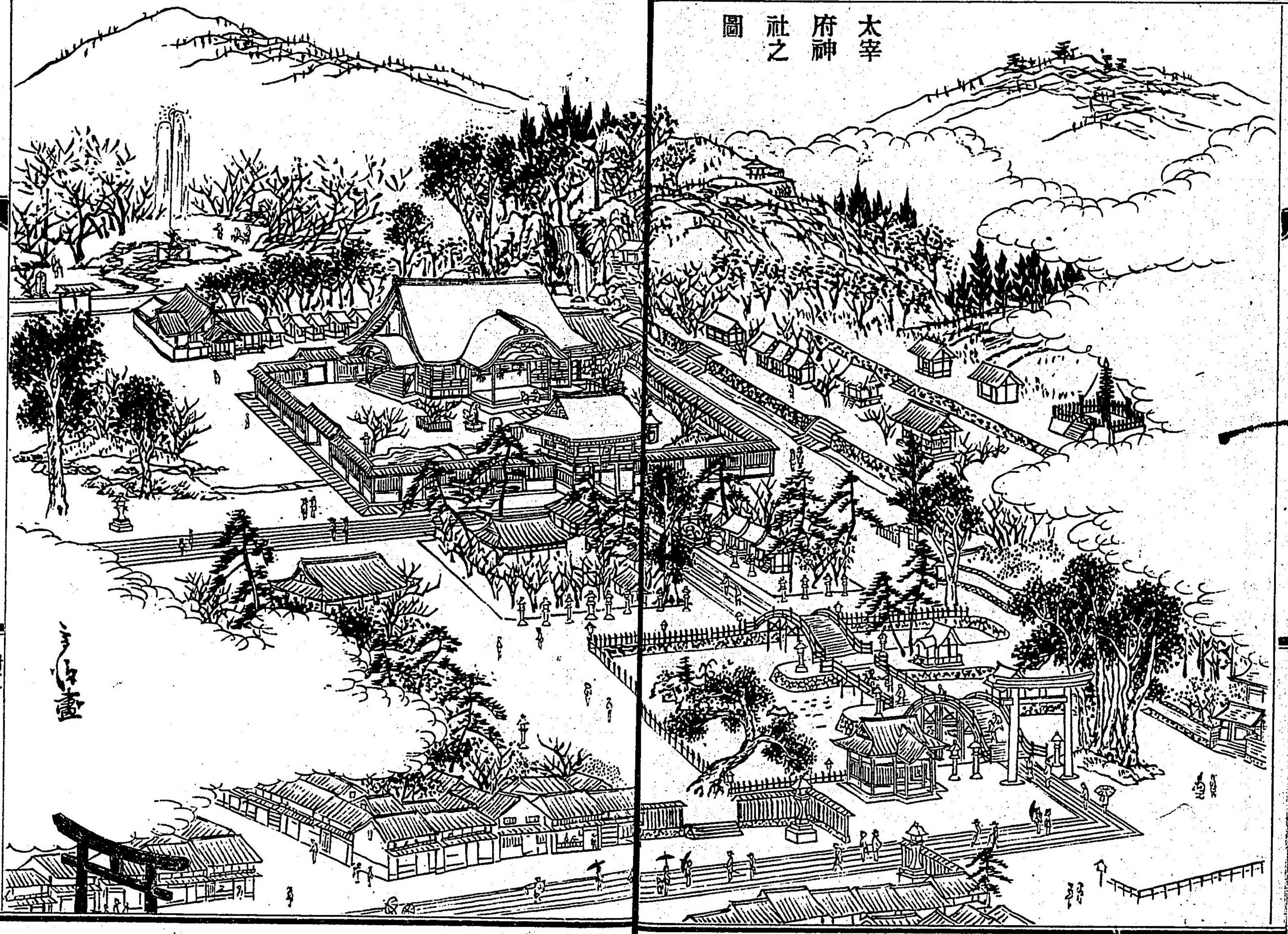
○天拜山 △武藏温泉  
天拜山中樞樞多し春秋和喧の頃之遊客絶ゆる  
武藏温泉浴場ハ南に天拜山を負ひ太宰府の靈區に近く傍近名勝多きを以て雅遊を兼ね浴するもの殊に多し



○此邊車中水城關屋の人家能く見ゆ  
○此邊古へ關門の在しと云るなり世の神史に傳ふる佐藤繁氏石堂丸爰に居れりと云此地ハ博多より二日市太宰府の岐路あり數軒の茶店及び密番候より大なる石華表を建たり  
○關屋 劉登關外雨漫々○濕氣吹衣夏亦寒○忽喜天南呈霽色○高良依約見峰巒○漢城草 星 巖  
せとくともまの軒は宿からん夕立過るかるかや乃せき  
○二日市驛ハ人家多く賑へり停車場ハ秋月甘木日田等の東方より博多ハ出又ハ太宰府へ參詣の要所なれば昇降の客常に多く依て數軒の茶肆も建列ねて賑わし  
○染川ハ太宰府の南にある小川なり漢草に太宰府と書けり  
後撰十四 女のもとにつうのしたる  
ほろしなる思そめわたりたりあは  
水やまさらんよとむ時あく 藤原真忠  
同返し  
見たりてあはなるてふそめ川の  
心ほのしあまもことすれ  
よみ人 ちらす

○太宰府神社 官幣小社二日市祭菅原道真公あり祠宇崇麗にして數多の堂塔殿廡皆輪奐の美を極たり近頃土人相謀り遙處より泉を引て瀑布を懸け且其側數百の梅樹を栽て遊園を開き一段の雅趣を添たり  
○元始祭 一月 ○孝明天皇遙拜式 三十日 ○祈年祭 二月四日奉幣使  
○紀元節 二月一日 ○春季皇靈祭 廿一日 ○神武天皇遙拜式 四月  
○大後 三十日 ○例祭 八月廿五日奉幣 ○秋季皇靈祭 廿三日 ○神宮  
遙拜式 十七日 ○天長節 十一月一日 ○新嘗祭 十一月廿三日奉  
○三十一日 ○除夜祭 全上 ○下舊曆之部追儺祭 舊正月七月廿七草の御供薄暮よ  
の形を造り之を店頭にて售る諸人之を購ひ池邊廣所に群集して互に交換し小と以て大を得るを祥とし其争擾の狀鼎沸が如し此夕金製の鬘三三分長六分なるもの二三個を社務所より出して交換す之を換へ得る者ハ大なる福瑞とし旅人の客舎にて酒なと買ひ大に祝すと云次に追儺式あり之を鬼燵と云一個の里人に鬼面を被らせて之を縛し警衛者村數十人伴ひて堂中に入れ堂外より堆積せる新緑の松薪ハ火を點じ燵るなり此時堂内より警衛の者長き棒にて堂壁と破り鬼を出さんと欲し堂外よりハ長柄の大團扇を以て煙氣を堂内に煽り鬼及警衛の者に苦惱させ出る能はざらしむ終に堂壁多く破れ煙氣の穢煉なるに隨ひ鬼外へ出るなり此祭事ハ往古より傳はり他州に聞かざる奇祭より爰記す

太宰府神之圖



卅五

○講社祈祥祭 全正月廿四日廿五日飛梅  
 日夕御衣 講社中安全の祈禱あり  
 ○夏祭 全六月廿四日 日廿五日  
 全十一月廿日夕 式ありて年中の大祭あり  
 ○秋祭 八月廿四日より廿五日まで御幸  
 ○更衣祭 全四月廿四日  
 ○更衣祭 全四月廿四日

菅原道真公御零傳の内其要を撰ひ愛に記す

抑公の參議菅原是善卿第三子にて幼名を阿呼と稱し字ハ三と稱す幼  
 たり聰明にまし御年十一の春是善卿當時の文學島田忠臣をして  
 公の才智を試みさせんと思ひ今霽ハ月も明に梅も面白く咲たれば詩  
 にても作り玉わんやと申させ賜ひければ取敢ず 月耀如晴雪梅花似  
 照星可憐金鏡轉庭上玉房鑿。と作り賜へば是善卿も其秀才を密に驚  
 歎し玉へり貞觀元年御年十五歳にて元服し賜ひける其時御母伴氏一  
 首の歌と詠し賜ふ 久方の月の桂も折はるる家の風をも吹せてし  
 春 月の桂を折と云事ハ淡土の故事にて學問上達して天子より召出  
 さるゝ事と折桂といへり仁和二年讃岐守に任せしる同四年の夏大に  
 早して國民飢渴に及ばんとす公いたく愁ひ歎るせ賜ひ城山の神も雨  
 と祈り賜ひ 須臾の間 大雨盆を覆へし國民再ひ蘇生の思ひ  
 とありにける寛平四年四十八にて宇多天皇の勅と奉じて親聚國史二

百卷と撰び賜ふ同八年東宮延喜帝の旨と承て二時の中に詩二十首を  
 作りて奉らせ賜ふ全九年御年五十三にて權大納言と任じ右大將を兼  
 らる此時藤原時平公も大納言と任じ左大將と兼ね公と並立て政事と  
 ぞ執行のれける昌泰二年時平公を左大臣と任じ公を右大臣と任せら  
 る時平公ハ放蕩濫行の人なれとも昭宣公の嫡子にて代々大臣の家柄  
 なりければ當今第一の臣と定められ時平公の妹君ハ當今の御后とな  
 らせ賜へり又帝の外祖藤原高藤 仁明帝の御子源光二人とも大納  
 言たり公思召るゝ我身の原儒家よと起して右大臣と任せられ其位  
 高藤光等の人々の上と立てて此人々の上と立ん事憚りあざと表を奉  
 りて右大臣と辭し賜ひけれど 上皇「宇多天皇」今上延喜帝「更」御許な  
 く唯々幼主と輔佐し奉るべしとの御事なり始め帝と上皇と御話の序  
 り密に仰せられりるハ當時時平道具相並て政事と執行ふよりてハ  
 必忌逆ふ事の出來あんいかで一人と止めんとて 祿を回らし賜ふ  
 り時平公ハ家柄といひ御后の兄上なれど齡三十まだ足らず且其身  
 の才智心控も遠く公及ばせ公ハ聖教を守り賢と譽げ徳と貴び賜へ  
 ば執政の任に當れりとして直に御前召され已後の汝一人として天下  
 の政を執行ふべしと勅命ありり公大に驚き賜ひて頻に辭し申させ

賜へと更に御許なし此時時平公 兩皇の公を召れし事尋常ならざる  
を見陣の座へ退りられたる其狀例に違ひて見たりける此時兩皇の仰  
せられし事を密議なれどいつう世に洩聞へければ是より無實の議  
言を搦て陰謀公を咒咀ひ殺さんと計られけり夫も荷擔せし源光卿  
定國卿菅根朝臣等なり又此人々偽りて勅宣と稱し陰陽寮の官人に種  
々引引出物を與へて冥衆を祭らせ 皇城の八方より山野とて厭術と  
ぞ行ひしめける光卿の 帝の身にて定國卿の家柄素より高よりしう  
位位公の下なると無念に思ひ菅根朝臣の公に憾有りける故に時平  
公是等の人々を交り結びて公を罪に落さんと計られける 帝の素  
より聰明なかりしけれと御齡十七歳に在せられ且御后は時平公の妹  
君にて互に内外より讒しければ帝も其實否をだに糺させられず公と  
貶して太宰権師より賜ふ實に昌泰三年正月廿五日なり公の御子  
男女二十三人かこしすし中の御男子四人の同しく四方へ流され賜  
ひぬ姫君の都に留めかきて幼き君達二人のみを具し參らせ賜ふ公毎  
に愛させたまひし紅梅殿の御庭を御覽して心なき木々にも契り置て  
ぞ出たまひける 東風吹るの句ひおこせよ梅の花主なしとて春な忘  
れそ 此御歌ゆゆも梅の一夜に筑紫へ飛行しとある今も神前より  
る飛梅此れなり斯て二月朔日京都と立出で筑紫へ趣りせたまふに次  
第道の遠くなりければ御心細く思召て播磨國明石の浦に泊らせたま  
まひける時宿の主御勞敷思ひ奉るを見て 驛長莫驚時變改一榮一落  
是春秋と云詩を作りて與へ賜へり筑紫太宰府に着せたまひて述懐  
に 離家三四月落涙百千行萬事皆如夢時々仰彼蒼となん作らせた  
まふ西府よましますはど人にとかしく物をも宜とす常に一室の  
中に鬱々として日を送だたまふ或夕暮に籠せ賜へる 夕されの野に  
も山も立つ烟敷よりこそ燃えまさりけれ 又雨の降りたるに 天  
下隠る人もなればや着てし濡衣ひるよしもあき 又不出門行の  
詩を作りて何方にも出たまひざりたり

一從 謫居就柴荆。萬先競々踏踏情。都府樓樓看瓦色。觀音寺只聽鐘聲。中懷好透孤雲去。外  
物相逢滿月迎。此地離身無檢察。何爲寸步出門行。

延喜三年正月の頃より御心地例あらず次第に病重くせたまひて其年  
の二月二十五日御齡五十九にて終らせたまひぬやめて太宰府に近き  
四堂の傍に御墓所を營みて御尊骸を納め奉らんとまけるに御車忽ち  
途中に駐りて動る是に因て其所を御墓所とす今の神社の地是なり  
延喜五年八月安樂寺に初て神殿造營の新始ありて全九年に成就す是



公の靈を崇奉し神殿の始あり其後都に打續きて變災あり或時ハ雷電霹靂猛烈にして止まざ人心兢々是全く罪なき菅公を流罪に處せられし其崇あるよ一沙汰したり延喜八年十月菅根朝臣も頓死し明年三月時平公も心地惱み終に三十九歳にて薨せ依て急公の御崇ありと物議喧しく騒ぎけり帝にも公と左遷なし賜ひし事を深く御後悔ありて延長元年本の位に復されたり其後一條天皇正曆四年左大臣と贈らせられ同年十月正一位太政大臣を贈らせ賜ひける然れば代々の帝勅願に依て中門廻廊を始め堂院を多く造營あし賜ふよそ時を逐ひ月を経て繁榮の露區といなりぬ

太宰府謁菅公廟

廣瀬淡窓

菅公家世屬儒林。偶拜崇祠。景慕深。遂砌梅松無俗樹。藏池養鴨有嘉音。祀同關帝施朝野。名亞宣尼照古今。却憶土師曾止殉。果然餘慶見天心。

○太宰府官廳址 觀世音寺村字月山と云田圃の中に大なる礎残り是れ官廳の址ありと云南に大門の址あり北に都府櫻の址ありて其間大厦の有し跡多し礎之皆方六尺餘有りて柱の建し所之圓く座を研て徑壹尺一寸或ハ二尺五寸あり鎮西都督府西都古歌より西の宮ともよめり此太宰府の何の時置れしや其始と詳

にせず日本紀に之推古天皇十七年夏四月筑前太宰府奏上して言百濟の僧道頓惠彌と首として十人俗人七十五人肥後國葦北津に泊る云々是太宰府の國史に見へたる始なり是に依て見れり始めて府廳を置れし事ハ猶其前久しき事あるべし凡當府之九州二嶋を統轄して政務を行ハ西方の藩鎮として異賊襲來に備へたり故に其任重く官を師といふ是勅任の官にして多くの有品の親王を以て是に任す權師ハ納言以上の人は是に任す次に大貳小貳大監小監以下の屬官あり廢絶年代詳ならず

○都府樓址 全上所の少北に在り 都督府の樓又因り都府樓と云 天智天皇時代の創建なり其地東西拾四間南北六間大なる礎三十あり又其北地中二尺餘卑くして礎數多残り其他土中に埋没せるもの數可ら其礎石孰も方六尺餘柱の建し所ハ徑二尺壹寸許なり其傍近殘缺の古瓦夥し昔時より人拾去れども盡ること無し古瓦の内外國より渡來の分之外鼠色にして内紫色なり其質堅厚鐵の如し文雅の土硯材とし池を彫して愛玩す

寺西明府所藏都府樓瓦詩

廣瀬淡窓

蒼關東去莽平蕪。煙草萋迷雉相呼。都府樓空餘基礎。縱橫宛似八陣圖。行人過此訪陳迹。有時拾得殘瓦碧。其質堅厚其色幽。叩之鏘鏗類金石。寺西

偉然廟貌倚崔嵬  
憶起當時恨且哀  
從古天地產蛙龍  
于今街巷說風雷  
觀音寺古鍾偏鏗  
都府樓空瓦亦灰  
唯有餘馨消不盡  
年々春信到宮梅

右錄星巖詞

菅公之廟之詩

荒てし西の都

來て見れど

觀世音寺の入

相の鐘

仙厓



七十七日  
菅公  
印

明府清白人。幹<sub>二</sub>棄寶玉<sub>一</sub>如<sub>二</sub>埃塵<sub>一</sub>。獨獲斯物欣然喜。十襲不<sub>二</sub>啻連城珍<sub>一</sub>。維昔曾開都督府。九州二島屬<sub>二</sub>安撫<sub>一</sub>。西通<sub>二</sub>禹域<sub>一</sub>修<sub>二</sub>禮文<sub>一</sub>。北制<sub>二</sub>鷄林<sub>一</sub>振<sub>二</sub>威武<sub>一</sub>。府北有<sub>二</sub>樓百尺高<sub>一</sub>。群公退食此遊遊。畫<sub>二</sub>雁近<sub>一</sub>捲天山雪。雕<sub>二</sub>樞遙<sub>一</sub>觀<sub>二</sub>玄海濤<sub>一</sub>。知君玩<sub>二</sub>物有深意<sub>一</sub>。何嘗一灑<sub>二</sub>弔古淚<sub>一</sub>。陵<sub>二</sub>遷谷<sub>一</sub>變<sub>二</sub>本無常<sub>一</sub>。天日煌<sub>二</sub>々懸<sub>一</sub>不<sub>二</sub>墜<sub>一</sub>。群<sub>二</sub>縣勢<sub>一</sub>移<sub>二</sub>封建成<sub>一</sub>。州府沿革與<sub>二</sub>時行<sub>一</sub>。豈同<sub>二</sub>麥秀悲<sub>一</sub>殷國。不比<sub>二</sub>黍離閔<sub>一</sub><sub>二</sub>鎬京<sub>一</sub>。微物貞<sub>二</sub>固觀<sub>一</sub>古制。轉見<sub>二</sub>皇基永<sub>一</sub>不<sub>二</sub>替<sub>一</sub>。商<sub>二</sub>彝周鼎<sub>一</sub>亡<sub>二</sub>國遺<sub>一</sub>。何如<sub>二</sub>片瓦輝<sub>一</sub>千世。○此地碑あり文ハ福岡縣令渡邊清の撰とる處惜哉頗る長文にて此小冊子に載する能はせ

○觀世音寺

太宰府の西邊博多の通路の側にあり天智天皇開基の古刹にて其名高し太宰府繁榮の頃は境内廣く子院多かりしと今は僅に存せり寺の什寶に羅陵主假面同納利假面は世々類なき功造の物なりと云又觀世音寺と書せる四大字の額は小野道風の筆蹟あり

○戒壇院

觀世音の西隣あり唐の監真和尚此所にて受戒を始しと云日本受戒所三所の一にして名高き寶刹なり

○國分寺址

筑前關社の北三四丁國分村の中ニ存し數多の礎石及び飲瓦と殘せり

○菅梅の符

社務所より出す請ふ者夥し

梅符又梅符。雖符遍九州。菅神元不<sub>二</sub>俗<sub>一</sub>。作<sub>二</sub>福也風流<sub>一</sub>。

○名物梅ヶ枝餅 祠前の茶店等にて焼く賣る ○延命文町内にて製し售る

○旅人宿

○大町泉屋大野東治郎 ○全町大野屋手島重三郎 ○全町松屋栗原孫兵衛 ○全町日田屋安垣  
清三郎 ○櫻馬場甘木屋高砂磯治郎 ○全町三橋屋芳原勘治郎 ○全町藤井屋藤井太助

○三條公手栽の松

二日市停車場を距る西方拾二丁縣道筋水城村の内通古賀醫師陶山氏の宅に在り  
慶應年間天下騷擾の際村内に陶山一貫と唱へる老醫あり資性落着にして學識あり夙に勤王の志を抱  
けり當時三條實美卿外四卿翁の人と爲り愛し親を其慮を枉らる時に翁か平素珍秘せる實美卿の嚴  
君實萬卿の眞蹟ある赤心報國の四大字の幅を壁に挂たり其時卿倭歌一首を詠り賜る

先くりきて旅路をみることつかしきうへらぬちうく水くさのわと  
是より寵遇益厚く屢に狂顧の榮を辱なうせり翁亦竊に西遊幽戀の情を敬慕し奉慰せらざる無一此  
時世上佐幕論盛にして勤王の士拘囚刑に就くもの多し翁と洒落異行狂人を以て自ら晦ま一幸に免る  
と云或時卿また翁の慮にて

老松の蔭に立寄いつもくかむらぬ情嬉しむりけり  
或日磁器に親裁の稚松を賜りて

植置て手おられ松の生ささ遠いりてふたゝひとんと與し母の南

慶應三年主運 循環五卿復讐歸洛の時翁は太宰府に参候して苅萱關迄扈從す翁の家族亦同所に相待  
奉送す之かた先五卿の乘輿暫時路上に駐する翁欣賀に堪はず高砂詣の一節なる還城樂と口にして立  
上り老體婆娑とて路上に舞ひける時に同年十二月十四日あり實美卿與中欣然即詠と懐紙に書して  
賜る

都よればるとして宰府の宿と立出たるに一貫翁の關屋まで送り來て語ると  
打うたひて別れをおまみつゝ祝ひけるよ

立歸る我を送ると老人の翁さひせし事も忘れて

苅萱の關よ人々の送りけるに

送り來る人の情の嬉しさに心ととむる苅萱の關

一貫翁も今既に鬼籍に入り其關松庵の代となれり三條公親裁の松の愛護今仍は榮家の至寶とせ  
と外に當時五卿の筆蹟數多遺せり

二日市  
停車場

二日市驛

○榎寺 通古賀の東邊にある數祠あり二  
日市驛より太宰府參詣路邊にて陶山氏  
の宅と僅に二三の郊畦を隔つ此地例年八  
月の大祭は菅神遷幸暫く輿を駐めたまふ  
由緒ある舊跡とて今も太宰府十二勝區の  
一に居れり吉嗣拜山會て詩あり

例祭年々八月期。  
簫聲吹送晚風時。  
神輿去後無人賽。  
一片斜陽照古祠。

此邊  
軌道  
山間  
と過

△北方大嶽の  
時ては龍門  
山なり  
△東北遙に山  
頂兩尖屹立天  
を刺すは古處  
山なり  
○此より驛車  
の方位南に轉  
じ走る

○龍門山谷に寶滿山と云祭神玉依姬神  
廟は山頂にあり登路二方に分る一と西  
方太宰府より登る一里餘一と南方大石  
村より登る三拾丁登路峻險奇巖名區多  
し山中楓櫻及び石楠等の樹多く雅客の  
遊み適す例祭陰曆四月十六日  
○古處山 二日市より秋月へ五山頂神祠  
あり其勝龍門山より亞つ峰勢屹然秋月は  
舊城市に臨む

原田 停車場

○筑紫神社  
○原田驛

○原田驛 山間の驛市なり旅人宿肥前

田代停車場

へ四哩六

○筑紫神社 延喜式内の神社にて御

針指

笠那の惣鎮守なり

此邊丘陵の  
堀ワリ多し

○此邊より東方平曠の中一孤山と見る筑前國夜須郡  
四三島の中に在る城山と唱へる山なり山上筑後よ  
界し小早川隆景出城の址あり故に此名を存す山下  
の延文の頃肥後の菊池武光と太宰少貳大友と劇戰  
の地あり太平記に大原と記せり今遺墳多し太刀洗  
川ちと當時の遺跡なり

田代 停車場

○八代田  
○神坂驛

○田代より筑後小郡町へ十八丁

○此邊軌道を夾み  
植島多し

○山陽の詩

黃植成と列陣陸間。南望平々見海灣。未  
至築城三五驛。忽從林際得温山。

鳥栖 停車場

久留米停車場へ四哩

此停車場にて佐賀地方への線路駁る旅客其  
赴く所により乗替と爲す

○植島多し

○曠郊  
○此邊東方錦屏山の西峽高良山に近き瀨窓望て趣あり  
梁川星嶽の詩に

列岫排螺髻。高良迥出群。霞流紅旆旒。風  
疊碧氤氳。遺廟遙相望。維馨夙所聞。無由  
獲謁去。目送夕峰雲。

○千歳川之源と豊後山中より  
發去日本三大川の一に居る

○廣瀬淡窓地は久留米の詩あり  
能く實境と寫せり

遊人下馬弔孤忠。五穀祠開香火爨。  
註五穀祠以忠官道畫靈喬木露。旅衣秋  
冷亂荷風。江於桑城稱三大。邦與  
榮藩抗兩雄。行到長隄將解纜。  
回頭却拜水天宮。

○朝日山此山小なりと  
雖も此あたり平原なる  
を以て遠方能見ゆ

○林或平  
之煙

○千歳川鐵橋

○梅林寺  
△○篠山神社

久留米 停車場  
一羽大塚停車場  
へ七哩四

○水天宮  
○此驛人家  
鹿なる陶器と製す  
四哩五

○山切山  
○山林

中 停車場  
原 停車場

○五穀神社久留米通町十丁目に在り忠臣有馬岩見の靈と記る

○久留米を筑後の西北に位し北に筑後川千歳川の洪流を帯び其末流たる大川港と舟楫相通と運輸の便を得たる舊と有馬侯の城邑にして其繁昌福岡縣管内に於て福岡市に亞全市坊四拾餘人口貳萬五千貳百餘戸數四千三百餘なり

○篠山神社停車場東北七八丁有馬侯舊牙城に在り祭神有馬氏祖先より累世侯主の靈と記る

境内清淨社前數十歩の間櫻樹を栽たり石華表と入と階を登れば左側に巨碑あり西海忠死の碑と記せり裏面は陸軍大勳位有栖川煇仁親王書とあり

り維新前本藩勤王の士真木和泉其他殉難諸氏の靈を慰する紀念碑あり

○祠前に石人首級一個あり石欄を廻らし之を護る側ら碑あり此首級書と本州上妻郡吉田村石人山筑紫盤井藩墓之遺物にて石人首級の殘缺云々記り又其傍に奇石一個を置けり此石往昔豊太閤より藩祖豊氏侯に茶室と賜ふ是之其附屬の物なりと碑に彫せり此地眺望に富む東の錦屏山及び高良山の神廟と對し北の通筑前の窺門古處などの峻嶺と望み眼底に千歳川の洪流を截ちて鐵橋横わり其近郊曠漠の景亦望てあり

千歳川鐵橋之圖





○舊城の慶長の頃小早川秀包之居る  
慶長五年田中吉政之代り其子忠政  
至り元和六年有馬豊氏之代り累世  
居り二拾四万石を領す明治四年  
置縣の制より廢城となり今尙は  
のみ存せり

○水天宮 停車場より西方五六丁千  
歲川の東岸にあり

祭神安徳天皇二位尼平時子例祭  
曆四月五日より三日の間なり  
此神水難を避るる靈驗多き  
以て常々賽拜人多く殊に  
祭日より其賽拜人の多き事  
太宰府に仲せり方今曾て本土  
の諸有士相謀り此殿を改築  
し神苑を開闢せんとし其費  
兵大として今専ら土功中なり  
○高山正之墓 停車場と距る  
東方十町許寺町通照院の墓  
域に在り氏ハ俗稱彦九郎と云  
上野國新田郡細谷村の人なり

氏夙に當時王室表微武人の  
跋扈を憤慨し單身劍を仗り諸州を跋渉し  
天下の豪傑と交を結び大に爲す所  
あらんとす實に勤王大義の首唱者  
たり未だ時運不際せず此地森主  
膳宅に滞寓中感念する所あり屠腹して  
死す正之の傳り山陽遺稿及び高山探志  
等の書に詳なれば爰に略す  
○正之の墓銘 寛政五癸丑年  
六月廿七日 松陰以向居士 碑の側らよ

生國上野郡新田村細谷村  
高山彦九郎正之墓

○墓前石燈籠の銘に安政三年戊午十月且筑前隠士平野次郎國臣と記  
し表に獻燈とあり此他薩藩伊地知龍右衛門高橋新八川井田市郎左右  
衛門等の名を刻して獻納せし石燈籠玉垣手水盥あり○編者今を距る  
十八年前上州に遊び細谷村に詣り正之の墓に謁す蓋し墓の當時久留  
米藩侯より其遺物及び毛髮を驛送せられしに依り毛髮を埋しものな  
り墓畔林中正之の喪屋の址あり正之の幼少して母を亡ひ祖母を養ひ  
る祖母死して悲慟堪はず祖母の恩母に同じて此に喪屋を作り之  
に住し三年の喪を勤先しと云高山家の系統を聞かば正之の子を義助  
と云其子常太郎其子石九郎其子森四郎なり明治十二年より新田郡  
太田町金山に正之の祠堂を建て國幣中社と祀られたり  
○高良神社 國幣中社久留米市 祠ハ錦屏山の西端にあり麓に府中驛あり是

よ登る路邊池沼わす池上清水寺閣わす風景愛を可し是よ登路稍峻石階を攀ぢ頂に至る廟貌崇嚴古風を存せり大祭陰曆九月九日此日遠邇より參詣人群を成し府中際甚た賑へり招魂社長山登路の北に形り高山正之其他雜新前久留米藩勳王殉難の士の靈と祀れり山中杜鵑花多し初夏の遊に適す

○警察署兩替 ○市役所片原 ○裁判所藤山 ○監獄支署上 ○尋中學明善校兩替

○銀行及會社

○第六國立銀行片原町資取佐々徳 ○赤松社資余四藤山町  
拾五萬圓業全上町 金廿萬圓 林田守隆 ○久留 紡績會社資  
務綿糸紡績社長林田正治郎 ○久留 運輸會社資余三千圓業源社長星野武平 ○駐貸金會社資  
八萬圓社長三谷有信 ○町貸金會社資余七 京町國友勝興 ○櫛貸金會社資余三萬 櫛原町  
莊嶋町 岩人 ○常盤組資余三 社長田村峯太郎

○諸商店通町

○國濟卸商并玉嶋紡績五丁目 國武喜次郎 ○全上商并紡績三丁目 岡茂平  
○全上商并推茸問松井儀平 ○全上商并綿糸商本村正平 ○全上商并三池紡三丁目 岡茂平  
○全上商二丁目 塚本安治支店 ○全上商五丁目 中村友吉 ○古着商二丁目 今村茂祐 ○全上商

寺崎吉平 ○全上商廣津義助 ○全上商寺崎長七 ○全上商山本八平 ○全上商高木  
佐助 ○全上商寺崎久治郎 ○和紡績綿糸商并度量青沼源之助 ○諸金物商并度量外町  
後祐 ○諸金物硝子板商古賀喜平 ○銅釜類鑄物商堀内直次郎 ○諸金物及物商和  
田和助 ○藥種商并器機洋酒類繪二丁目 藥種賣藥商熊谷元吉 ○繪具藥種商  
熊谷與平 ○國産表花産青筵商并石炭油四丁目 山下安平 ○全上商并茶紙九丁目 藤島久助 ○漆商并繪具  
傘商并製傘材料古村利平 ○全上商五丁目 渡邊藤作 ○全上商九丁目 藤島久助 ○漆商并繪具  
三丁目 川崎峰治郎 ○小間物商廣松治平 ○全上商伊吹芳五郎 ○時計商高田喜平治 ○  
諸紙文具類茶商吉村長平 ○漆器商古川正治郎 ○全上商大津半助 ○産生蠟燭製造卸  
商四丁目 大坪吉平 ○全上商蠟燭製造卸商黑岩平治郎 ○全上商古川萬治郎 ○國蠟燭製造卸  
商七丁目 和田東治郎 ○陶器商古賀吉藏 ○全上商藤島彌平 ○全上商余田久三郎 ○砂  
糖商岩永熊吉 ○全上商堤榮治郎 ○全上商小林善藏 ○墟魚商佐田與平 ○荒物商  
菅笠二丁目 江藤嘉助 ○全上商廢物石炭 梅津龜之助 ○全上商紙類表五丁目 松井友吉 ○全上商麻苧類  
二丁目 山下理助 ○國鋸製造兼十丁目 青木清吾 ○獵銃火藥商七丁目 岡佐助 ○旅人宿九丁目  
奥田寅治郎

三本松町

○國濟卸商并紡績湯淺易平○吳服和洋反物商并天滿紡績高崎新兵衛○吳服和洋反物商飯田甚吾○全上商永岡幾兵衛○全上商下川茂平○大物洋小間物和洋紙絹綿糸卸商星野正治郎○古着商高崎松太郎○乾物太物洋紙荒物卸商星野利七○和洋紙絹綿糸卸商星野正治郎○古着物商赤司常治郎○如泉堂書籍商赤司平輔○國産壘表花座青筵商并國産傘中川源治郎○小間物商今村治平○全上商星野富治郎○洋小間物商岡幾平○全上商安元邦太郎○時計商宗野彌一郎○和洋諸紙并茶商三嶋正助○砂糖商上野利兵衛○和洋諸金新平○并菅笠類履物卸商德永萬助○旅人宿屋上野茂平○全上宿兼荷主宿酒井唯三郎○全上宿三松館星木七治

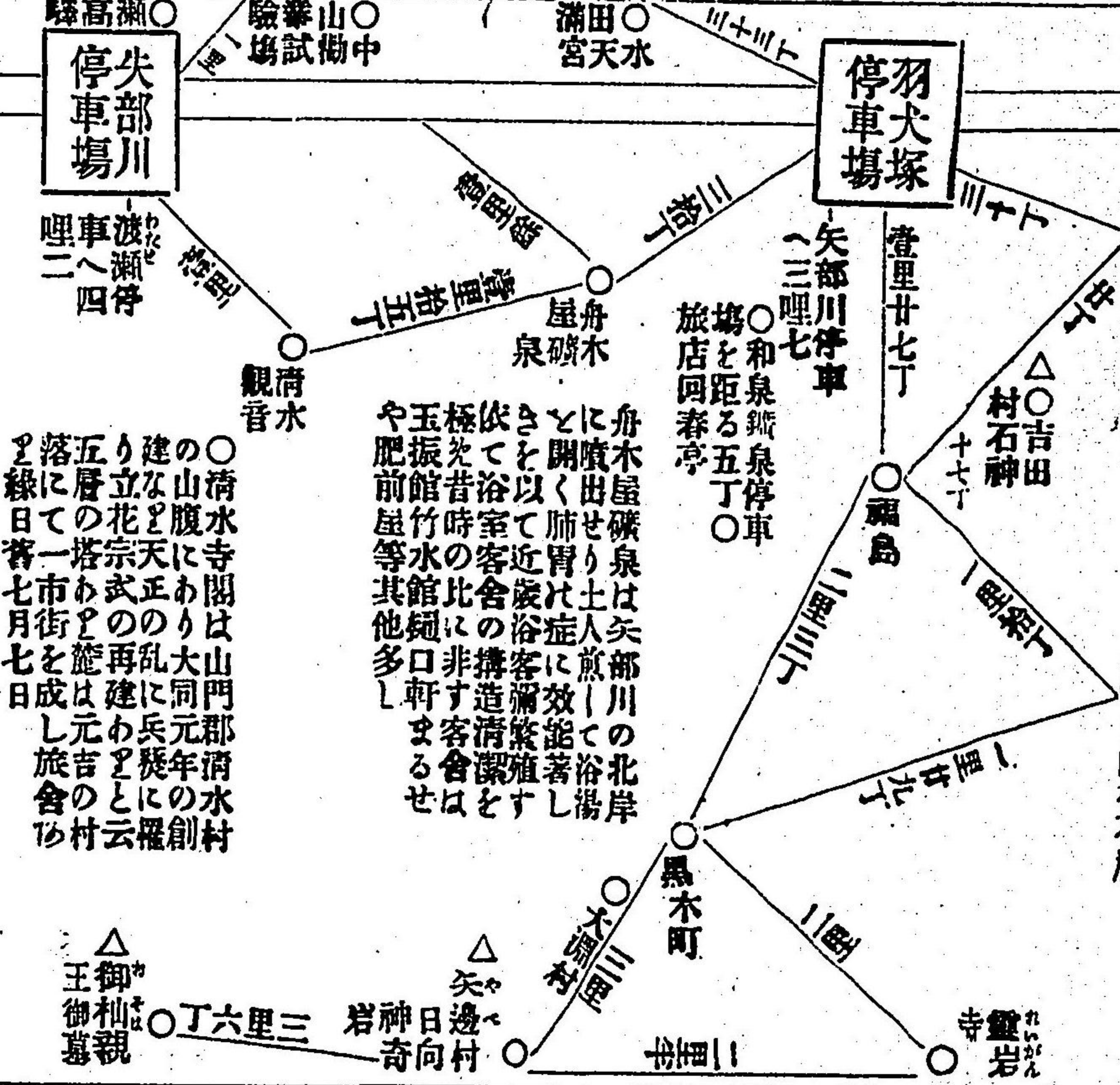
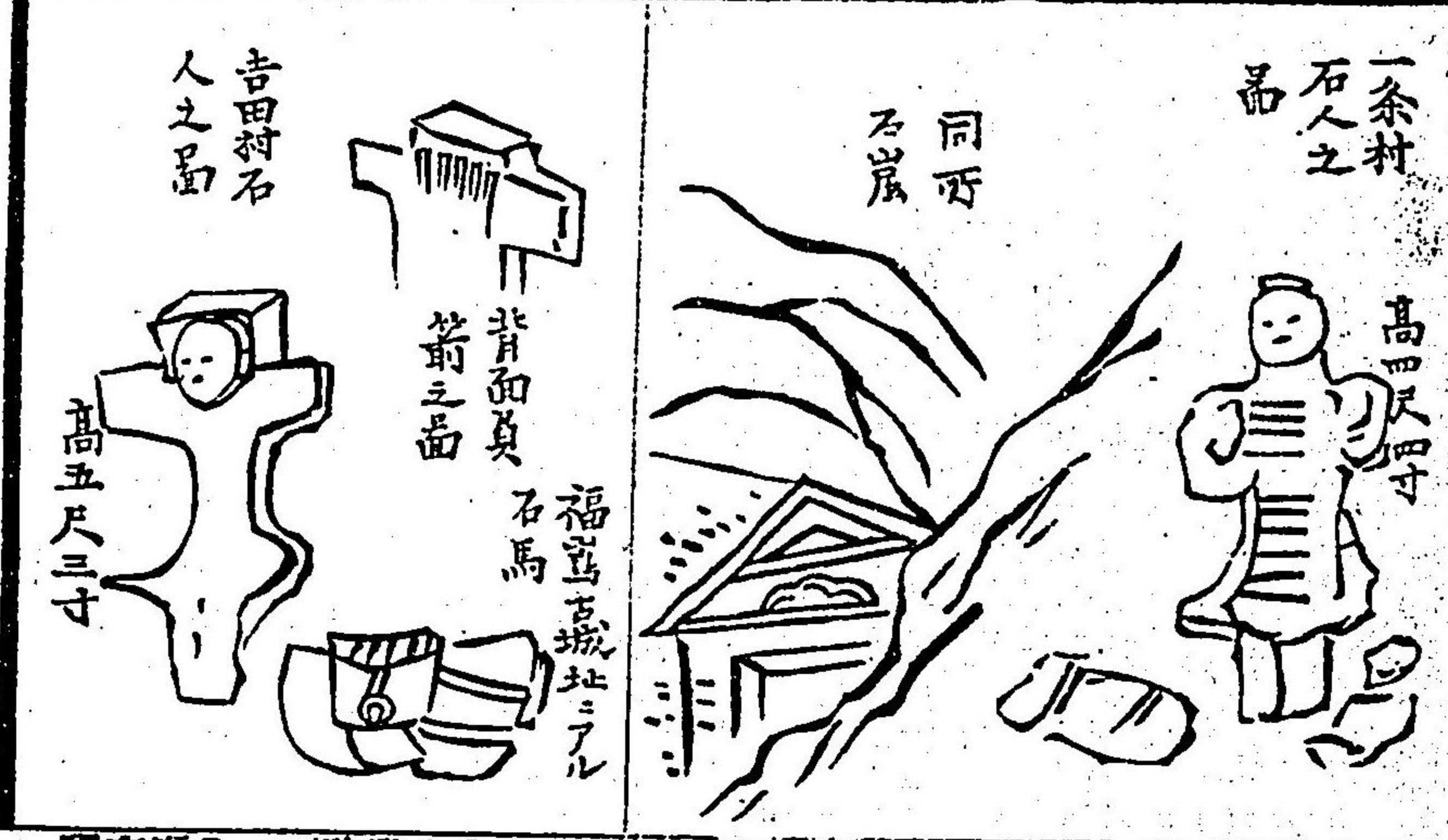
芋扱川  
○國濟卸商六丁目原羊作○全上商高木勝治○吳服和洋反物商原田みち○六丁目乾物太物卸商川原權六○和洋紡績糸商牛嶋猪兵衛○七丁目樟腦卸商永武龜治○七丁目漆商弓削治助○各煙草製造橋本惣平○四丁目陶器商中川保藏○七丁目米穀商吉光宗平○四丁目清酒釀造古屋庄三郎○全上三根芳太郎○全上平田正藏○二丁目旅人宿屋松村覺太郎

米屋町  
○和洋紡績綿糸商并千歲綿製造販賣秋山松治郎○金文書籍商菊竹儀平○蠟籠堂書籍商小柳幸治郎  
○和洋反物卸商并樟腦生糸商菊竹文右衛門○綿石米穀商大石卯平○綿石油商松本紋治郎  
○各食塩商近藤武平○各煙草製造并煙草仲買福嶋彦平○全上製造并全上佐藤林右衛門○船積荷取扱所城島條太郎

瀬の下町

各町の分  
○諸金物打細工町又物商日高常治郎○全上商秋山勘七○鍛冶屋町漆器商并ワッブ藤吉吉藏○各煙草製造庄嶋町井上敬太○國産生蠟製造卸商山下安平○鍛冶屋町陶器商秋山吉兵衛○生蠟問屋草場市治郎○全上商橋本伊三郎○田町塩魚乾物商田中甚助○細工町塩魚乾物商三丁目佐田茂助○國産鋸製造原古賀町青木五郎○全上製造今木下喜一郎○新鮮魚蒲鉾製造商細工安永嘉助○國産綉同業組合事務所兩替町三谷有信





○清水寺開は山門郡清水村の山腹にあり大元清の創建なり立花宗武の再建なり元吉の五層の塔あり能成し旅舎の落日暮七月七日

○神野 別荘野 佐賀市に記す 熊本の市に記す

○神崎 神崎 佐賀市に記す 熊本の市に記す

○山 山 長道平如砥。頻年此往還。望中唯有一樹。到底欲無。山。歸翼斜陽外。春人芳。卿間。温仙似。相待。香々露。屏。淡窓。淡窓佛。山肥。前道中。の詩。寶景を。寫入る。妙此。録す。

○梅林寺 停車場の北隣千歳川に懸せり。曹洞派。神刹にして有馬藩主。歴世墳墓の地たり。殿宇莊麗。庭砌。梅樹多。其名に負。りず。雅趣あり。

○此邊村 此邊村 此邊村の遊ふ可きもの頗る多し。就中一。筑後上妻地方の勝區の遊ふ可きもの頗る多し。就中一。條吉田兩村の石神山内村の石窟の如きと好古家の遊に適し日向神の奇巖の如きと文雅の士の好んで遊ぶの地たり。依て左に其巖路の線と畫きて里程を附し且其現狀を略記して遊客の便に供す。

○上妻地方勝區記事

○一條村石神 宇石神原丘上祠堂の中にあり其製簡朴上世の遺物と思わる孰後風土記に所謂筑紫君盤井の遺蹟にして石人石盾各六十枚交陣成行四面に周匝す即是なり云々祠堂の後ろよ石窟あり軒簷の彫刻せし石あり尋常の石窟より異なれど

○吉田村の石神 村内宇盤戸山と稱する丘上に数祠あり祠前又圓の如き石人あり其他林中よ石馬石盾の缺損せるものあり此類往昔は數多ありしり慶長の頃田中吉政郡邑福島よ築城の時塙石の用よ供したる由今仍は城址よ存するもの數個あり別圖の石馬其一なり是亦盤井の遺物なりと云

○福島町 國の中共に位し熊本を通する新國道に接す物産の紙生蠟製茶竹皮蠟燭等にて商肆軒を並ぶ繁榮の市邑たり

○山内村石窟 村の北ある山腹に二個の石窟あり其西なるもの堅凡二丈横壹丈餘深三丈巨石を以て構造し他に希なる石窟なり是より東四五町を經て字童男山と唱ふるあり里俗傳云秦徐福童男を伴ふ愛に藥を尋ぬ故に此名ありと山腹亦石窟あり窟中二個の石棺あり此地曾て知恩院徹定和尚爰よ遊ひ詩あり 徐福居何處尚喚童男郎欲問長

生藥石人默不言。

○黒木町 度屋多し山の東よ神祠あり祠の傍巨大の老藤あり花候よ頗る快觀ありと云

○日向神比奇巖 大淵村の人家を離れて淵畔と称する數丁よ一て山容異狀を呈し奇巖北岸よ羅列す其名金加羅淵曳繩々口かと唱へ一望恍惚殆ど仙境よ遊人の想ひあり又迂回東する數丁よして又男徳女徳馬蹄法螺貝矢櫃弓掛ちを各其形の似たる者を以て名る者の如き又東數丁よして正面蹴破の兩巖あり編蝠溪の南よ時々蹴破の穴口僅よ天と觀る鬼擊神巧其奇名狀す可らき

○御柵良成親王の御墓 矢部村東南の深山にあり御墓之木柵竹柵とを以て二匝し其四圍喬木陰森天を覆へり前一方の淵流に對し深溪の音を聞き良成親王は弘和元中の際八代宮懷良親王に嗣續して西下したまひ肥筑勤王の諸士菊池阿蘇五條等を指揮し皇威挽回と期したまひに當時賊軍強勢終よ征旗を以て束する能はず恨を吞て此深山の中に墓ト給ふ近歳土人御墓所を發見去朝廷より親王の御墓よ定めたまひ御墓守を置れたる ○五條氏の裔孫は大淵村よ在る後醍醐天皇よ賜とす絹旗及び古文書多く藏せり

○鹿子生燈岩寺 寺門の傍ら巖石多く時つ其間陽石と唱へ二三個勃然突起雄々争ふ者の如き其醜狀人として捧腹せしむ寺堂の前観音堂より國內三拾三所の靈場と云

○川邊村 宇中山立花氏勸業試験場 柳川藩藩主立花寛治氏の創設たり氏曾て東京に在り時津田氏の門に就き傍ら内外の菓樹穀菜を試験し數年の後三田育種場補となり爾後任を辭し舊郷柳川に住し此地と下志農業試験場を設けられたり其耕地の廣き此地及柳川舊廓内に在るもの合せて五町七反餘方今時々種苗交換會或の品評會等を設け農事の改良進歩を計ぐる其銳意熱心によつて土人の其澤と被る大など謂ふへ一園内牡丹薔薇等花卉數百種と栽られたり花候よは請ふて觀る者甚多

○大牟田町の肥後の國境に近く國の西南隅に位し海に瀕せり近歲炭礦の業盛あるより此地漕運に便あるを以て俄然一賑地と成れり其繁榮若松港より亞ぐ人口壹万二千七百餘戸數二千七百餘あり物産石炭干貝焦煤

○紡績會社 大牟田町の西邊にあり煉瓦造り數棟相駢び窺突空を刺して麗

社長大村務

○旅人宿山鹿屋 山川屋

○料理店有明館

○警察署○郵便局あり

矢部川  
つつき

○高瀬驛は停車場の西數丁より矢部川の分流其中央を貫注し山門郡般賑の驛邑なり

○柳川町 停車場より壹里卅町許國の西部平野に位置し筑紫海に瀕して矢部川の分流市街内に縱横し稍舟楫の便を得たり其繁榮國內久留米に亞ぐ産物絹綿織物生糸線香等なり人口七千九百餘戸數千四百餘福岡市と距る拾六里三拾四丁

○三柱神社柳川町の東邊高畑村に在り舊藩主立花氏の靈を祀る社宇崇美花木泉池あり境内又維新の際王事に戰死者の靈を祀るあり祭典舊八月十五日此地柳川町の公園とし酒樓茶肆あり

渡瀨  
停車場

○舊城南方本城町に在り永錄年間三浦郡浦池城主浦池鑑成始て之を築き後天正の頃立花宗茂之に徙り歴世城主たり領邑拾壹萬九千六百石明治五年牙

○此邊南望温泉岳秀時

大牟田  
停車場

○此邊肥前多良見正を

○三池の一里

○築後界

○此邊海汀温泉岳に對し風景佳絶唯憾らるるは墳石累累眼を遮り殺風景をさせり

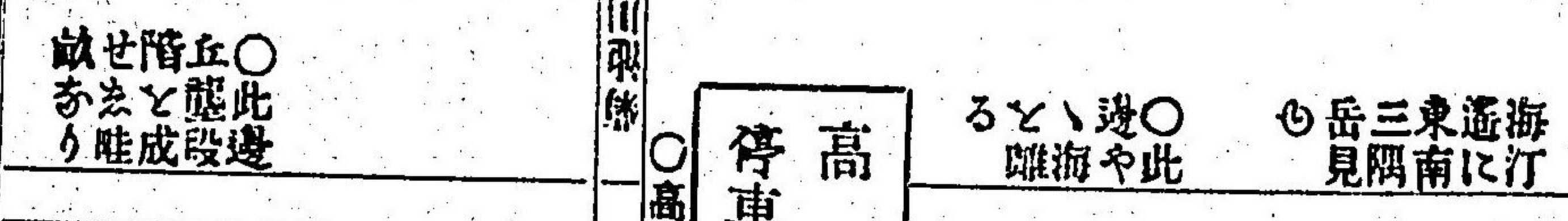
○大牟田三炭礦其最大ある者を七浦と云此地にある一晝夜の探炭六百噸と云其次を宮の浦と云高五百噸七浦より剛に如く鐵道と設け日夕盛に大牟田海邊に運輸せり次之大浦なり此探炭礦四百噸馬車鐵道にて大牟田に運輸せり

長洲  
停車場

○肥後玉名郡長洲市街の停車場と距る三四丁是より肥前島原に海上七里常に渡船あり

○旅人宿及船間屋長尾茂吉

○高瀬停車場より東南三の岳の雄嶺を對す山腹に小はすの村家見えて歴々し蜜柑の物産地あるを以て富を成せしと云其南方山麓は有名なる河内蜜柑の産地あり○鷺野及び立願寺の温泉高瀬驛と距る三丁餘

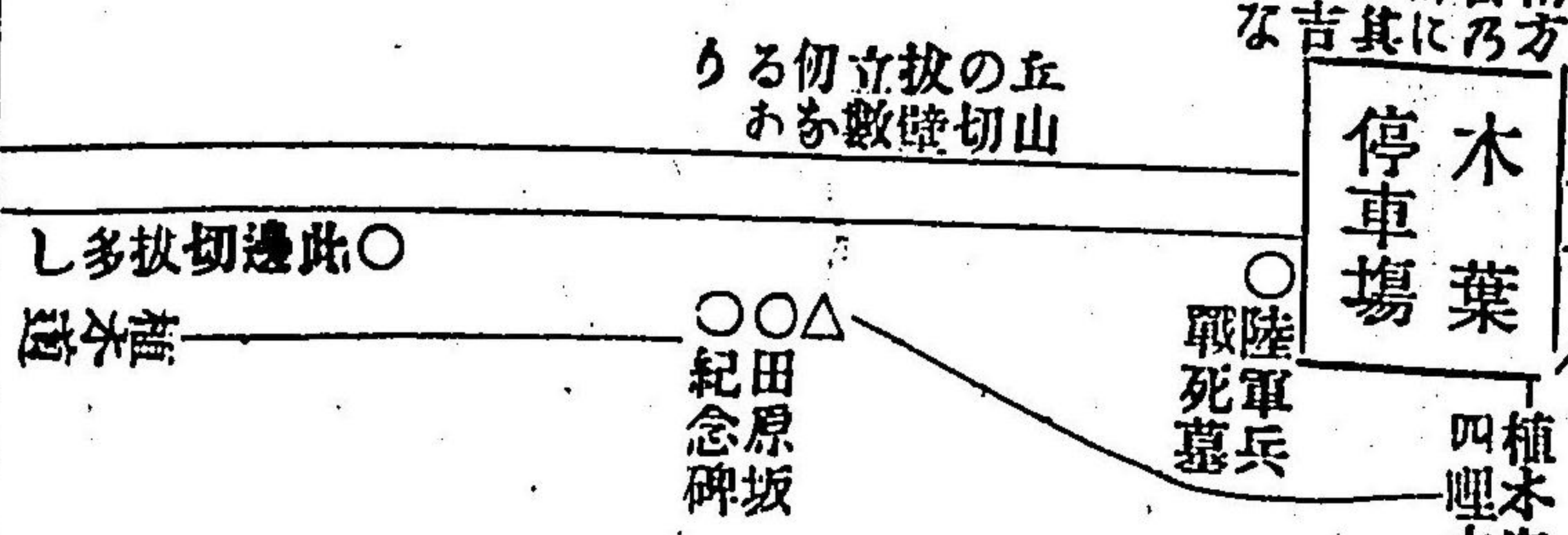


○四王子神社長洲驛の中央に在り社内より蛇除け緒除けと稱する神符と出す請ふ者多々  
○高瀬の東肥西北の隅に位し市坊の町池川の北畔に駢列す熊本より三池及南關を通する官道筋にて近郷諸邑の繁華市場たり人口三千九百餘戸數七百餘物産穀類  
○警察署○郡役所○區裁判所○憲兵屯所○郵便電信局○直間稅分署等なり  
○第九國立銀行○肥後國產會社○書籍開明堂浦田伊平○吳服商米屋浦田安治。全商菓子屋江口藤三郎○和洋藥種商三原孫平○全上商荒木辰三郎○米穀輸出商中島安太○全上商毛利昌平○全上商猿渡源十郎○惣魚商磯部喜一部○和洋小間物商荒木又十郎○全上商吉田要平

是より軌道熊本の遠なる迄巨陵の堀割多く鬱々ある地底を過るかと思へば豁然日影を觀るあり

○木の葉驛と一條の市街なり屋瓦及び木葉檜の衝器を製す○木の葉驛の東に峙つ巖山よみて石灰を産す麓に木の葉川流る○山中古城址あり小森田將監之居る天正十七年加藤清正之を抜く○春日神社例祭十月十九日

○田原坂は木葉驛と距る東南壹里許明治十年三月官軍と薩の叛兵と有名なる劇戰の地たり山上紀念碑あり碑高丈餘四圍石垣と環らせり其文に曰く  
鹿兒島縣。於南海一。地最廣人最勇而西鄉隆盛。名望蓋世。至海内人士侯。其進退。以爲安危。明治十年二月隆盛反。 天皇宸 右の下



○怒。發兵討之。熾仁任總督之責。陸軍中將山縣有朋。海軍中將川村純義。爲參軍。賊分兵扼植木山鹿阿道。進入高瀬。廿七日。我軍擊取高瀬。四日。拔木葉。賊退據田原坂之險。而爲木園益密。援路皆絕。夫田原之爲。地兩壁壁立。經路崎嶇。賊悉精銳。築堅壁。咆哮出沒。有如虎狼。要害異形。攻守殊勞。而我軍殊死。不吝晝夜。十有七日。遂拔之。死傷四千餘人。此役也。慶戰前後。數而未。有如下田原之剛也。而此坂而不拔。使賊破南關。而北。則四方不逞之徒。必乘機而起。禍不可測而不。使。其至此。遂速致討滅者。實由此一捷。嗚呼死者之功大矣。而不及見焉。痛哉。因建碑阪上。以記之。蓋所以勸。勵忠烈也。  
明治十三年十月  
陸軍大將大勳位。熾仁親王撰文。并篆額。陸軍省六等出仕。從六位勳五等。秋月新太郎書。篆額。崇烈の二字

田原坂



田原烈戰古來稀  
尤憶精兵斫陣時  
砲響轟雷屍築阜  
劍光閃電血成池  
偏非忠膽屠堅壘  
何讓賊丸污錦旗  
春嶺今朝如一夢  
路傍垂淚讀崇碑

田原坂感懷

竹塲

一  
江  
平  
大  
寫  
畫



田原坂刺殺記

○明治十年二月賊軍の熊本城を圍ひや官軍の北道より來り襲ふ事と懼れ山鹿口高瀬口木留口の三道に兵を分ち官軍を防拒す...

○田原坂賊軍の嶺上本道の左より七本村に至るの間或之懸崖に沿ひ或ハ山腰より胸壁と設け或ハ大道を遮断して溪間に臨みて右邊に連絡せり...

陣を作り銃剣を装して賊の所入に備ふ賊兵亦其備あるを見て引去る此賊軍の先鋒頗る多しと雖も賊軍亦長崎五郎以下戦先者少からず...

○岩戸山熊本市の西方三四里餘金峰山の背に在り一巨巖窟に觀音像と安置し其形巨蛤の唇を開くか如く其深を測る...

植木 池田停車場 五哩四

軍遂に嶺上に迫り遂に築き兩軍對峙其距離甚接近して四五間を過ぎざる者あり或ハ築壘一畝を阻るあり...

に至り唯雄未だ決せず此時接戦距離甚近く彼我銃剣相撃つに至る東京鎮臺兵一隊進進奮撃す...

木葉の 積さ ○山鹿湯町之植木停車場と距る三里餘市況繁賑温泉を以て名有り...

○此邊平 丘白田坂 階と成せ 其巧緻人目を驚かす

○鼓が瀧岩戸の北淵にあり小瀑と雖も其名高し下に阿麻湫あり怪巖層出一奇勝地なり

音に聞くと鼓か瀧とちみればたゞ山川のなるよわりけり

○成講寺池田停車場を距る西方廿町餘柿原村に在り應永年間の草創なり境内老樹奇石多々一遊古刹あると知る

△○本妙寺清正公廟池田

停車場より七丁許

講加藤公廟 淡窓

風帆號入釜山雲。要立平韓第一勳。莫言小西非壯士。啼兒偏畏鬼將軍。

全

寸木難支大厦頽。丹心抵死未嘗灰。遺孤可託眞君子。夙願會參一語來。

倭崎評聞三出雲人藏三公所讀論語云々

○妙解寺花岡山の東麓に在り細川氏奕世の墳塋地たり山中靈祠塔石駢列す方今細川氏邸宅在り

○清水寺北岡神社の北にあり天平年間僧行基和尚の草創本尊と自作の観音なり

○花岡山

○花岡山祇園山とも云市の西南隅に蟠まる孤山なり春日停車場より山上迄三四丁山頂頗る眺望に富む熊本全市の景眼

底にあり山腹に陸軍種田少將及び富岡縣令外數十名の墓あり明治九年神風黨の乱の爲に死す春秋招魂祭事甚賑なり

○鐘懸松 花岡山の中腹西南に在る老松あり加藤清正築城の時役夫をして山中の土を掘り搬運せしむ當時梵鐘と此松に懸け清正自ら撞き鳴し役夫と指揮せしと傳へたり

○阿蘇松 鐘掛松の南峽にある長松なり文禄二年八月加藤清正征韓の時此の松下にて阿蘇大宮司の嫡子惟光齡十二歳の時識者の爲に誅せらる里人憐みて阿蘇殿松と唱へたり墓之市の阿彌陀寺に在りと云

○植木池 植木池田の間處々丘山の掘削を過く軌道變形する者あり

○梓築宮祭神大己貴命外諸神賽詣人多し  
○植木驛の熊本より山鹿と高瀬へ通する岐路にて山本郡の一市場あり停車場より廿町熊本市を距る三里八丁鹿子木町へ壹里山鹿町へ貳里廿八丁

池田 停車場

熊本停車場へ 二哩二

○池田停車場と熊本市の西北の邊熊本停車場の西南の邊に在り車客市中の某地へ趣んと欲する者の巻端市街圖に照合し便利の停車場にて降車すへし

○立田山市の東北半里許に在り山勢北方に連互して樹樹に富む暮秋遊客多し山頂昔時豊臣氏の廟あり加藤氏の遺宮今僅二三の礎石を存す

○泰勝寺立田山の南端にあり細川氏祖先の靈を祀る其西と小峯と云官軍戦死の墳塋あり

熊本 停車場

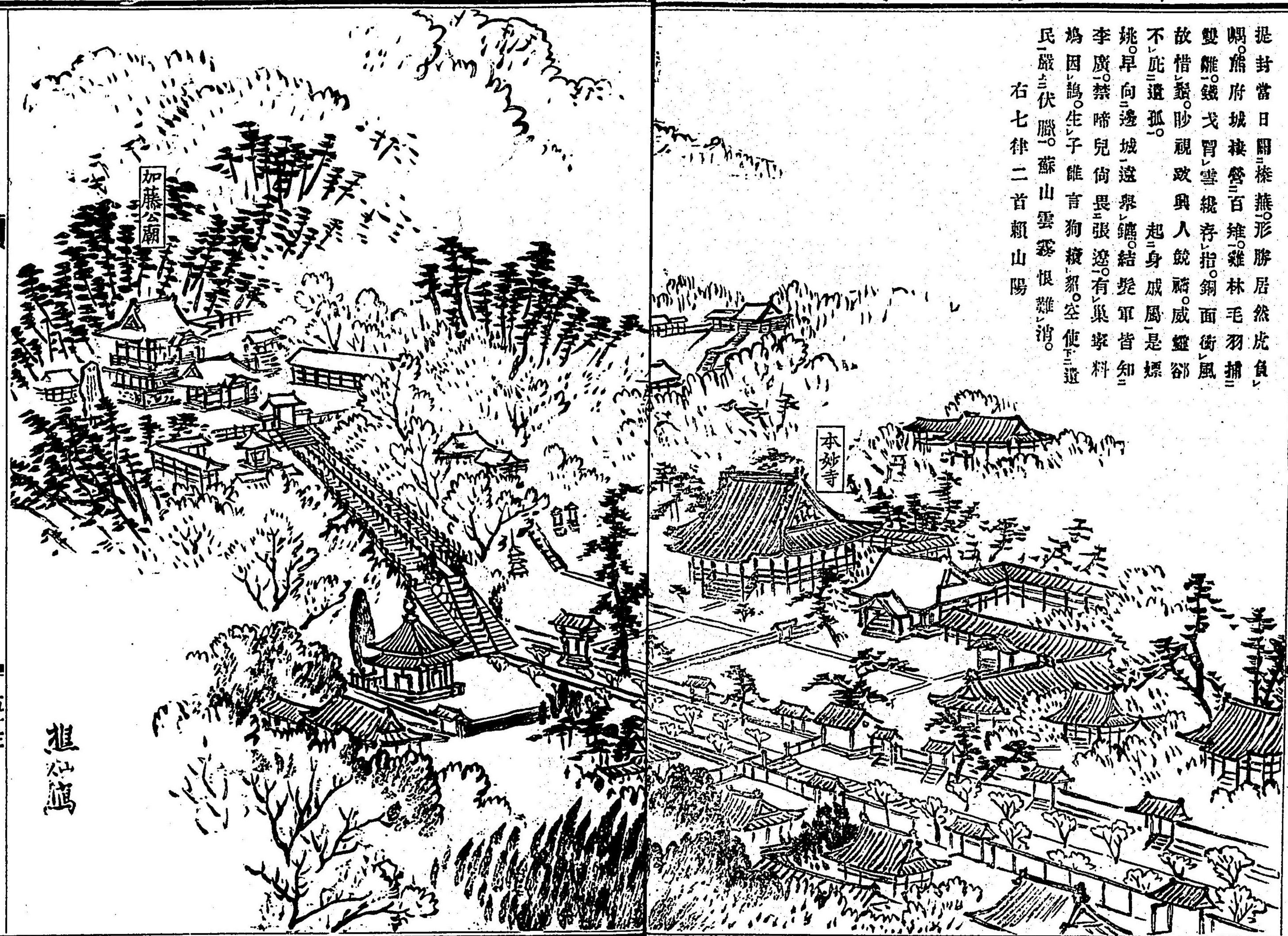
熊本より三角港迄鐵道接続功來廿八年十月と期し但し當分松橋迄なり

○北岡神社縣社なり祭神素盞鳴尊外二柱なり承平年間藤原保昌の勸請よして往昔と山上に祀れり中古爰に遷すと云祭典八月一日

本 妙 寺 清 正 公 之 廟

提封當日關榛蕪。形勝居然虎負  
 隅。熊府城樓營百雉。雞林毛羽捕  
 雙離。鐵戈雪纜存指。銅面銜風  
 故惜髮。眇視政興人競禱。威靈卻  
 不庇遺孤。  
 起身成局是標  
 挑。早向邊城遠舉鑄。結髮軍皆知  
 李廣。禁啼兒尙畏張遼。有巢寧料  
 鳩因鵠生子。誰言狗續貂。空使遺  
 民嚴伏臘。蘇山雲霧恨難消。

右七律二首顧山陽



祖心齋



○加藤公靈廟 飽田郡井芹村字中尾にあり慶長十六年六月十四日加藤清正病に罹り熊本城に於て逝す其嗣忠廣墳廟と爰に建て祀れり石階を夾み數多の酒肆茶店あり階前路傍櫻樹栽に列ね諸寺院あり

○命舊曆 六月廿四日初命日正月廿四日なり千部講毎年春秋一週間に命舊曆宛命日に之の什賣の品諸人に縦覽せしむ參詣人多く大賑あり

○本妙寺 廟前石階の下に在り中尾山又法性山と號す法華宗なり慶長五年大坂の菩提所本妙寺を爰に遷し僧日眞を開基とし壯麗の巨刹なりしも明治十年の役に薩軍の營所となり兵燹に罹り灰燼今再建工事中あり○廟の傍巨碑あり清正入國の後仁政と施し國防と廢し水利を便にしたる功德の多きを贊頌せし長文を彫せり

○廟の南側に大木土佐守及び朝鮮人金官殉死の墓あり

### 熊本市

○熊本市を往古隈本と書せり 加藤清正在城の始に隈を熊に改む隈字之字之を猛獸の熊に改むと云 隈本往昔の國府の地にして今の橋手手永田崎村宮守村邊皆府中の地あり當時在廳屋敷跡其遺址を存すと云

○市街之國の中央西北部に位し白川の巨流市の東南を貫流し西方百貫港と舟楫相通し百貨漕運の便を得たり市坊之舊城と抱きて商況殷賑九州れ中部を占むる大都邑なり市坊一百三拾九人口四万九千六百餘戸數壹万一千九百餘

○熊本舊城 往昔菊池氏の一族山田秀信八拾町の地を領し始て在城す其地を千葉城と云今の城内東北の隅なり大永享録の頃鹿子木親員飽田山本二郡の内五百六拾町を領して移住せり其後城郭狹少なるを以て他に地を下して改築す今城内古城と唱へし地あり親員故有りて其族城親冬に城を授與し他に築き徙る親冬の孫十郎久基の代に至り天正十五年豊臣秀吉討薩の役移り久基退城す秀吉城中に三日滯陣たり同十六年加藤清正と小西行長に各肥後半國宛と賜り領せしむ依て清正之熊本に小西之宇土に在城せり慶長五年關ヶ原の役あり清正之徳川氏に隨ひ小西之石田三成に黨與す是に於て肥後全國清正の領邑となる同六年城の北邊茶臼山の地と相し方今の城壁と築く此年の八月下旬鉄初式あり其頃櫻井素丹と稱へる連歌師清正の側侍りて

熊本石挽まわす茶臼山敵まかどふの城の主あり

同十二年鐵城たる鐵城全く功を竣すと云寛永九年其嗣忠廣羽州庄内に配流依て本國を細川忠利に賜る同年十二月忠利豊前中津より移城して封邑五拾四萬石を領し累世城主たり明治四年廢藩置縣空城となる全六年全國に六鎮臺を置かる熊本城之其一にして第六師團の軍營たり

○加藤家表亡記事 慶長十六年六月廿四日清正番五拾歳にて城中に卒す二男忠廣嗣ぐ元和元年大坂の役あり忠廣の元老加藤正次及び外甥玉目丹波等密に軍糧を大坂城に漕運す事既に泄る同四年八月忠廣の大加藤正下方下川元直等連署して加藤正次等大坂に黨與するの罪を徳川家に訴ふ是に於て加藤正次玉目丹波等三拾貳人を江戸城に召喚し詰問せり丹波辭屈て答解する能はず依て正次等死刑或の流罪に處せられ忠廣の幼穉にして情を知らざるを以て宥さる爾後十七年と經寛永九年六月忠廣の酒井忠勝に預けられ羽州庄内へ配流して糶米一萬石と賜ふ云々

○明治九年十月敬神黨の亂あり同月廿四日夜本縣人浦橋記大野鐵平高津連喜等黨與二百餘人を聚火を放ちて鎮營の不意と襲ひ陸軍少將種田政明之に死す其他傷を負ふもの二百餘人此夜又縣令安岡良亮小關敬直の寓居と襲ひ良亮敬直負傷して後遂に死す續て縣廳に迫る官吏青木安弘以下數人之に死す翌廿五日鎮營兵討て之と平々大野鐵平等之に死し餘黨或の自首し或の逃亡して鎮靜せり

原坂等の賊邊危く山鹿高瀬方面の官軍漸く近き又松橋宇土の地方より之黒田參軍高島少將等の率ゐたる海軍兵其背に迫り其他阿蘇大津三岳等の諸道より官軍の迫り来るを以て防兵を諸方に配置するに至り兵員寡乏國兵を減せざるを得ず西郷桐野等大に憂慮し本營に會議して赤井々々兩川の氷と城西に據る城兵をして出る能わざらしめ國兵を減せるの一策を案し即ち群夫と使して春日村石塘口と堰留たり果して城西萬頃の田沼湖の如し是り城西寂然砲響を絶つて城兵亦藉りて防を寬にするを得たり此時城中酒及牛豚の肉既ふ食し盡し糧亦乏しきを告ぐ依て日又援軍の至るを俟つ然るに七本植木等の賊尙強固取て官軍をして城下に近らしめす城中困迫一日四回の針食をして三回となし俗吏の日に粥を給する二回も減せ然り而して兵氣少も機を戦暇に兵卒等城壁に上り賊と舌戦を試み或は鼓を鳴し高歌して戯れ以て餘希あると示せり將校之兵卒と艱苦を俱に一戰具を製し砲藥を調一夜之兵卒竊に城外に出食物を搜索す豆麥の類を獲れば豆腐飴等を製し以て糧食を節減す是に於て將校相會し突出して宇土方面の軍を合せん事を議す時に砲聲の遙き其地方に轟くを聞き背後の援軍既ふ近きを知り其議を中止す七日に至り遂に其議を決し拂隨與中佐竊に城と出て安政橋より至り賊兵の不

理め終に敵の標准とあるを愛ひ天主閣と唱へし層樓を焚燒し其餘船艇を城東數百戸の市坊に及ぶ是に於て兵士籠城の志氣固結し勢威大に震へり各城中守る處と部署し參謀に之兒玉中佐之に任じ其他與倉中佐與中佐隈岡大尉大迫大尉等の々々其部下を率ゐて要害に就く此時城下の騷擾潮の湧が若く老幼之眺脚相提挈し壯士之家具と負擔して郊外に遁走と其慘醜名狀をそへらるす陸軍歩兵七大隊砲兵一大隊桐野利秋藤原國幹村田新八淵邊高瀬池上四郎永山彌一郎樺山久兵衛等將となり牧師西郷隆盛の別府晋助と俱に第三陣にありと云惣員壹萬六千人熊本に達と藤原之先城西の要勝たる段山を奪る之に據る廿二日早辰より惣軍一齊に城を圍ひ別府晋介西郷小平等の京町口より進み池上四郎永山彌一郎の榎崎本妙寺方面より桐野邊見村田等安巳橋方面より池邊等之廣橋の南岸より向ひ西郷の川尻に本營を据る軍門に大元帥の勝と掲げたり其兵勢雲霞の如く日夕攻圍斷無く砲聲萬雷を轟かし硝煙空を蔽ふ就中花岡山段山の砲臺を築き巨砲を据破裂丸を城内に俯射す城兵其防禦に苦しみ觀る者亦皆膽を寒すと云然り而して城兵力拒兵勢も挫け是に於て容易に拔く能わざるを知り攻城を中止し國兵を分て高瀬山鹿岡道に發せしめ官軍の來勢を抗拒す此方對壘數日四月中旬に至り田

意を擊破し轉戦血路を開き宇土に達す此際黒田參軍高嶋中將と地理巡按のた本原山に上り遙に郊外を望み一隊兵の來り近くあり急に候騎を令して敵をひ還り報じて曰く是れ敵に非ず與少佐城を出て圍を潰して來るなりと參軍其他大に悦び急進山を下り本營に同行す諸將其勢を慰め且争て城中の近狀を問ふ少佐具に彈藥及び糧食飲之等の事を以て答ふ此に於て十日を期し諸將進軍を議し其向ふ所と部署す此時に當り北方植木鳥巢三岳等の戰官軍連捷賊勢日に衰縮と城兵亦固く守つて屈せず宇土地方の官軍亦漸く近く逼り其背を衝賊三面に敵を受け終に支え難きを慮り虛勢を示し其機に乗じ機に軍を收め退んと欲し銃砲連發迅雷を轟かす終に圍を解き木山大津の地方に退く城兵の賊の砲聲酷た激烈なるを以て思ふに是必ず賊兵死を決して攻撃し一舉に城を拔んと欲るなりと城兵亦必死奮勇防戦せり須臾にして賊の砲聲次第に衰寂然聲を絶つ城兵猶賊乃圍を解くを知らず甚其動靜を訝り益守備を嚴にす少馬一隊兵の來り近くを見る以謂賊兵再來るなり急に令と傳へ砲口を裝す時に一騎挺進して城門に近く大聲呼で曰く我は山川中佐なり誤て砲射する勿れと令旗を揚て之を示す是に於て城兵始て賊軍の退去するを知り急進門を開て城中に伴ふ滿城欣躍の聲地を動かし此日與少佐亦

熊

木

城

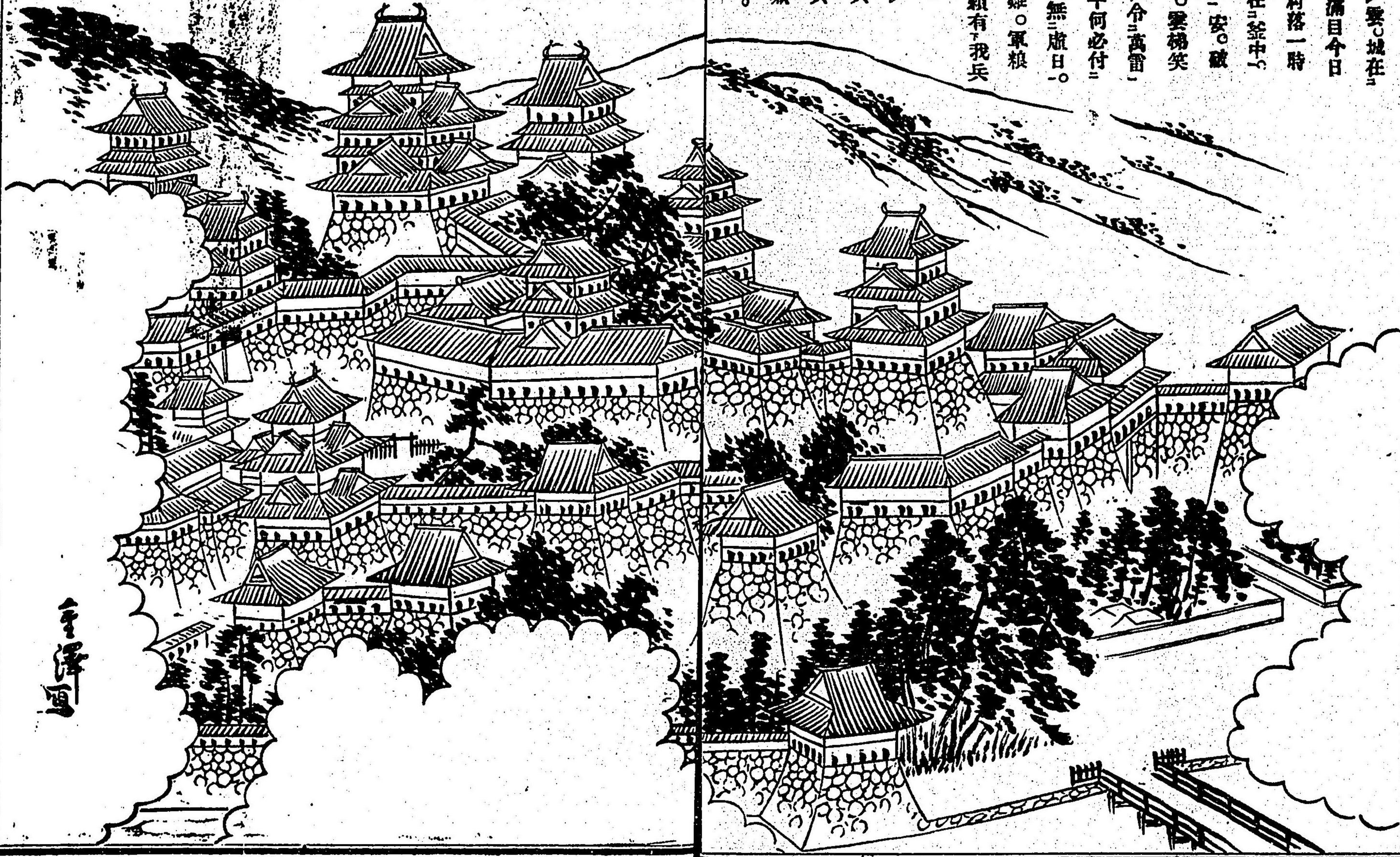
圖

四面皆賊。如雲。城在  
 雲中。紛々分。滿目今日  
 具火國。市齊村落一時  
 焚。城兵如魚在釜中。  
 城將心居泰山。安。破  
 裂瓦飛。裂。雲梯笑  
 渠學。魯般。忽令。高雷  
 發。自地。火牛何必付  
 田單。六十日間無。虛日。  
 攻守一日。幾艱難。軍糧  
 如如山亦盡。賴有我兵  
 力未。殫。雖  
 力未。殫。色欲  
 菜。千。絕。兵  
 氣酸。都督大兵  
 知在近。吶喊  
 聲隔一山聞。

城兵驚地出擊  
 賊。賊軍敗走如  
 倒瀾。嗚呼日本  
 國中已無城。  
 唯有此城。遷  
 賊氣。守城者  
 誰谷千城。築  
 城者是當年鬼  
 將軍。

右錄。借五

岳胸本城



前軍に在り追搦賊を破る兵と收て城に入る十九  
日本留植木鳥栖の賊兵自ら營を火し退く。偵知尾  
撃之と敗る賊敢て抗せず官軍進んで熊本を破る。城の  
壘址を見る。器械糧食一物を遺さず人皆其退軍の功  
妙と賞す。此日片岡侍從城に入り敵首を宣し將士を慰  
勞し物と賜ふこと差有り。

○錦山神社 縣社 舊城の北方京町に在り加藤清正の靈  
と祀る古來本妙寺の佛祭よて此地近時の神祭あり境内  
清淨嘉樹多し碑あり安井息軒の撰する文と彫せり曰く  
天地之間至大至剛物能莫之屈一經千載一而愈盛者夫唯  
忠正之氣歟。例祭六月廿四日

○官軍紀念碑 城內法華坂下あり園内嘉樹珍卉多く風趣洒然たり中より方形の巨碑を建つ佐賀台灣  
鹿兒嶋熊本等の役を戦死せる官軍兵士の姓名を列載せり又其側碑あり谷干城の撰文なり

○櫻山紀念碑 市の東方大津街道の北側黒髪村に在り熊本同志會の創設よて敬神黨戦死者の爲に建  
立せる巨碑なり

○蓮臺寺 春日停車場と距る南方拾三丁許白川の許に在り境内檜垣の墓と唱へ五輪塔及び女の汲た  
る古跡ありとて廢井あり○檜垣集註に肥後遊女檜垣とあり其壯なる頃、京師にありて秀逸の名高  
し老後落魄して暫く太宰府にも住しと見へたり清原元輔肥後の國司たりし時彼女を逢て倭歌を詠せ  
し事あり老後三輪組の歌を詠じ古隈府中白川邊に住せり云々 老はてし頭の髪は白川のまつわくひ  
まで成ふけるかな

○出水神社 縣社 市の東郊出水村にあり池田停車場より一里餘舊藩主細  
川氏祖先の靈を祀る

○成趣園 神社の前を在り舊藩主細川氏の別荘として往年水善寺御茶屋と唱へし所なり風景を以  
て其名諸方と喚がし境内静閑よして冷泉沸騰し流して池とあり流れて川となる多少の假山の參差  
起伏苔草蘆を覆が如し其際嘉樹奇石風致を粧する趣を成り果して園の名を負かざるを知る池畔  
數椽の茶肆旗亭あり平素遊客の多きと知るに足る同所の南に沙取町なり一小市を成し餅及び餅の  
名産なり

○江津湖 出水の下流潑潑する所よて沙取より三拾丁許江津村に在  
り昔時藩主遊漁の地よて沿湖の如し故に此名あり周囲堂里半中よ  
小嶼あり夏月納涼よ適す村家よ貸舟あり

○不知火 中嶋廣足不知考云八代郡海上に火出づ故に火國の稱あり  
毎年陰曆七月晦夕夜半過る頃より二三里沖に始先一二點を現そ俗に  
是を親火と云次第數増りて曉近く成りて海上二三里も連り宛も星  
羅の如く甚奇觀あり方今鉄道接續地たる松橋の山々好觀地なりと云

水前寺成趣園之景



熊本市諸官衙

○第六師團營城○衛戍病院の丸全上二○憲兵本部千葉○大隊區署坂安○縣廳千反○市役所全○警察署全○巡查教習所全○直間稅分署全○縣會議場全○測候所全○地方裁判所京○同區裁判所全○郵便電信局洗馬○大林區署古城○監獄署敷の内

各學校

○第五高等中學市の東北黒髮村に在り○有進學校坪井町全上校○尋師範學校敷の内○九州學院本部千反畑に在り其内普通科高田原に在り文學部敷の内○上校豫備門町○鎮西學林井内坪長院内に在り曹洞○東亞學館全上に在り全上○文學精舎北千反畑に在り自由○英學校大江宗の校舎なり○西京同志社の支○尙綱女學校高田原に在り女子中○各附屬學校文學附屬校の南千反畑に在り○商業夜學校古米町○貧兒寮内坪井に在り教育の側手工を成さし先幾分の食料を充つ

各場社

○熊私立病院敷の内○山練兵場山崎○瀧鹿練兵場北藤郡○工兵營全○借行社城内に在り各將校○鎮西館上通町にあり庭内清潔○志吾社新町電信丁にあり諸料と○朝市場明八橋路日魚類野菜を兩所に○競商場東唐人町に在り正札付に○勸買場坪井米屋町に○鑄造所二所託摩郡本莊村○劇場東雲座東阿彌陀寺町に在り○全上末廣社川端町○全上招樂社淨行他田郡久末村○遺址と以て名あり

○馬車取扱所上千反畑に在り毎日熊本○全上上通二丁目に在り毎日○硝子製造場中職り○全上明十橋熊本三角間を往返す

新聞社 活版業 寫眞師

○九州日々新聞社上通五○九州新聞社米屋町○活版業細流舎本町○熊活版舎古城○全龜齡堂洗馬○全汲古堂新町○寫眞師富重橋通○全猿木○全上村下通

諸商店 紺屋町

○吳服和洋反物卸商八木勝治郎○本物笠類卸商栗原伊八○全上商吉井右角○疊表商洋傘疊表類○洋紡織系卸商一丁目増田善治郎○和洋小間物商西田利七○陶器商全光島傳治郎○國産編織類和洋紡織系卸商一丁目増田善治郎○和洋小間物商西田利七○陶器商全鳥井嘉十郎○古着商全興山又太郎○旅人宿原田慶治郎

鍛冶屋町

○洋反物商八ッ木仁八○服反物商兼洋服石坂清四郎○時計商牛島宗五郎○諸金物商小寺平八○吳服太物商由川萬藏○船小間物商廣岡清藏○船小間物商内山勝太郎○和洋傘荒物商光永仁一郎○生臘燭燭附製造販賣松倉治助○全種製造販賣清見源八

唐人町

○洋反物太物商限部治平中唐人町 ○小間物商千馬鼠太郎 ○硝子物商清永宇藏 ○諸紙  
商清永茂八全丁 ○蠟燭製附全丁 ○油種油製造販賣平井茂八全丁 ○國煙草製造米村武八全丁 ○墨表商清永猪太  
郎 ○和藥種商并繪具中唐人尾崎榮治郎 ○和吳服反物商河野文治郎

○吳服町  
○精良素麵製造販賣永田伊平三丁目三輪屋 ○醬油釀造正木七太郎 ○國煙草製造魚住伊吉 ○太  
物木綿商和田太平全丁 ○和藥種商并醫科理化學用器械藥二丁目 早川宇太郎

○米屋町  
○醬油釀造市原秀太郎 ○酒類商岡崎暢樹店 ○諸物委託問中原平三郎 ○漁船荷客取  
扱所末極全丁 高嶋治郎吉

○古川町  
○吳服反物商合志長治郎 ○吳服太物商速水彌七郎 ○諸金物商市原勝次郎 ○陶器商  
岩井儀三郎 ○古大物商德永平治郎 ○荷主宿高橋忠平

○細工町  
○吳服反物商豐永庄三郎 ○和砂糖商田瀬嘉市 ○紙商齋藤新三郎支店 ○金物商金永  
銀藏 ○清酒釀造林田久五郎 ○酒類商齊藤新三郎 ○全上商長尾寅熊 ○船荷客取  
扱所并荷爲替取扱 木崎健太郎 ○精蒲鉾商吉尾吉太郎

○塩屋町 ○萬町  
○紙文具商洗馬橋西詰 吉田爲治 ○時計商迫源治郎 ○酒類商友添多作 ○文具商  
馬橋西詰 丹邊總次郎 ○清酒釀造岡崎暢樹 ○國煙草製造久野友

○迎町  
○牛真珠丸本舖万春寶丁 赤星見壽 ○和吳服反物商大久保權作 ○米輸出商米村嘉兵衛  
○和藥種繪具商病癩丸調劑本舖 黑田重平 ○米輸出商瀨上惠吉 ○醬油釀造玉城常八 ○  
和藥種繪具商各國寶 松田敬太郎 ○和砂糖商四宮龜八

○魚屋町 ○小澤町 ○川原町  
○和藥種商并繪具染料洋酒類各國寶藥 魚屋町一丁目 西尾武平 ○和紙商松村嘉平 ○國煙草  
製造并仲買商 有働林 ○全上商全上垣崎嘉次郎 ○全上商長崎彌作 ○和紙商金澤  
辰治郎 ○諸金物商光島常太郎 ○和藥種繪具商全丁各種寶藥 橋本伊平

○新町  
○和吳服反物商山里利平 ○洋反物商并洋服 賀久治八 ○船小間物商林茂三郎 ○和砂  
糖商山内榮作 ○吳太物商石井次郎 ○諸紙商藤井常次郎 ○清酒釀造木村吉太郎

○書籍商長崎次郎 ○和藥種繪具洋酒商各國賣一丁目  
酒類各國藥種取次并中風 渡邊敬右衛門 ○酒類商一丁目 松本吉藏 ○和藥種商并醫料理化學用  
妙藥烏犀圓本舖一丁目 渡邊敬右衛門 ○酒類商一丁目 松本吉藏 ○和藥種商并醫料理化學用  
高濱龜八 ○和藥種商并醫料理化學用器械繪具染 山田善十郎

○新細工町 ○洗馬町 ○通町 ○京町  
○藥諸毒消丸本舖 新細工町 松花堂 ○旅人宿 洗馬町 本武平 ○旅人宿 製造所 廣瀬傳十  
郎 ○旅人宿 小早川嘉造 ○書籍商 長崎次郎 支店 下通町 組長  
田耕造 ○米輸出商 岡本 次郎 ○全上商 長田彌六 ○全上商 坂本德次郎

○坪井町  
○和吳服反物商 美作常太郎 ○國分煙草製造 渡邊源七 ○酒類商 松本治吉 ○蠟燭製附  
製造 坂本七造 ○國分煙草製造 古庄政吉 ○酒類商 古庄宗七 ○和洋小間物商 塩山仙藏  
○和藥種 繪具各商 延壽湯 調劑本 吉井武三郎 ○諸紙文具商 松村彌三郎

○手取本町 ○明十橋  
○旅人宿 不知火館 ○肥後倉庫會社 ○全米穀市場 ○熊協同回漕店  
○銀行及諸會社  
○第九國立銀行 資金廿五萬圓 頭取 米屋町一丁目 三淵靜逸 ○第一百五國立銀行 資拾三萬圓 頭取 澤村大八 ○熊本銀行

資五萬圓 頭取 中唐人町 河野政治 郎 ○力食社 資四萬四千圓 木綿編業 內坪井和長 財津志滿 記 ○熊養蠶社 資三萬圓 業發  
社 長山田氏 跡 ○熊本木材會社 資五千圓 社長 鈴木良吉 ○向榮社 業甲斐絹ハンカチ 洋社 長  
高木晋 ○內通運會社 支店 明十橋 通 羽野永言 ○外用達會社 支店 米屋町一丁目 吉野詮益 ○電  
燈會社 兼の

○料理店及遊廓

○悅亭山 ○京常樓上 ○都亭 洗馬一丁目 ○靜養軒 下通一丁目 ○東雲 二本木庭園 壯麗 假山の名高し以  
○新玉 ○玉川 ○一樂 ○清川 ○全湊 ○鶯 此以下廿七八戸あり 藝妓九  
拾五人 娼婦四百八拾人と云

○熊本より各地里程

○南方八代町へ拾貳里八丁 ○日奈久温泉場へ拾五里餘 ○西南三角浦へ拾里三町 ○百貫港長崎  
渡場へ西方二里餘 ○阿蘇郡 杖立温泉へ拾八里 ○山鹿温泉へ北方六里 ○朽木温泉へ七里半 ○阿  
噴蘇火山へ東方拾壹里 ○宇土に三里廿二丁 ○熊本市物産 ○穀類 ○刻煙草 ○木綿織 ○絹織  
物 ○生蠟 ○麻苧 ○麥藁帽子以上 ○勺入 養附 ○水善寺海苔 ○迎町 眞珠丸 旅客の土産物にもよし  
○阿蘇山 郡の中央に聳て 山勢 左右に走り 九州の鎮山なり 中岳に大  
池あり 徑り十町餘 深さを數十丈 硫水 沸騰して 常に烟氣を噴出を時あつ  
て 石礫と 飛ぶことあり 熊本より 東方 大津驛より 左折して 登る



○佐賀市

○佐賀市 西肥の東方曠郊の地に位し其繁盛國內第二の都會たり川上川市の西邊に流れ舟楫往來して漕運に便なり三拾餘の市坊あり就中蓮池町白山町柳町吳服町材木町等を以て殷賑の地とす人口貳萬六千四百餘戸數四千八百四拾七〇物産刻煙卿紙樟腦生蠟、舊城市の中央に在り巨濠周匝し喬木繁茂せり往昔龍造寺の經營する所なり慶長五年鍋嶋直茂之に居り三拾五萬七千石を領し歴世城主たり明治維新廢藩の制に依り空城とされり

○神野別莊 市の西北に在り停車場より半里許著濶主鍋島閑叟侯乃開設たり園内清麗川水假山を建て流れる趣を極む川畔に亭舎あり無限青山亭と稱す亭前老藤一架あり亭上遙に天山に巨嶽を望む其西北は香嶽嶺嶺限り無か如し蓋し亭の名此に由ると云其南端に小丘あり楓樹多し春秋の雅遊に適す

○招魂祠 八幡町に西に在り祠前數個は石碑を建て明治初は奥羽の役戦死者の姓名を列記したり○祠の南畔に江藤新平及諸士の紀念碑あり表面に嗚呼諸君子之碑とのを刻し裏面を爲明治七年戦死諸士建之と刻せり其墓は城南郊村の中に在りと云

松原神社縣社松原町に在り停車場を距る八丁許祭神三座中殿は舊藩祖鍋嶋直茂左殿は龍造寺隆信右殿は直茂之裔直正の靈と祭れり春祭四月十日十一日秋祭十月十日十一日祠前名産磁製の華表一個燈二個形皆精巧を極む又祠の傍神苑あり假山泉水雅趣多し



○縣廳<sup>書城</sup> ○警察署<sup>西上</sup> ○始審裁判所<sup>松原</sup> ○治安裁判所<sup>全上</sup> ○市役所<sup>全上</sup> ○郵便  
信局<sup>白山</sup> ○警察署<sup>松原</sup> ○監獄本署<sup>城內</sup> ○尋常中學校<sup>城內</sup> ○尋常師範學校<sup>全上</sup> ○佐賀病院<sup>水ヶ</sup>  
○縣會議事堂<sup>堀端</sup> ○共和館<sup>全上</sup> ○勸工場<sup>池田町</sup> ○勸工場<sup>池田町</sup> ○勸工場<sup>池田町</sup> ○勸工場<sup>池田町</sup>  
○肥筑日報社<sup>松原</sup> ○肥筑日報社<sup>松原</sup> ○肥筑日報社<sup>松原</sup> ○肥筑日報社<sup>松原</sup>

○銀行會社

○第七國立銀行<sup>資八萬圓</sup> ○古賀善平<sup>頭取</sup> ○第六國立銀行<sup>資三拾萬圓</sup> ○中野到明<sup>頭取</sup> ○榮銀行<sup>資拾一</sup>  
○伊丹氏跡<sup>資八萬圓</sup> ○三省銀行<sup>資八萬圓</sup> ○松永彌三郎<sup>社長</sup> ○振業社<sup>資十一萬圓</sup> ○共濟會社<sup>資</sup>  
○大國政社<sup>資二萬三千圓</sup> ○晚成社<sup>資壹萬七千圓</sup> ○松本彌一郎<sup>社長</sup> ○共濟會社<sup>資</sup>  
○成富柳場<sup>資五千圓</sup> ○尙友社<sup>資五千圓</sup> ○江副靖臣<sup>社長</sup> ○精到社<sup>資八千圓</sup> ○西村萬  
○三榮社<sup>資四千圓</sup> ○藤瀨新助<sup>社長</sup> ○書籍會社<sup>資四千圓</sup> ○西村萬  
○諸商 白山町 吳服町 元町

○諸商

○和吳服反物商<sup>白山町</sup> ○洋小間物商<sup>白山町</sup> ○古着商<sup>白山町</sup> ○吉村清藏<sup>白山町</sup> ○和煙草製造<sup>白山町</sup>  
○井手藤治郎<sup>外藥種商</sup> ○大坪正橋<sup>外藥種商</sup> ○和煙草製造<sup>白山町</sup> ○和煙草製造<sup>白山町</sup>

○書籍商

○岡作一<sup>白山町</sup> ○時計商<sup>白山町</sup> ○荷主宿<sup>白山町</sup> ○和吳服反物商<sup>白山町</sup>  
○大串啓助<sup>和吳服反物商</sup> ○山下卯助<sup>和吳服反物商</sup> ○時計商<sup>白山町</sup> ○時計商<sup>白山町</sup>

○柳町

○洋吳服反物商<sup>柳町</sup> ○分煙草製造<sup>柳町</sup> ○和煙草製造<sup>柳町</sup> ○和煙草製造<sup>柳町</sup>  
○洋一粒金調劑本舖<sup>柳町</sup> ○乾物荒物商<sup>柳町</sup> ○分煙草製造<sup>柳町</sup> ○和煙草製造<sup>柳町</sup>

○蓮池町

○洋小間物商<sup>蓮池町</sup> ○大間岩太郎<sup>和煙草製造</sup> ○和煙草製造<sup>蓮池町</sup> ○和煙草製造<sup>蓮池町</sup>  
○分煙草製造<sup>蓮池町</sup> ○全上商<sup>蓮池町</sup> ○池田千六<sup>外藥種商</sup> ○外藥種商<sup>蓮池町</sup>

○松原町

○赤松町 ○牛島町 ○水ヶ江町 ○赤松町 ○牛島町 ○水ヶ江町 ○赤松町 ○牛島町  
○赤松町 ○牛島町 ○水ヶ江町 ○赤松町 ○牛島町 ○水ヶ江町 ○赤松町 ○牛島町

九州鐵道旅客便覽 終

○長瀬町 ○道祖元町 ○本庄町  
 ○洋吳服反物卸商并註師品萬屋  
 ○卸商伊丹善五郎○萬金物打及商并尺度賣捌  
 ○鑄物商并紡績本庄町  
 ○八戸町 ○點合町 ○六座町 ○伊勢屋本町  
 ○外藥種商并醫用及理化學器械各國賣藥器具洋八戸町  
 ○舖八村山鹿一郎○全國賣藥大取次  
 ○町判助○樟腦輸出商山田六次○外藥種商并醫用理化學器械各國賣藥器具  
 ○酒釀造佐藤文二○和鐵鋼洋釘商伊勢屋本町  
 ○花月亭本ヶ江町 ○楊柳亭新馬場 ○清蓮亭松原  
 ○佐賀より諸方里程○牛浦へ二里拾七丁餘○柯崎へ八里拾二丁餘同所武雄の名邑にして商肆賑  
 へり温泉は健康に適し浴場完壯且清潔なり佐賀より此地迄鐵道接續の廿八年十二月迄大抵竣功  
 の豫定なりと云○嬉野へ拾二里三丁亦温泉あり其繁榮武雄と伯仲す○有田へ拾壹里廿四丁○鹿  
 嶋へ八里拾丁○小城へ四里

福岡縣福岡市  
 博多上對馬小路  
 旅館  
 晴雲館  
 今任



上圖弊館儀諸方各位の御愛顧に依り  
 繁榮仕候段深く奉感謝候伏て爾後益  
 丁奉誠實を主とし勉強仕候間續々御  
 投宿の榮を賜らん事奉懇祈候弊館者  
 博多第一繁華の市街地たる麹屋町橋  
 口町に隣接致候間萬端御便用に候當  
 地諸名勝御見物も候へ、御不都合無  
 之様注意仕り御案内可申上候

廣告

弊店儀各位の御愛顧を蒙り營業繁榮仕候段深く  
 奉鳴謝候爾來弊店の御投宿の御方に、當地名勝  
 御案内の勿論弊店祖先傳來仕候他に類似なき都  
 府樓の古瓦とも貴覽に供し一層懇切に御款待申  
 上勉強仕候間陸續御投宿之程奉希候

筑前太宰府大町  
 大野屋 手嶋重三郎

森岡書店廣告

私儀東京博文社に於て書籍營業を擔任せし事務と并有余年其中大阪に五ヶ年博多に數年間營業仕候處都合に依り先般森岡書店の名稱を以て獨立營業仕り京坂有名之各出張元と特約と結び専ら書籍新聞雜誌の賣弘に盡力罷在候處幸に江湖諸君の御愛顧に依り盛業に趣き深く奉感謝候向は書に倍し御購求の榮を賜ん事と伏て奉懇祈候

森岡 榮謹白

大阪 朝日新聞 二日午前配達  
 東京 諸新聞 三日午前配達

福博市内 無遞送料

右之通り毎朝瀛車便と以て遞送仕候間直接郵便の分よりも却て早速且廉價にも相成申候將又御注文の書籍の瀛車便を利用し速に御用辨仕候間多少に不拘積々御注文の程偏に奉懇祈候

○弊店營業科目

- 師範學校 教科用書
- 中學修館 參考用書
- 高等小學校 補習科用書
- 全教員檢定用書類
- 法律書醫書實業書類
- 美術書書神史小說類
- 學校用風琴手風琴類
- 學校用理化學器械博物標本類
- 圖書出版印刷製本

三府書籍新聞雜誌特約大賣捌所

福岡市博多 森岡書店

○改書籍新聞雜誌目錄 近刻無料進呈

福岡縣教育本部御編集 教育法規全書一冊

正價 六拾錢

○農家月令 全一冊 正價拾五錢

福岡市博多中嶋町

特約一手販買 森岡書店

東京市京橋區銀座四丁目 大阪市東區備後町四丁目

博聞社 吉岡平助

東京市日本橋區本木町二丁目 京都市寺町通五條上ル

林平次郎 田中治兵衛

三府賣捌所

○九州鐵道旅客便覽冊子中遺漏ノ部

○六丁目興業鐵道各停車場間程哩數

若六折二 中三 植二直三 小五 飯〇直方  
松五二 尾四六 間七七 木二九 方六九 竹五 塚り金田 六三

○卅九丁目三條公手植松記事中方今陶山姓ハ故あり  
祖先の田中姓に復したり松庵亦隱居し其嗣田中義  
雄家政ヲ執れり

○熊本陸軍招魂祭 例年五月六日七日熊本第一の  
賑ひなり

○熊本尋常師範學校 京町本丁に移轉す

明治廿六年八月二十日印刷

同 年同月廿九日發行

福岡市須崎裏町廿四番地

著作兼 發行人 岡部啓五郎

同市下名嶋町五十三番地

印刷者 大隈社 太郎

所有權

各地書肆賣捌所

福岡縣福岡市博多中嶋町

元博文社 森岡書店

同 所全 町

孫落堂 林 斧助

福岡 寶子町

江藤 正澄

熊本縣熊本市新町二丁目

長崎 治郎

同縣高瀬驛本町

開明堂 浦田 伊平

福岡縣久留米市米屋町

金文堂 菊竹 書店

佐賀縣佐賀市白山町

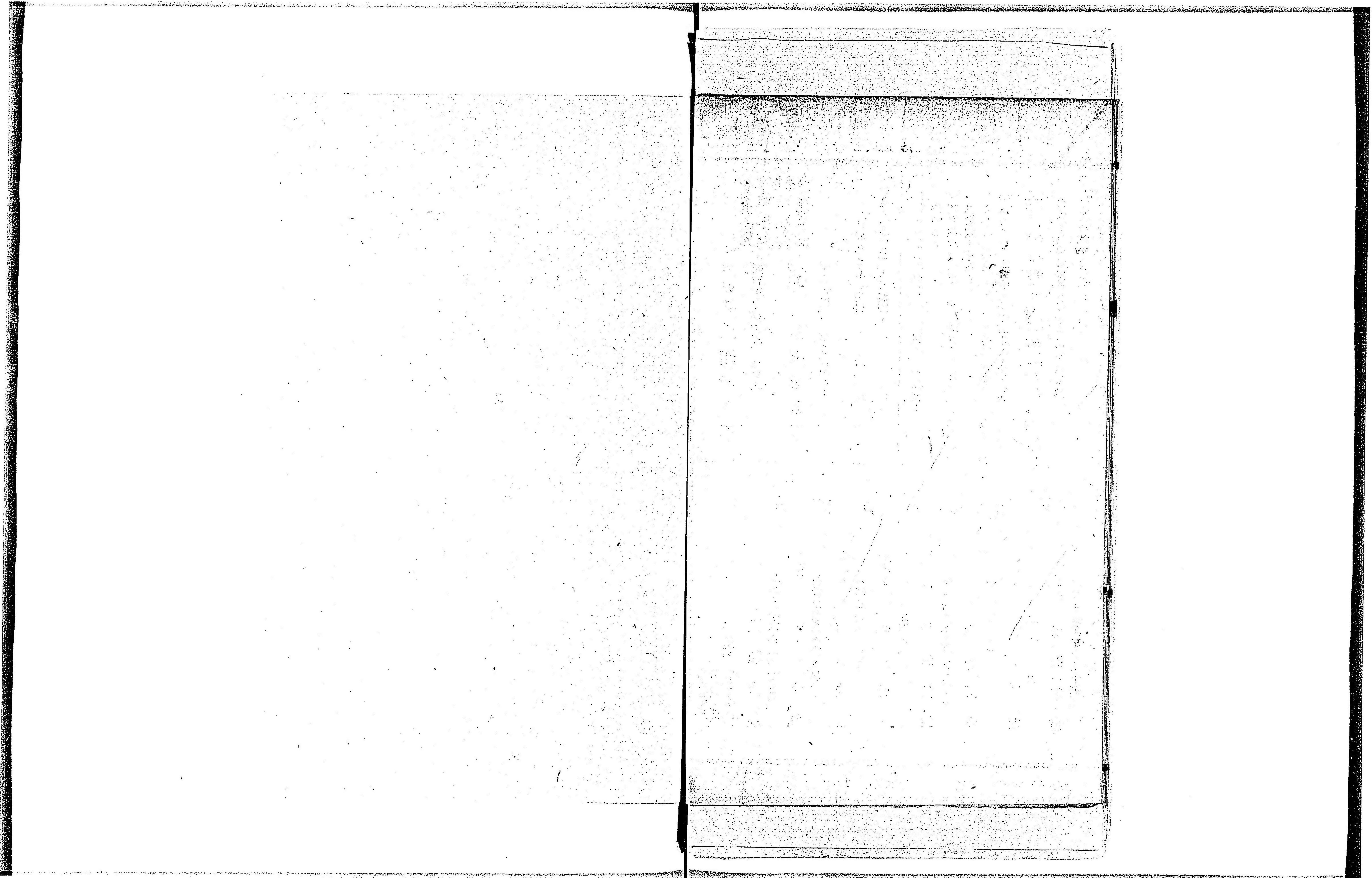
汲古堂 河内 壯助

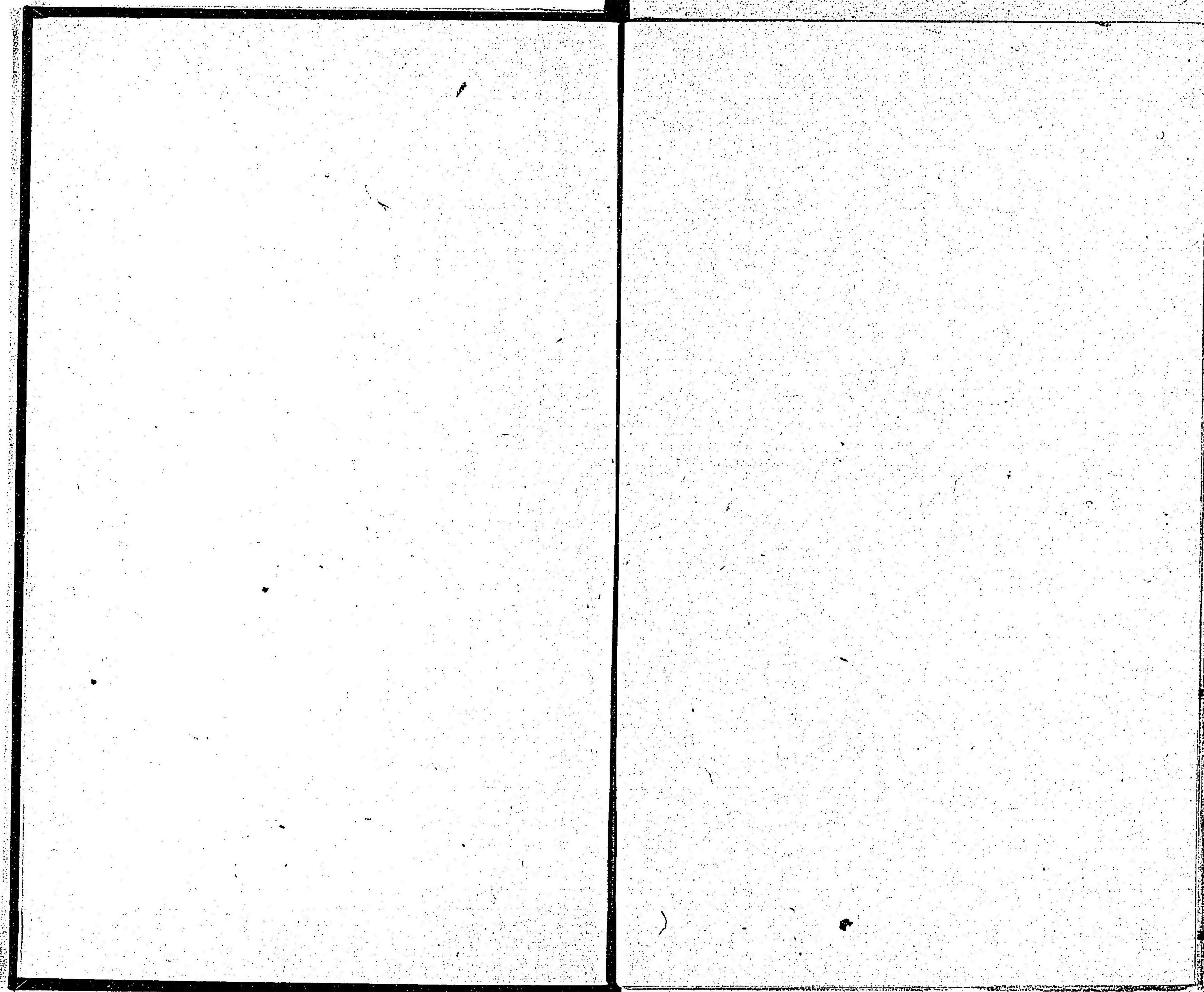
福岡縣小倉町京町一丁目

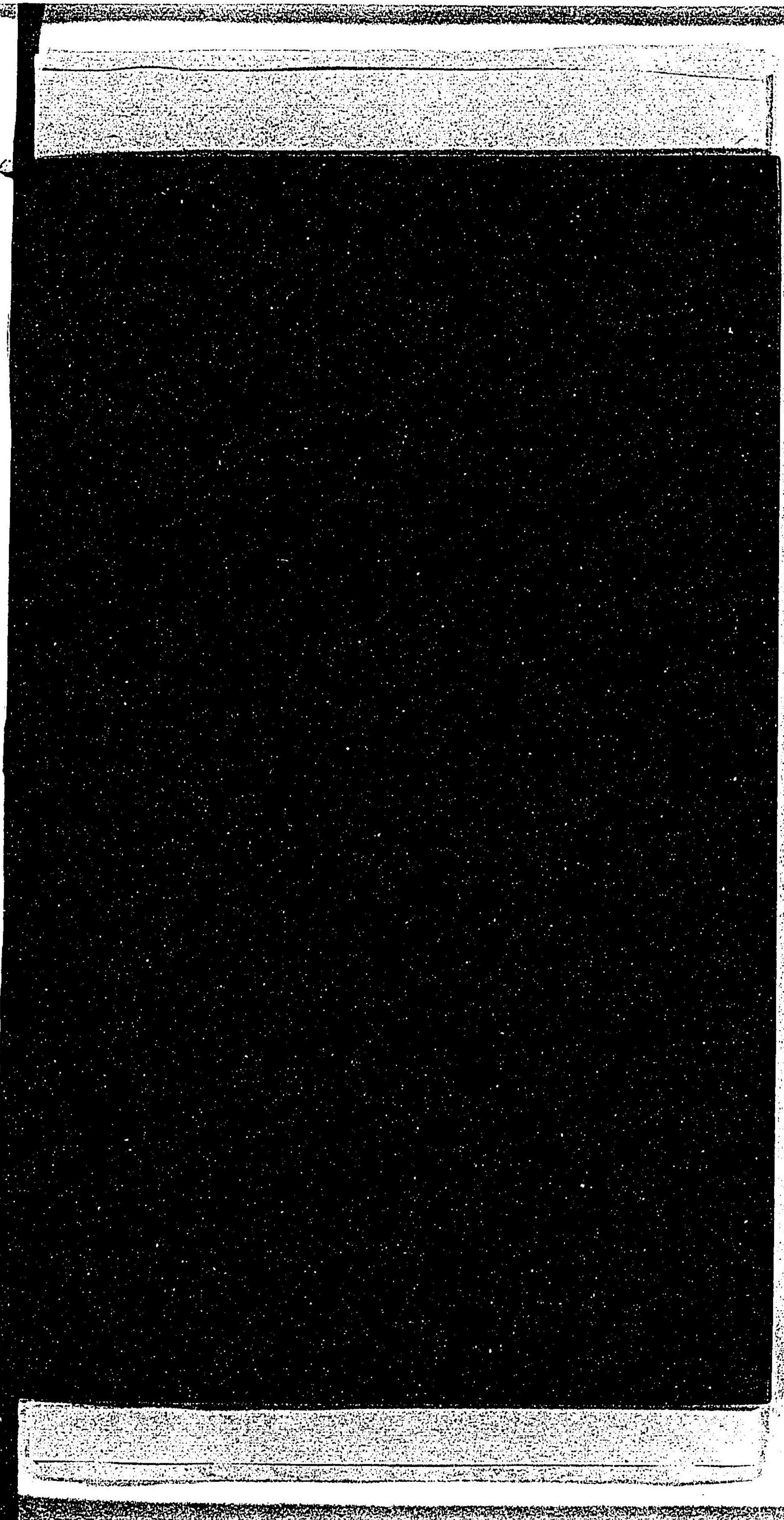
三浦 吉藏

正價金三拾錢

郵券代用承諾  
但登割増









九州鐵道旅客便覽

15  
219

(M)

026186-000-1

15-219

九州鐵道旅客便覽

岡部 啓五郎(六花庵) / 著

M26

ADC-3871

